山形県埋蔵文化財センター調査報告書第129集

泉森窯跡坂ノ下遺跡発掘調査報告書

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

泉森窯跡 坂ノ下遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第129集

2004

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

いずみもりかまあと　さかのしたいせき

泉森窯跡 坂ノ下遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第129集

平成16年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

泉森窯跡 SQ1 最下層遺物出土状況（北から）

瓦葺き方

出土土器集合

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、泉森窯跡と、坂ノ下遺跡の調査成果をまとめたものです。

泉森窯跡と、坂ノ下遺跡は山形県の北西部に位置する酒田市に所在します。酒田市は山形県内を貫流する最上川が日本海に注ぎ込む河口に発展した商業地で、庄内平野からの良質の米穀を日本海で運ぶ北廻船の寄港地としても有名な都市です。また、出羽国府跡として擬定される城輪柵跡が所在する町でもあります。

この度、平成13年度中山間活性化ふれあい支援農道整備事業（飽海中央地区）に伴い、緊急発掘調査を実施しました。

泉森窯跡では、古窯跡１基と土坑１基が検出され、古窯跡には山の斜面を利用し、焼き損じた遺物を捨てた広い部分が確認され、中には当時の食器類や建物の屋根を葺く瓦片が多数出土しました。瓦は、城輪柵跡の政庁域に近い所で出土した瓦と同範で焼かれたもので、出羽国府と言われる城輪柵跡との関連が今後の研究の貴重な資料として得ることができました。また、坂ノ下遺跡では狭い範囲に多数の掘立柱建物跡が確認され、泉森窯跡を営んでいた人々との関係に興味があるところです。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史のなかで創造し、育んできた貴重な国民の財産といえます。この祖先の足跡を学び、祖先へと伝えていくことが、私たちの重要な責務といえます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成16年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　木　村　宰

例　　言

1　本書は、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業（飽海中央地区）に係る泉森窯跡及び坂ノ下遺跡の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、調査説明資料などの内容より優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は山形県農林水産部及び山形県教育庁社会教育課文化財保護室の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　調査要項は以下のとおりである。

遺　跡　名	泉森(いずみもり)窯跡	坂ノ下(さかのした)遺跡
遺跡番号	平成13年度登録	平成13年度登録
所　在　地	山形県酒田市生石字泉森	山形県酒田市生石字坂ノ下
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター 理　事　長　　木村　宰	
受託期間	平成13年７月１日～平成14年3月３１日	
現地調査	平成13年７月14日～９月１日	
整理期間	平成13年８月20日～９月14日	
調査担当者	調査第一課長　　野尻　侃（泉森窯跡調査主任）	
	調査第三課長　　佐藤正俊（坂ノ下遺跡調査主任）	
	主任調査研究員　　伊藤邦弘	
	調　　査　　員　　豊野潤子	
	副　調　査　員　　石垣岳彦	

5　本書の作成、執筆、遺物写真撮影は野尻　侃が担当した。又、巻頭写真の集合写真で、瓦は水戸部秀樹調査研究員が、土器の集合写真は須賀井明子調査員が撮影した。

6　委託業務は下記のとおりである。

航空写真測量　　シン技術コンサル・資料サンプル分析・パリスサーヴェイ

7　出土遺物、調査記録類については、報告書作成終了後すみやかに山形県教育委員会に移管する。

8　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（順不同、敬称略）

山形県農林水産部、山形県庄内総合支庁酒田農村整備課、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、庄内教育事務所、酒田市教育委員会、小野　忍、川島崇史、八幡町教委　大川貴弘、仙台育英高校　渡邉泰伸、山形市教委　須藤英之、致道博物館　酒井英一、鶴岡市教委　真壁　建、佐藤禎宏、富樫泰時、舟木義勝、石郷岡誠一、東北芸術工科大学歴史遺産学科生　藤原英幸・森　秀秋

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下のとおりである。

　　ＳＱ　窯跡　ＳＫ　土坑　ＳＢ　掘立柱建物跡　ＥＢ　建物跡の柱穴

　　ＳＰ　ピット　ＳＸ　そのほかの遺構・性格不明遺構

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

3　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ｘ系（日本測地系）により、高さは海抜高で表す。

4　本文中の遺物番号は、遺物実測図・写真図版ともに共通とした。

5　基本層序および遺構覆土の色調記載については、２００２年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

目　　次

Ⅰ　調査の経緯 ……1
Ⅱ　立地と環境 ……4
Ⅲ　遺跡の概要 ……5
Ⅳ　泉森窯跡 ……6
Ⅴ　遺　　物 ……10
Ⅵ　坂ノ下遺跡 ……45
Ⅶ　考　　察 ……49
報告書抄録 ……巻末

表

表１　出土遺物観察表（蓋）……10
表２　出土遺物観察表（坏・高台付坏・台付皿）……16
表３　出土遺物観察表
（台付皿・横瓶・短頸壷・壷・三耳壷・長頸壷・鍋・甕）……17
表４　出土遺物観察表（甕・小壷・小型甕）……18
表５　出土遺物観察表（ＳＫ２）……30
表６　出土遺物観察表（軒丸瓦）……42
表７　出土遺物観察表（丸瓦）……43
表８　出土遺物観察表（平瓦）……44

図　　版

第１図　遺跡位置図……2
第２図　遺跡概要図……3
第３図　泉森窯跡概要図……3
第４図　泉森窯跡調査概要図……7
第５図　泉森窯跡平面図……8
第６図　ＳＫ２土坑……9
第７図　出土土器（蓋・坏）……11
第８図　出土土器（坏）……12
第９図　出土土器（坏・高台付坏）……13
第10図　出土土器（高台付坏）……14
第11図　出土土器（高台付坏・台付皿）……15
第12図　出土土器（横瓶）……19
第13図　出土土器（短頸壷）……20
第14図　出土土器（三耳瓶・長頸壷）……22
第15図　出土土器（堝・甕）……23
第16図　出土土器（大甕１）……24
第17図　出土土器（大甕２）……25
第18図　出土土器（大甕３・小壷）……26
第19図　出土土器（赤焼土器）……28
第20図　ＳＫ２土坑出土土器……31
第21図　出土瓦（軒丸瓦１）……33
第22図　出土瓦（軒丸瓦２）……34
第23図　出土瓦（瓦頭面）……35
第24図　出土瓦（丸瓦１）……36
第25図　出土瓦（丸瓦２）……37
第26図　出土瓦（丸瓦３）……38
第27図　出土瓦（平瓦１）……39
第28図　出土瓦（平瓦２）……40
第29図　出土瓦（平瓦３）……41
第30図　出土瓦（平瓦４）……42
第31図　坂ノ下遺跡概要図……45
第32図　坂ノ下遺跡遺構配置図……46
第33図　坂ノ下遺跡出土遺物……47

写真図版

巻頭写真１	泉森窯跡最下層出土状況（北から）
巻頭写真２	出土瓦葺き方・出土土器集合
写真図版１	ＳＱ１完堀・断面設置状況・完堀・断面
写真図版２	ＳＱ１完堀・灰原遺物出土状況
写真図版３	調査風景
写真図版４	断面・土器出土状況
写真図版５	最下層・土器出土状況
写真図版６	断面切断状況・完堀
写真図版７	焼成部断面・燃焼部断面
写真図版８	上半部断面・下半部断面
写真図版９	壁面断ち割り
写真図版10	南北断面
写真図版11	灰原断面
写真図版12	調査風景・説明会風景
写真図版13	蓋・坏（１～27）
写真図版14	坏・高台付坏（28～54）
写真図版15	高台付坏・台付皿（55～78）
写真図版16	横瓶（79～86）
写真図版17	短頸壺・三耳壺（87～98）
写真図版18	長頸壺・堝（99～112）
写真図版19	甕・壺（113～120）
写真図版20	壺（121～127）
写真図版21	赤焼土器甕（128～138）
写真図版22	ＳＫ２出土土器（１～13）
写真図版23	軒丸瓦（１～５）
写真図版24	軒丸瓦（１～13）
写真図版25	軒丸瓦（12～25）
写真図版26	丸瓦（26～37）
写真図版27	丸瓦（38～46）
写真図版28	平瓦（48～55）
写真図版29	平瓦（56～63）
写真図版30	坂ノ下遺跡全景・遺構検出状況
写真図版31	坂ノ下遺跡、建物跡検出状況
写真図版32	坂ノ下遺跡出土遺物

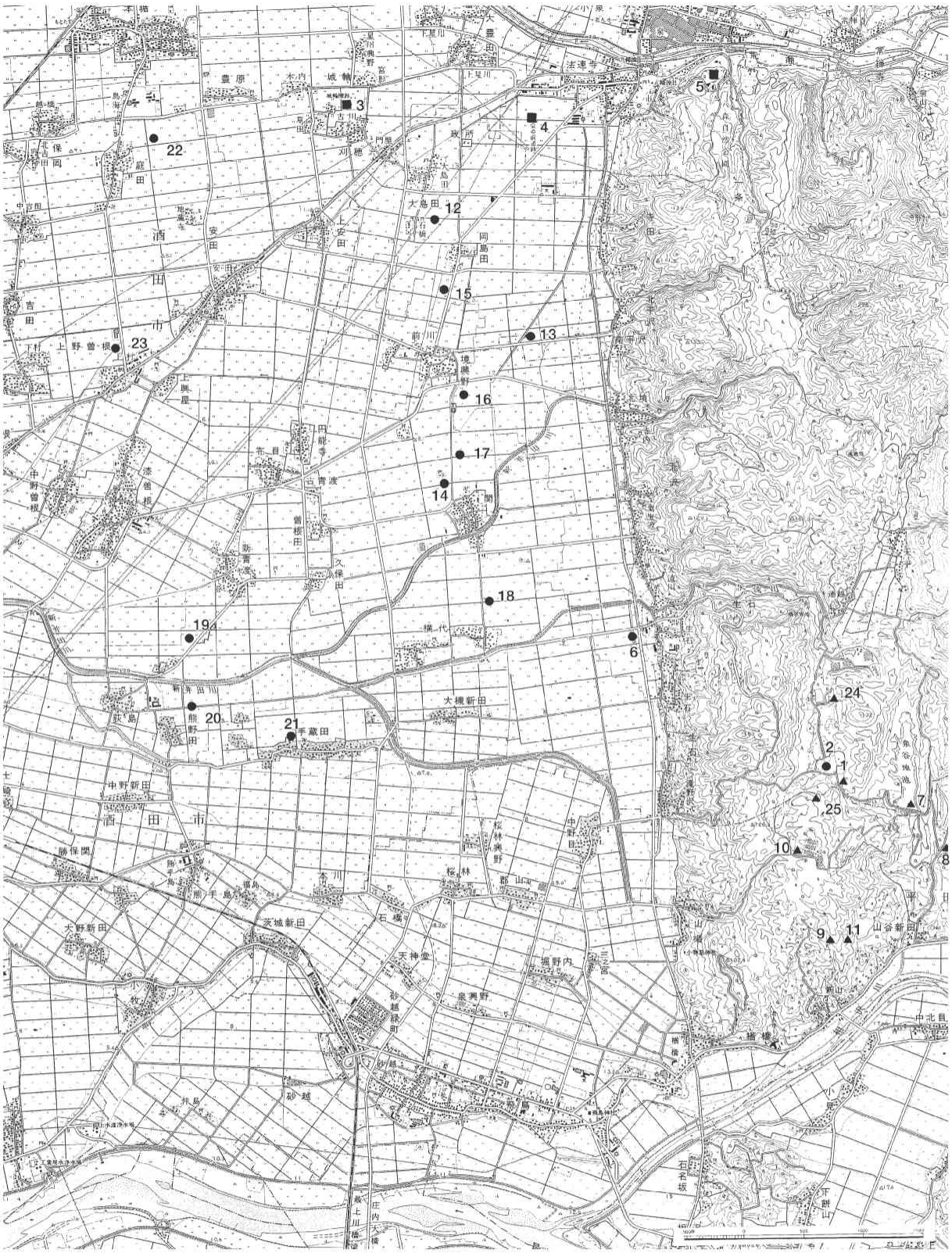
Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

平成13年５月22日酒田市教育委員会文化課より、県教育委員会文化財保護室に酒田市生石地区で工事中の農道整備事業区域内で、土器や瓦の破片が多数発見されたとの急報が示され、５月24日に保護室担当職員が現地に急行し発見の状況を把握した。その結果、事業区域内に土器や瓦が散乱する台地斜面と、土器が散布する平地の二箇所が埋蔵文化財包蔵地として認定された。その後、確認された包蔵地の遺跡内容を把握するため事業区域内に試掘調査を５月28日から31日にかけて実施し、台地斜面には古窯跡（泉森窯跡）が、やや離れた平地には集落跡（坂ノ下遺跡）が確認された。６月25日には、庄内総合支庁産業経済部長及び酒田市教育委員会教育長あてに、試掘調査の結果報告を提出し、工事の実施にあたり、遺跡発見通知と文化財保護法の手続きが必要であることを指導した。このことを受けた庄内総合支庁酒田農村整備課では新たに２遺跡の発見を了承したが、現地ではすでに工事が進行していることや、計画路線の変更などが困難なことから早い時期での記録保存の発掘調査を要望された。要望を受けた文化財保護室では新規に発見された遺跡であることや、工事を中止していることなどを考慮した結果、平成13年度内での緊急発掘調査を実施することが望ましいと結論し、調査を財団法人山形県埋蔵文化財センターに委託することで調整することとなった。６月28日には文化財保護室からの依頼を受けたセンターでは調査開始時期や、調査体制の再考を試み、泉森窯跡・坂ノ下遺跡を一括調査とし、現地調査を７月16日から９月14日までの期間で開始することとし、先に工事が先行する泉森窯跡の調査から進めた。

2　調査の方法と経過

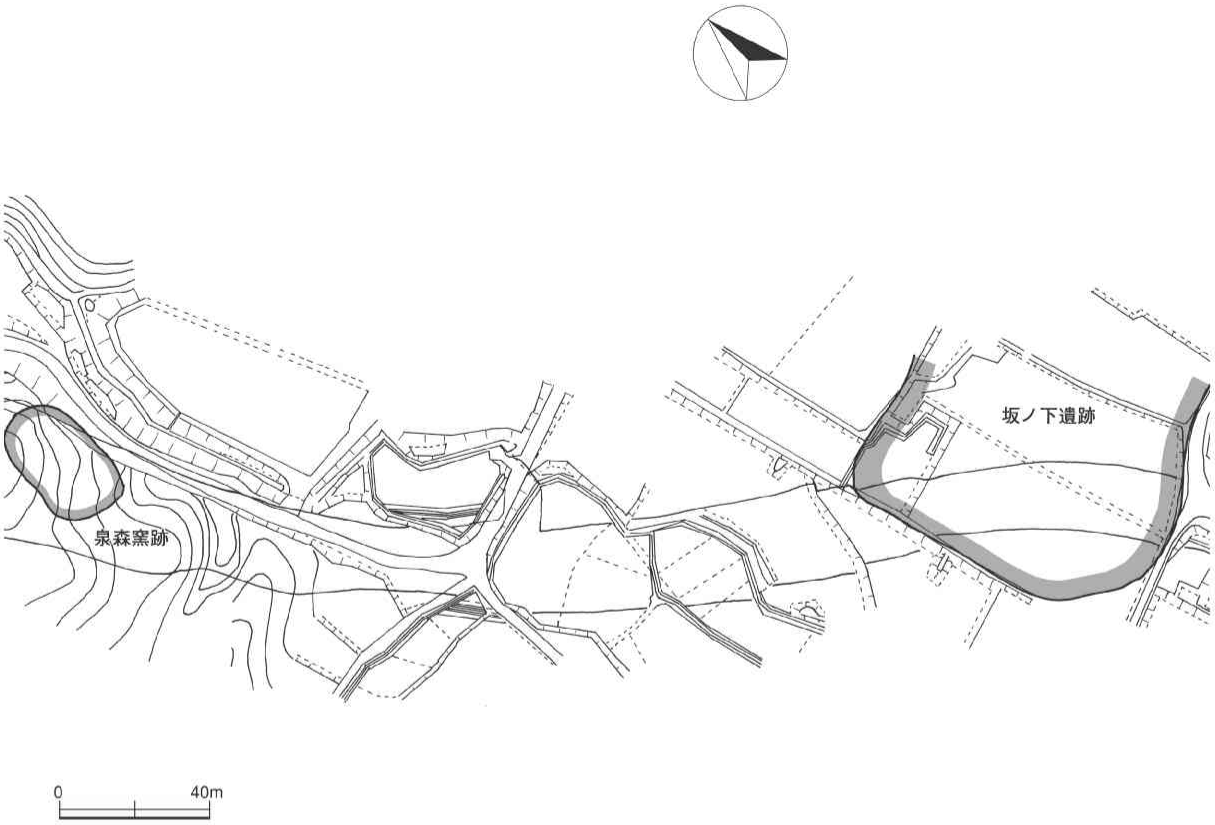
調査は工事が先行する泉森窯跡から開始した。７月16日に調査器材の搬入、最初は調査対象となる区域500㎡に対して伐採された杉材を取り除く環境整備から開始した。その結果、窯跡１基が台地北側斜面に、北東から南東にかけて構築されている事を確認した。一方、泉森窯跡の表土除去が終了したことから坂ノ下遺跡内の表土除去を実施、直ちに面整理作業を実施、遺構の分布状況を確認し遺構の保護処置を行ない、調査は泉森窯跡の調査を優先した。確認された窯跡は一基であることから窯跡の主軸を中心として１ｍ単位の升目を設置し、調査グリッドとした。台地頂部に存在する煙道部は削平され、確認できなかった。窯跡頂部東側には、径70ｃｍ、深さ15ｃｍの土坑が確認されている。また、焚口部から北部や、西側にかけては灰原が台地斜面方向にかけて広がり、調査は窯跡内部の精査と並行して灰原の掘り下げを進めた。しかし、灰原での土器や瓦の出土状況が層を重ねるように出土し、当初推測した総出土数50箱を５倍以上に越える出土量に予測され、調査計画の見直しが検討された。事業実施している酒田農村整備課にこの旨を協議し、８月10日の調査終了期間を９月14日までとすること、及び坂ノ下遺跡の調査も同時に終了することに協議が整い、８月９日には調査説明会を実施した。



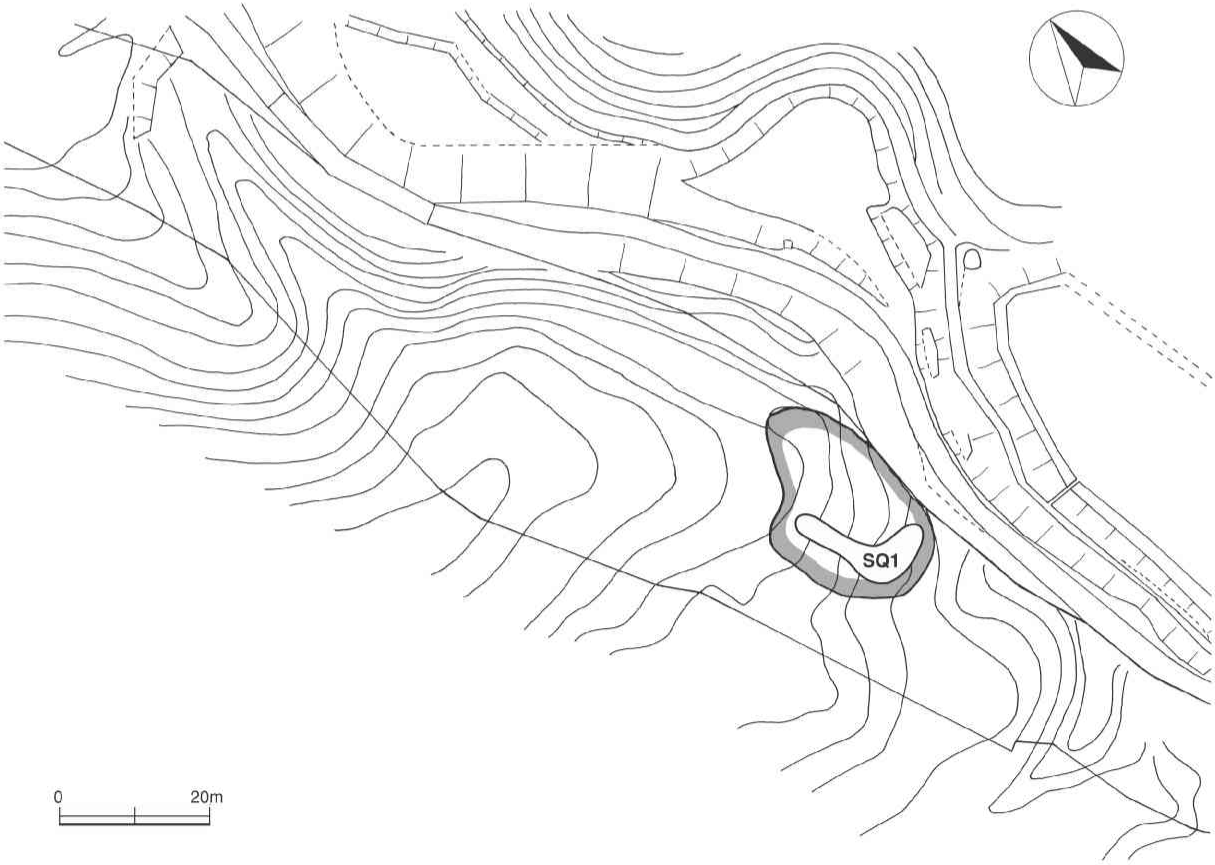
凡例
▲：古窯跡
●：集落跡
■：官衙跡

1. 泉森窯跡（古窯跡・平安）
2. 坂ノ下遺跡（集落跡・平安）
3. 史跡 城輪柵跡（官衙跡・平安）
4. 史跡 堂の前遺跡（官衙跡・平安）
5. 八森遺跡（官衙跡・平安）
6. 生石遺跡（集落跡・平安）
7. 泉谷地窯跡（古窯跡・平安）
8. 新溜窯跡（古窯跡・平安）
9. 山楯 7 遺跡（集落跡・縄文・平安）
10. 山楯 2 遺跡（集落跡・平安）
11. 山楯 8 遺跡（集落跡・縄文・平安）
12. 沼田井関（集落跡・平安）
13. 上ノ田遺跡（集落跡・奈良・平安）
14. 関B遺跡（集落跡・平安）
15. 俵田遺跡（集落跡・平安）
16. 境興野遺跡（集落跡・平安）
17. 北田遺跡（集落跡・平安）
18. 高阿弥陀遺跡（集落跡・平安）
19. 南興野遺跡（集落跡・平安）
20. 熊野田遺跡（集落跡・平安）
21. 手蔵田12遺跡（集落跡・平安）
22. 庭田遺跡（集落跡・平安）
23. 上野曽根井関（集落跡・平安）
24. 願瀬山古窯跡（古窯跡・平安）
25. 山楯 5 遺跡（古窯跡・平安）

第１図 遺跡位置図（国土地理院発行２万５千分の１「観音寺」を１/２縮小して使用）



第２図 坂ノ下遺跡概要図



第３図　泉森窯跡概要図

Ⅱ　立地と環境

1　地理的環境（第1図）

泉森窯跡、坂ノ下遺跡は、酒田市街地から東方15km、庄内東部出羽山地の麓に所在する生石地区東側の丘陵に位置している。地番は、山形県飽海郡八幡町大字生石字泉森に所在する。出羽山地は北部に鳥海山から連なる丘陵部と、南部に月山をはじめとする出羽三山の丘陵部が偉容をなしている。出羽山地の西部には広大な庄内平野を形成しており、山形県の母なる最上川が平野を貫流し、平野部を北部と南部に二分する。本遺跡が所在する地域は北部に位置し、この北部出羽山地を源流として、荒瀬川や、日向川、新井田川が日本海に注ぎ込む。本遺跡が立地する丘陵の西側には広大な庄内平野を望み、平安時代の国衙と推定された城輪柵跡を中心とした集落跡が点在する。北部出羽山地は、平野部に接する山地と出羽丘陵に分かれる。山形県企画調整部が実施した「土地分類基本調査（酒田）1978」による地形分類では、この山地と丘陵の間は谷底平野となり、粘性の強い土壌が山地と丘陵間に堆積している。このことにより、近世から現代まで、屋根瓦の粘土材として採掘され、採掘された跡は田圃や湿地帯・用水池として利用されている。

泉森窯跡は東西に延びる丘陵の北斜面に位置し、標高は76～81mを測る。窯跡の主軸は北から東へ13度の傾きとなる。地目は杉の植林地である。坂ノ下遺跡は東西に長く舌状に張り出す微高地に位置し、標高は76mを測り、地目は畑地である。

2　歴史的環境（第1図）

酒田市東部の出羽丘陵には多くの遺跡が存在する。多くは中世の城館跡や、古窯跡、集落跡等で、丘陵の西側平野部には、城輪柵跡を中心にした平安時代の集落跡が計画的に配置された様相を示している。平野部と丘陵部との境には南北に通る古道が存在し、大道東と呼称されている。庄内平野を二分する最上川北部は、平安時代出羽国井口の国府に比定された「城輪柵跡」を中心とした計画的な集落配置を窺わせる遺跡が点在している。政庁跡から東方には堂の前遺跡、八森遺跡が所在し、公的機関としての遺跡として存在している。また、城輪柵跡より東側南方には南北に一列に集落跡が点在し、境興野遺跡、北田遺跡、関Ｂ遺跡、高阿弥田遺跡等が所在する。また、丘陵山沿いには、北境遺跡、生石2遺跡等が所在し、平安時代には板並列や掘立柱建物跡と共に倉庫群が立ち並び、城輪柵跡に供給した米の集散地として存在する。これらは、酒田市や、八幡町、遊佐町を含めた庄内地方の最上川以北の地域が、城輪柵跡を中心に9世紀に入って、当時の律令政府が推し進めた古代東北の開拓に係わっていると考える。和銅5年（712年）に「出羽国」が成立した以降、国府や城柵の設置・移転されると共に、この地域に律令国家の支配が浸透し、周辺集落と密接な係わりを保っていたものと考える。

Ⅲ　遺跡の概要

今回の調査は、平成13年5月に酒田市教育委員会が県営の農道整備事業によって瓦や、土器が工事現場から多数に渡って発見されたとの通報により確認された新たな遺跡として登録された遺跡である。県文化財保護室では早急に遺跡詳細分布調査を実施し、遺跡の内容と範囲を確認したもので、古窯跡1基（泉森窯跡）と、遺物散布地（坂ノ下遺跡）の2箇所が確認され、文化財保護法による手続きを行った。このことにより、県教育委員会では財団法人山形県埋蔵文化財センターにその調査を依頼し、平成13年7月16日から調査を開始したものである。

1　基本層序（第2図）

層序は計画農道の範囲を限定し、遺物が検出したと考える範囲について手掘りによるトレンチを14本設定し、遺構の規模と範囲を確認し、土層の堆積確認を実施した。トレンチは丘陵の斜面に対して遺構が存在すると考える地域に直角に設定し、断面からその層序を確認した。遺跡が存在する丘陵は酒田市鷹尾山丘陵南西部上に所在し、付近一帯は杉林となっている。表土は、厚さ22㎝に明褐色腐植土の堆積を呈し、その下部は地山となる名褐色の粘質土が広がる。以下に層序について泉森窯跡と、坂ノ下遺跡を説明する。

泉森窯跡	第Ⅰ層	暗褐色土	雑木の腐植土が覆い、小礫を含む。表土（12～18㎝）
	第Ⅱ層	黒褐色土	土器片を多く含み、層下部で窯跡の掘り込みが確認される。
	第Ⅲ層	明褐色土	粘性を持ち、地山層となる。窯周辺は高熱で変化する。
坂ノ下遺跡	第Ⅰ層	暗褐色土	腐植土が覆い、耕作土である。（15～25㎝）
	第Ⅱ層	褐粘質微砂土	中位から遺構の堀込みが始まり、遺物が出土。
	第Ⅲ層	灰褐色粘質土	地山（明褐色土）との斬移層。
	第Ⅳ層	明褐色土	粘性を持ち、地山層となる。

2　遺構と遺物の分布（第3図）

泉森窯跡は、鷹尾山から南西に延びる丘陵先端部に所在する。遺跡詳細分布調査の結果からは、南西に延びる丘陵の中位、北側を南にした煙出し部を確認している。窯跡の周囲下面には土器や瓦片が散出し、斜面下面に広く散布する。また、遺構は幅1.0m、長さ6m以上に確認され、一基のみの確認である。坂ノ下遺跡では、鷹尾山南西部の山麓小段丘上に立地し、予定路線上に遺物が散布したことからトレンチを設定し遺物と遺構の確認されたものである。調査では平安時代の土器と、柱穴と考えられる遺構が検出されたことから遺跡として認定したものである。丘陵上には路線以外にも広がる遺構の確認が出来る。推定範囲は段丘上が遺跡範囲となり、南北120m、東西60mに広がる遺跡である。以上の二遺跡が新規に確認された遺跡で、坂ノ下遺跡では路線内外全面に遺構が広がり、集落跡として確認される。泉森窯跡での遺物の総出土量は整理箱にして413箱となり、また、坂ノ下遺跡は4箱の出土で、内2箱を掲載した。

Ⅳ　泉森窯跡

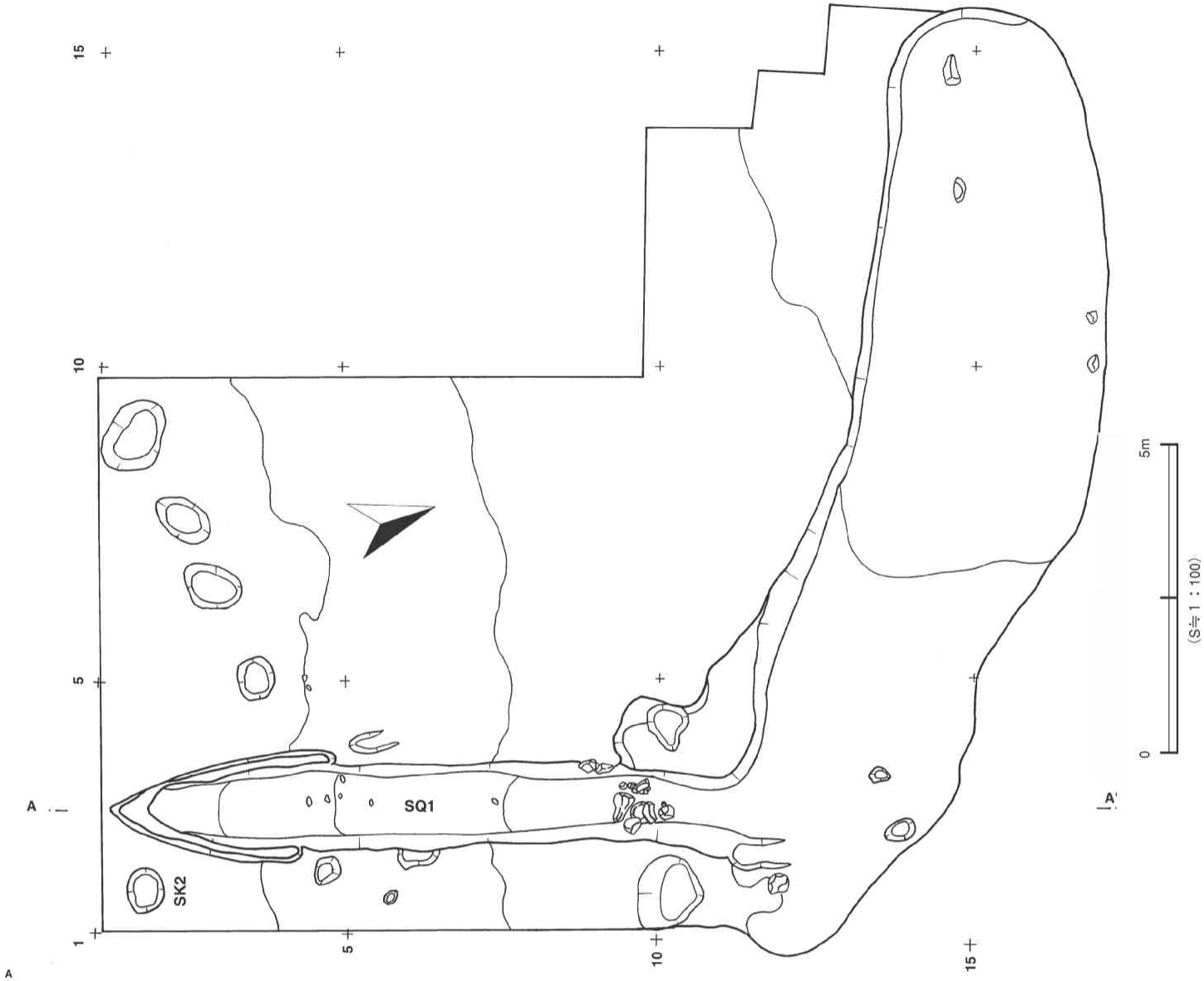
窯跡は、南西部丘陵南斜面に確認されたものである。分布調査では一基のみの確認で南西斜面に南側を煙出し部として設置している。調査では窯跡の主軸を中心にした１ｍ単位のグリッドを設定し、窯の上部と周辺の調査を進め、表土からの堀下げを実施した。掘下げではと窯の周辺が大きく広がり、窯のすぐ左側には径約60㎝ほどのやや円形を呈した土坑が検出されている。

1　窯跡（第4図）

窯跡は丘陵部の中心に確認され、煙出し部を丘陵高位に位置し、焚口部を丘陵低位の南部に天井部を示し、窯は天井部が崩壊し、窯内部に充満している。規模は、全長8.7m、煙出し部で幅1.8m、深さ0.9m、燃焼部で幅1.6m、深さ1.2m、焚口部で幅1.2m、深さ1.5mである。焚口部は南部から西側に大きく広がり、灰原部となっている。灰原は丘陵斜面の沢筋に向かって西側に広がり、熱い堆積となっている。窯の壁面は高温で焼かれた状態を示し、構築された時壁面を作るときに混ぜ合わせたスサを粘土に混ぜ、壁面を形成している。また、高温により赤く焼かれた状態を示している。主軸方向に合わせ燃焼の断面を観察したところ、3回の焼成を観察し、少なくとも２から3回の燃焼が行われたことが確認されている。調査では、煙出し部では杯形土器が伏せられた状態で出土し手いたが、焼成終了時に取り上げていない状態である。焼成部では窯の上位に蓋形土器や、壺、高台付杯、台付皿、横瓶、短頸壺、長頸壺、鍋、甕等の土器破片が出土し、下位には大甕が置かれた状態で出土していた。焚口部は、幅30ｃｍの自然石による仕切りを両側に設置し、燃焼させる松材や、針葉樹、広葉樹等の焼成材を投げ込んでいる。また、自然石で区切られた焚口は、スサを混ぜた粘土で塞がれた状態を示し、灰原と焚口部には破壊された状況で確認されている。灰原は焚口部分が大きく広がり下面に落ち込み、沢筋となる西方に広がって大きく遺物の捨場となる。捨場では平瓦片、軒丸瓦、丸瓦、甕、壺、杯等の土器片が折り重なって出土した。煙出部での断面では、幅８～10ｃｍの焼壁土が窯底面まで確認され、地山層が焼成されたことがわかる。また、断面からは障壁が下位と、中位に堆積し、一度窯内を清掃された様相を示し、断面からは少なくとも2回の焼成が行われたことが観察されている。しかし、燃焼部では下位と上位の間にもう一枚の焦土が堆積し、2回以上の焼成が考えられる。

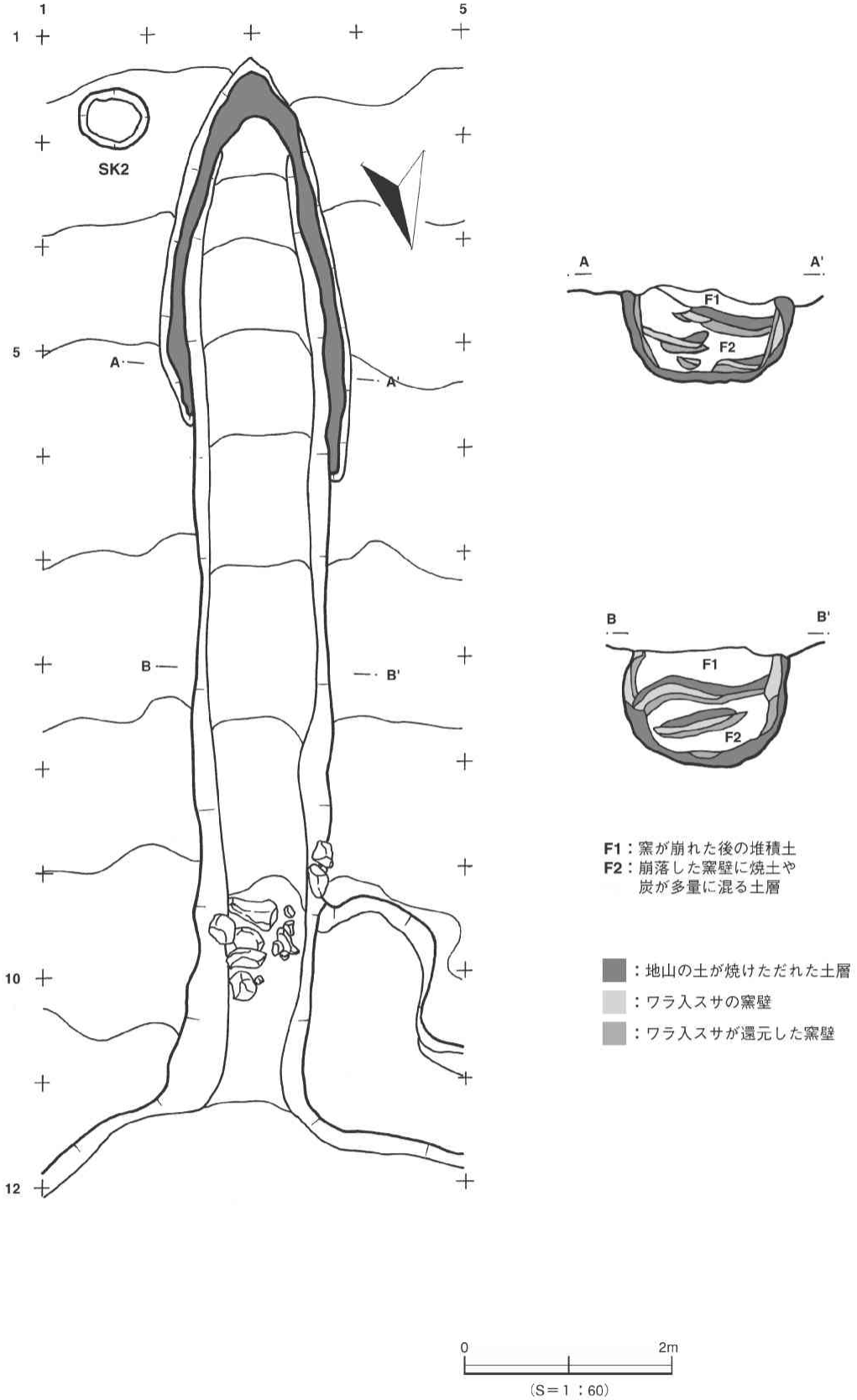
2　捨場（第5図）

捨場は主軸にあわせたグリッドの1～6－5～7のグリッドで確認されている。捨場は表土以外土器と腐植土から覆われ、土器片や瓦片が多くに検出された。特に、堆積土の上面では杯、広台付杯、皿、台付皿、鍋、壺、甕等の破片が多く出土し、観察からは器形が歪な形をしている。焼成後、土器の取り上げの際、供給されない製品についてはその場で捨てられたものと推測できる。出土の状況は足の踏み場も無い状態であった。調査での状況では下位で瓦片や、甕片、



1　10YR2/2　黒褐色シルト　　=表土
2　10YR3/3　暗褐色シルト　　焼土塊・炭化物が多量：
3　10YR4/4　褐色シルト　　炭化物・焼土塊・砂が少量　もろく崩れやすい
4　10YR2/2　黒褐色シルト　　10～20ミリ大の焼土塊が少量　硬くしまる
5　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　5ミリ大の焼土塊が少量　硬くしまる　=窯壁　還元層と酸化層のブロック
6　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒が少量　硬くしまる　弱粘性
7　7.5YR4/6　褐色　　=崩落した窯壁層
8　10YR3/2　黒褐色シルト　　焼土塊多量　炭化物・窯壁小量　硬くしまる
9　10YR4/1　炭色　　崩落した窯壁層　主に還元層　遺物含む
10　10YR4/1　炭素褐色シルト　　焼土塊・炭化物多量　窯壁小量　硬くしまる
11　10YR3/3　暗褐色シルト　　焼土粒・炭化粒少量　硬くしまる　=表土
12　10YR3/2　黒褐色シルト　　焼土粒・炭化粒少量←日よりは多くて粒も大きい　硬くしまる
13　10YR2/1　黒色シルト　　焼土粒・炭化粒少量　黄褐色シルト粒少量　土器片含む　硬くしまる　=捨て場の1層
14　10YR3/4　暗褐色シルト　　焼土粒・炭化粒少量　遺物含む　硬くしまる　=捨て場の1層
15　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　焼土粒・炭化粒少量　硬くしまる　弱粘性
16　10YR3/3　暗褐色シルト　　焼土塊多量　炭化物少量　土器片含む　硬くしまる
17　10YR3/4　暗褐色シルト　　焼土粒・炭化粒微量含む　弱粘性　硬くしまる

第４図　泉森窯跡調査概要図

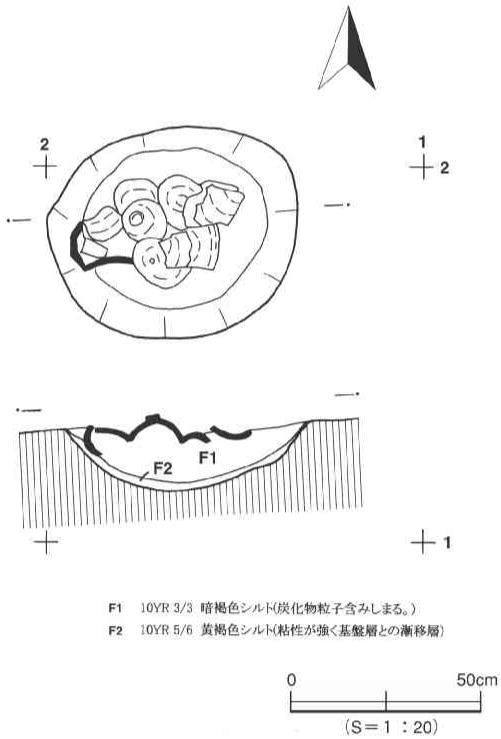

1
5
1
5
10
12
SK2
A
A'
B
B'
F1
F2
F1：窯が崩れた後の堆積土
F2：崩落した窯壁に焼土や
炭が多量に混る土層
：地山の土が焼けただれた土層
：ワラ入スサの窯壁
：ワラ入スサが還元した窯壁
0
2m
（S＝1：60）

第５図　泉森窯跡平面図

壺片が出土し、中位では広台付杯、壺片、下位では杯片、皿
形土器片等の出土が認められた。

3　土坑（第6図、第20図）

土坑は窯跡の左側、東側に検出された。13点の杯形土器が出土し、一括して埋められた感がする。土器はすべて杯形土器で、穴を掘った跡に置いている。土坑はグリッド1－1から検出され、窯跡のすぐ左側に存在する。深さは23cmを測り、覆土は一層であり、底面では地山どの斬移層である。土器の出土状況からは折り重なって一括して埋設していることから同時の設置と考える。土器の形態からは同一の形態を示し、同時期の所産と考え、窯の使用が最終の使用となったことから最後の謝礼事業の行動と思われる。



第６図　SK2土坑

Ⅴ　遺物

ここでは窯跡内からの出土遺物について記述する。窯内からは煙出部、焼成部、燃焼部、焚口部、灰原部の5箇所から多くの土器が出土し、整理箱にして総数319箱の出土量である。ここでは出土土器の中で実測に耐える土器について記述する。

1　須恵器

蓋形土器（第7図1～12）

蓋は摘み部が宝珠状になるものと、宝珠が小さくなるものがある。また、宝珠が見えないものもあり、蓋の作製に時期の差異があるものと思われる。時間的なものか、作製者の違いが認められない。紐部の形状でいくつかに分けた。Ａ類は、紐部のつまみ中心が紐部高より高くなるもの（1・2・3）、Ｂ類は紐部のつまみ中心がくぼむもの（4～12）の二つに分けた。Ａ類の1は大きく二段に伸び上がり、宝珠形となる。器形は口唇から丸みを持ちながら立ち上がり、天井部がヘラケズリ後布撫でによる整形が施され、形状がやや丸みを持つ。2は口唇から直角に立ち上がり、天井部でやや水平に近い形状を示し、紐部をくぼませ、中心を摘ませている。3は口唇がクの字状に折れ曲がり、天井部に向かって緩やかな丸みを持ちながら紐部になる。紐部は持ち上がりながら中心で飛び出す形を示す。Ｂ類の４・５・６は紐部が小さくくぼみ、紐口唇よりやや低くなる。4の器形は口唇が大きく外側に延び、クの字状になる。体部は大きく丸みを持つ。7～12は紐部が大きくくぼみ、紐部が外反するもの（10～12）と、やや直立するもの（7～9）がある。

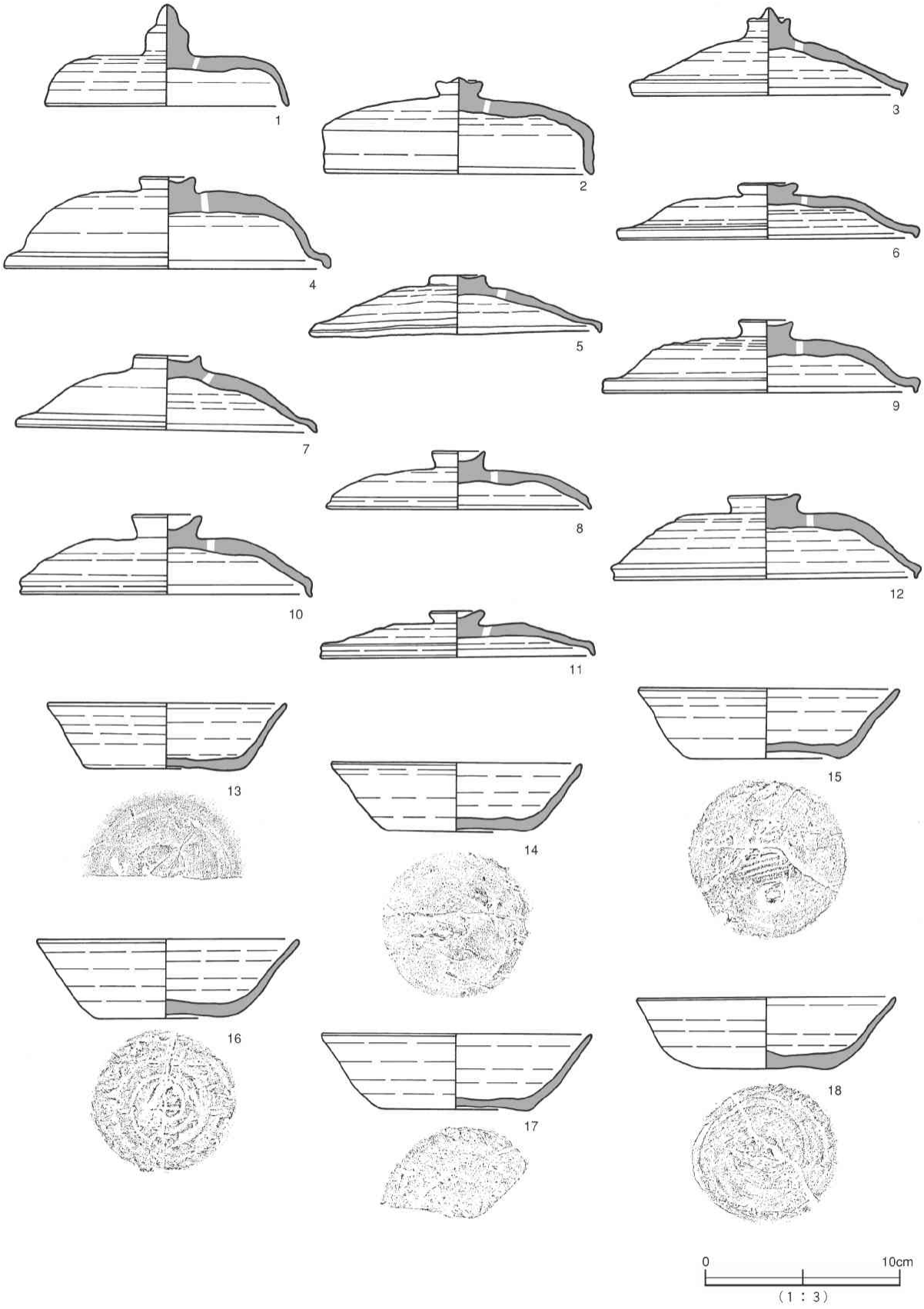
杯形土器（第7図13～第9図41）

杯は29点の土器を実測し掲載した。器形の分類ではＡ・Ｂ・Ｃ類の三種に分けた。土器のすべてが回転ヘラ切り離しである。Ａ類は、底部を回転ヘラ切りで、体部が無調整のもの、Ｂ類は底部周辺をヘラによる調整が認められるもの、Ｃ類は布撫でによる調整と板目越し痕が認められるものがある。Ａ類は、各図中の14・16・18～20・24・27～30・36・39・40である。Ｂ類は、17・22・23・25５・26・30・31・33である。Ｃ類は、15・21・34・35・37・38・41である。しかし、Ｃ類では布撫では認められるが、明瞭な板目起こしが拓本から見えるのは第7図15のみ

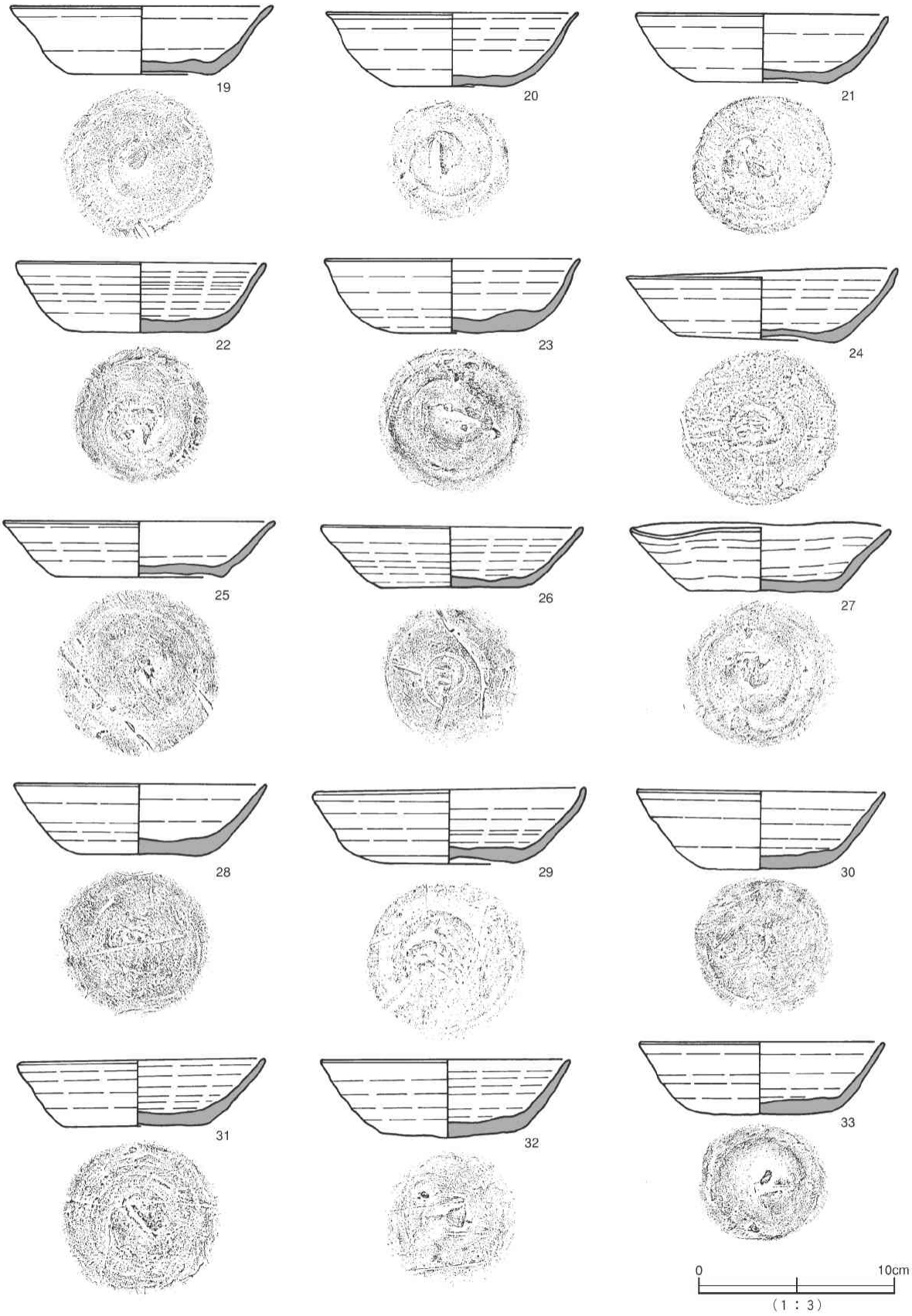
表1

番号図	番号遺物	出土地点	種別	器種	計測値					胎土	焼成	色調	調整・成形		ＲＰ番号	備考
					口径	紐部径	紐部高	器高	器厚				外面	内面		
第7図	1	8-13 Ⅱ	須恵器	蓋	(125)	25	27	53	5	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合10-14Ⅱ10-12Ⅱ　内面重ね焼痕
	2	18-13 Ⅲ	須恵器	蓋	(140)	20	9	50	5	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 5/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合9-14 Ⅱ　内面灰かぶり
	3	SQ1	須恵器	蓋	(140)	28	12	45	6	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6/1	ロクロ痕	ロクロ痕	299	接合SQ1:F4(3-10)SQIY(3-9･10) 13-10 Ⅳ　焼きにゆがみあり
	4	4-12 Ⅱ	須恵器	蓋	167	30	8	47	6	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue5Y 6/2	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合1-13Ⅱ 2-14Ⅱ 3-1Ⅱ
	5	SQ1	須恵器	蓋	(150)	30	6	32	3	粗砂混	堅	灰白色 Hue 5Y 7/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕	308	SQ1F4(3-10)　ゆがみあり
	6	4-11 Ⅱ	須恵器	蓋	(157)	25	6	29	4	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue5Y 5/2	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合5-10Ⅱ 6-11Ⅱ　ゆがみあり
	7	7-14 Ⅱ	須恵器	蓋	(156)	37	7	38	4	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue5Y 6/2	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合9-13Ⅱ
	8	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	蓋	(137)	22	9	30	5	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合5-13Ⅱ 4-14 Ⅱ
	9	5-13 Ⅱ	須恵器	蓋	(164)	26	9	38	5	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合1-10･11 Ⅱ 6-13 Ⅲ　8-13 Ⅲ 内面灰かぶり
	10	6-15 Ⅱ	須恵器	蓋	152	32	12	4	5	粗砂混	堅	黄灰色 HuE 2.5Y6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合4-14 Ⅱ
	11	5-14 Ⅱ	須恵器	蓋	141	23	7	24	4	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		
	12	3-11･13 Ⅱ	須恵器	蓋	160	35	8	4	4	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y6/1	ロクロ痕・削り	ロクロ痕		接合4-14 Ⅱ

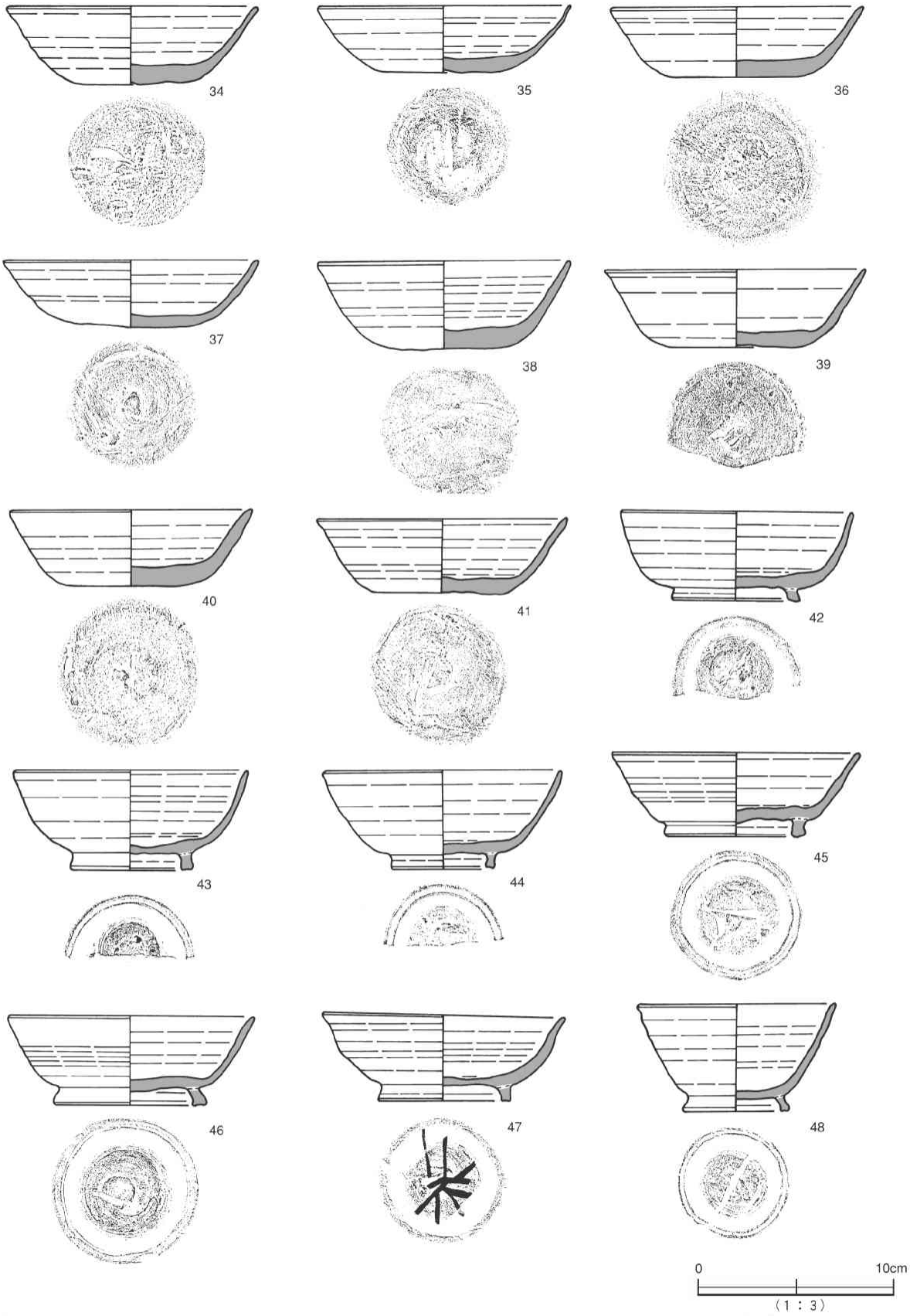
出土遺物観察表（蓋）



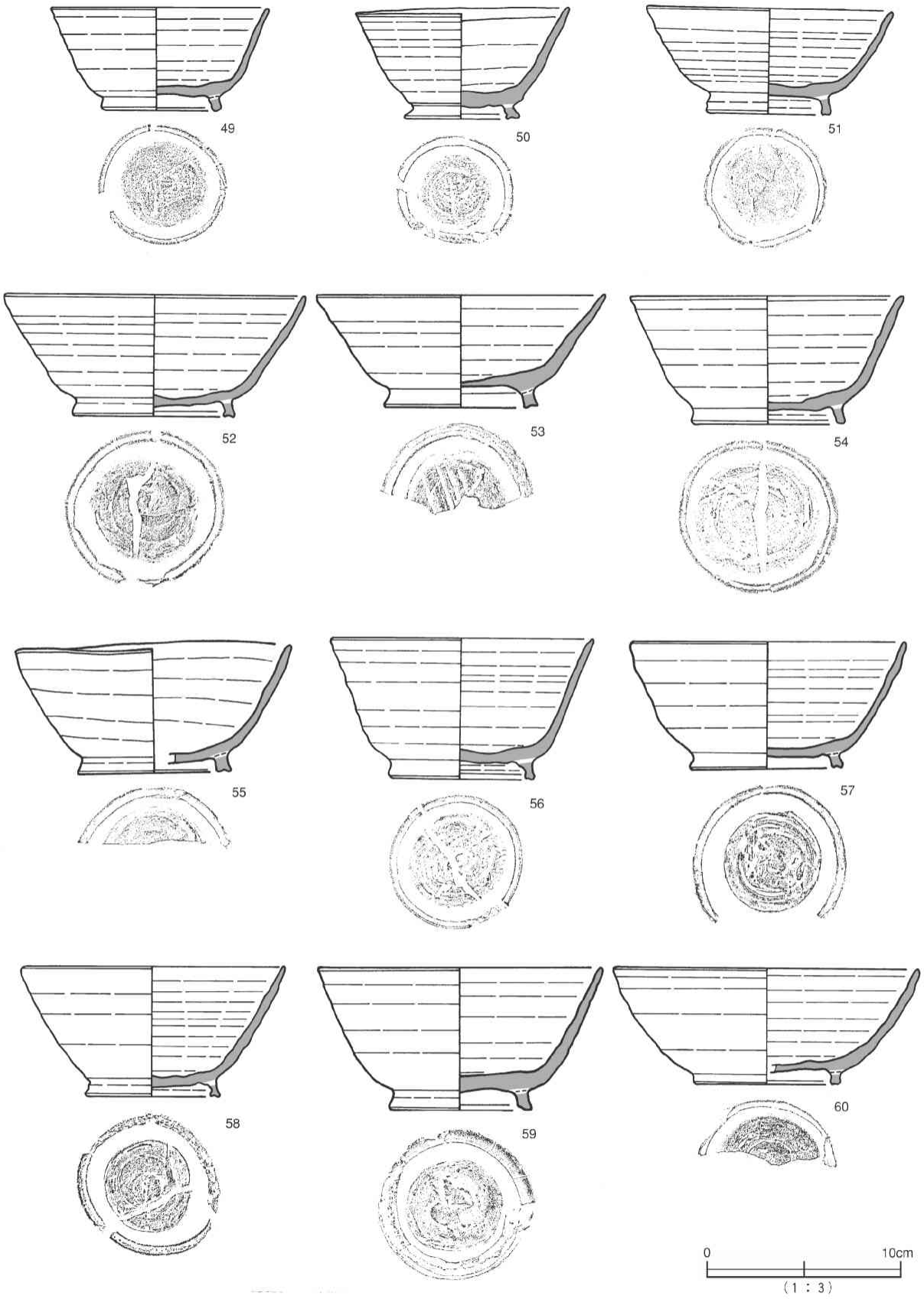
第７図　出土土器（蓋・坏）



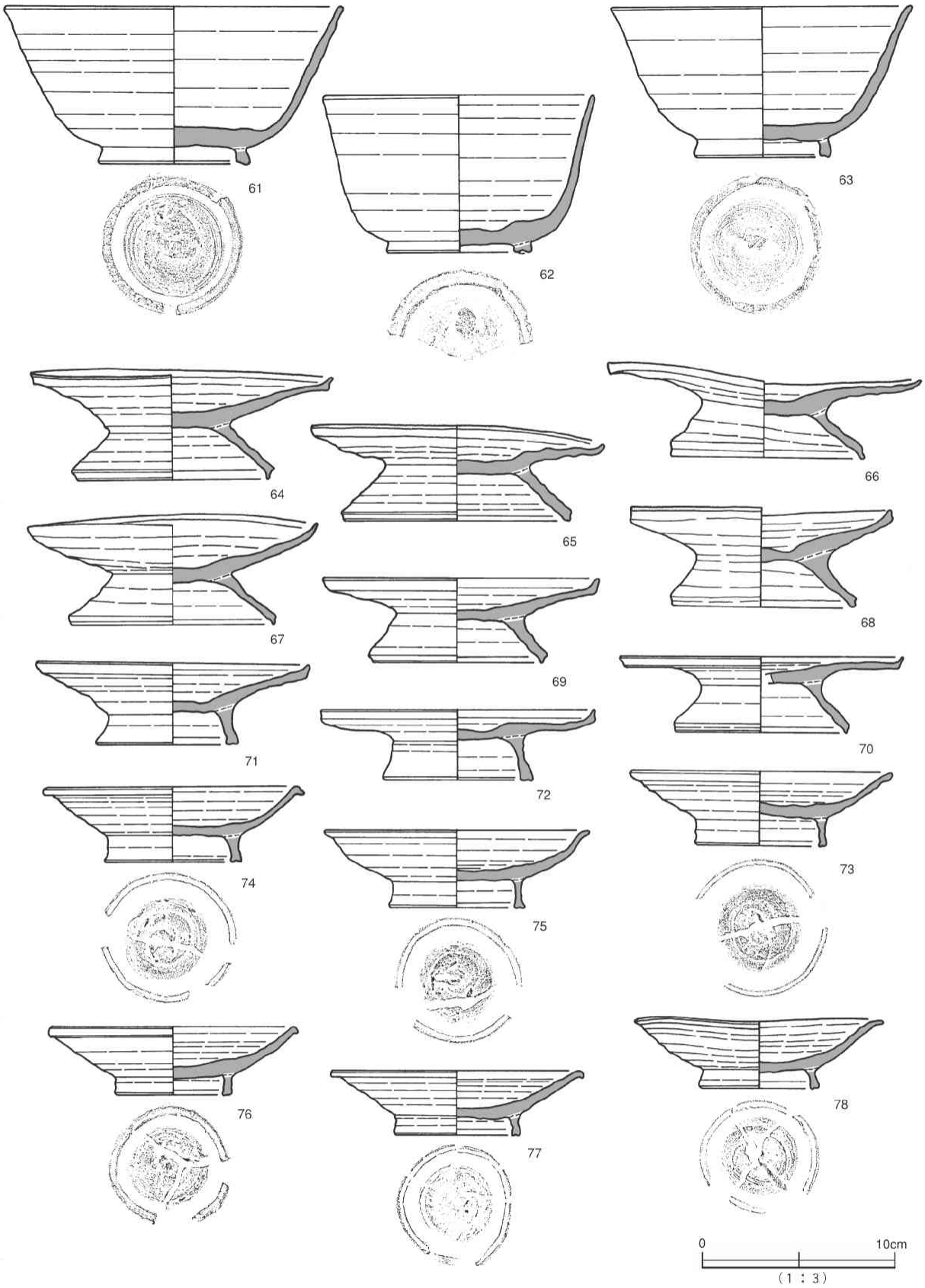
第8図　出土土器(坏)



第９図　出土土器（坏・高台付坏）



第10図　出土土器(高台付坏)



第11図　出土土器(高台付坏・台付坏)

表2

挿図番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	計測値						胎土	焼成	色調	調整・整形			RP番号	備考
					口径	頸径	胴径	低径	器高	器厚				外面	内面	底部		
第7図	13	8－15Ⅱ	須恵器	坏	(124)			(83)	34	3	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 7／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	14	9－13Ⅱ	須恵器	坏	130			72	35	5	粗砂混	堅	淡黄色 Hue 2.5Y 8／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	15	8－13Ⅱ	須恵器	坏	(135)			(80)	35	4	粗砂混	堅	淡黄色 Hue 2.5Y 8／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	16	8－13Ⅱ	須恵器	坏	(135)			71	41	4	粗砂混	堅	灰白色 Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合 9－14Ⅱ　ヘラ起し痕
	17	9－12Ⅱ	須恵器	坏	(140)			80	38	4	粗砂混	堅	灰白色 Hue 5Y 8／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	18	8－13Ⅱ	須恵器	坏	(134)			71	37	3	粗砂混	堅	灰白色　Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
第8図	19	8－14Ⅱ	須恵器	坏	136			(74)	35	3	粗砂混	堅	灰白色　Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		
	20	7－14Ⅱ	須恵器	坏	(130)			60	38	3	粗砂混	堅	灰白色　Hue 5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	21	7－14Ⅱ	須恵器	坏	(130)			70	35	4	粗砂混	堅	灰白色 Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	22	ＳＱ1	須恵器	坏	(129)			75	35	3	粗砂混	堅	にぶい黄橙色Hue10ＹＲ 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	273	ヘラ起し痕
	23	6－11Ⅱ	須恵器	坏	(132)			70	37	3	粗砂混	堅	にぶい黄橙色Hue10ＹＲ 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	24	9－14Ⅱ	須恵器	坏	140			84	35	4	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		口縁ゆがみあり　ヘラ起し痕
	25	ＳＱ1Ｆ3 (3－9)	須恵器	坏	(140)			86	28	3	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	26	8－13Ⅲ	須恵器	坏	(135)			70	33	3	粗砂混	堅	灰白色　Hue 2.5Y 7／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	27	8－14Ⅱ	須恵器	坏	(134)			80	35	5	粗砂混	堅	黄灰色　Hue 2.5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕・ゆがみあり
	28	4－13Ⅲ	須恵器	坏	(130)			62	36	5	粗砂混	堅	灰黄褐色　Hue 10ＹＲ 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	29	7－14Ⅱ	須恵器	坏	140			80	35	4	粗砂混	堅	灰白色　Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合8－13Ⅱ 8－14Ⅱ ヘラ起し痕・ゆがみあり
	30	6－13Ⅲ	須恵器	坏	128			55	40	4	粗砂混	堅	にぶい黄橙Hue10ＹＲ 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕・ゆがみあり
	31	ＳＱ1Ｙ (3－8)	須恵器	坏	128			70	34	3	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 7／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	32	8－14Ⅱ	須恵器	坏	128			70	40	5	粗砂混	堅	灰白色　Hue 5Y 7／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	33	12－14Ⅱ	須恵器	坏	126			66	37	3	粗砂混	堅	にぶい橙色 Hue7.5ＹＲ 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
第9図	34	ＳＱ1Ｙ (3－10)	須恵器	坏	(130)			68	39	4	粗砂混	堅	にぶい橙色 Hue7.5ＹＲ 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	216	ヘラ起し痕
	35	ＳＱ1Ｙ (3－9)	須恵器	坏	(129)			72	34	2	粗砂混	堅	灰白色 Hue 2.5Y 8／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	202	ヘラ起し痕・重ね焼痕の一番上？
	36	3－12Ⅱ	須恵器	坏	(130)			66	36	4	粗砂混	堅	橙色　Hue 7.5Y 7／6	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	37	ＳＱ1 (2·3－7·8)	須恵器	坏	132			60	35	4	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	38	7－14Ⅱ	須恵器	坏	(130)			60	45	5	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 Hue10ＹＲ 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		
	39	7－14Ⅱ	須恵器	坏	(134)			68	40	4	粗砂混	堅	にぶい橙色 Hue7.5ＹＲ 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－15Ⅱ　ヘラ起し痕
	40	ＳＱ1Ｙ (2·3－1·2)	須恵器	坏	(124)			60	39	6	粗砂混	堅	灰褐色 Hue 7.5ＹＲ 5／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	3	ヘラ起し痕
	41	ＳＱ1Ｙ (2·3－2)	須恵器	坏	129			66	39	4	粗砂混	堅	灰白色　Hue 10Y 7／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	12	ヘラ起し痕
	42	6－13Ⅱ	須恵器	高台付坏	(118)			(64)	46	3	粗砂混	堅	灰色　Hue 7. 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	43	6－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	(120)			(62)	51	3	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y 5／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		
	44	6－11Ⅱ	須恵器	高台付坏	(122)			(52)	51	3	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	45	5－13Ⅱ	須恵器	高台付坏	(127)			70	44	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－14Ⅱ　ヘラ起し痕
	46	6－13Ⅱ	須恵器	高台付坏	(126)			77	46	4	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合5－14Ⅱ　ヘラ起し痕
	47	ＳＱ1(3－3Y)	須恵器	高台付坏	122			68	45	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	261	ヘラ起し痕 墨痕　文字不明
	48	6－11Ⅱ	須恵器	高台付坏	(102)			56	55	3	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
第10図	49	ＳＱ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	高台付坏	(115)			65	54	3	粗砂混	堅	暗灰黄色　Hue 2.5Y 4／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－10Ⅱ 外面灰かぶり
	50	5－14Ⅱ	須恵器	高台付坏	111			60	59	4	粗砂混	堅	灰白色　Hue 5Y 7／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－14Ⅱ　9－13Ⅲ ラッパ状に立上広がる
	51	6－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	(128)			(65)	55	3	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		
	52	5－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	(157)			82	64	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－10Ⅱ
	53	5－11Ⅲ	須恵器	高台付坏	(152)			(80)	59	5	粗砂混	堅	灰ｵﾘｰﾌﾞ色　Hue 7.5Y 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	54	5－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	(142)			(80)	67	4	粗砂混	堅	灰ｵﾘｰﾌﾞ色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	55	6－11Ⅱ	須恵器	高台付坏	(144)			(80)	65	5	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		高台部ゆがみあり
	56	6－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	(136)			73	74	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－11Ⅱ　ヘラ起し痕
	57	6－10Ⅱ	須恵器	高台付坏	144			82	65	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 10Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－11Ⅱ　ヘラ起し痕
	58	6－12Ⅱ	須恵器	高台付坏	(138)			70	68	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－10Ⅲ　ヘラ起し痕
	59	3－12Ⅱ	須恵器	高台付坏	(148)			74	75	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合9－13Ⅱ 7－14Ⅲ ヘラ起し痕 ゆがみあり
	60	4－14Ⅱ	須恵器	高台付坏	(160)			(76)	61	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合3－15Ⅱ　ヘラ起し痕
第11図	61	9－13Ⅱ	須恵器	高台付坏	(180)			(80)	84	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－12Ⅱ　ヘラ起し痕
	62	ＳＱ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	高台付坏	(160)			(70)	(80)	5	粗砂混	堅	灰褐色 5ＹＲ 4／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		外面灰かぶり　ヘラ起し痕
	63	3－13Ⅱ	須恵器	高台付坏	(144)			(76)	83	5	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		ヘラ起し痕
	64	0－10Ⅱ	須恵器	台付皿	(158)			(100)	58	4	粗砂混	堅	暗灰黄色　Hue 2.5Y 5／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合1－10Ⅱ 5－8Ⅱ ヘラ起し痕
	65	ＳＱ1Ｆ4 (3－10)	須恵器	台付皿	(154)			(120)	50	4	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合1－11Ⅱ －Ⅰ-10Ⅱ ヘラ起し痕 口縁部ゆがみ　内外面灰かぶり
	66	9－14Ⅱ	須恵器	台付皿	(166)			(102)	40	5	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合2－12Ⅱ 3－12Ⅱ ヘラ起し痕 ゆがみあり
	67	8－12Ⅱ	須恵器	台付皿	(152)			(102)	53	4	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y 4／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切 布ナデ調整		内外面灰かぶり ヘラ起し痕 ゆがみあり
	68	11－14Ⅱ	須恵器	台付皿	146			92	52	5	粗砂混	堅	灰白色 Hue 5Y 7／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合8－13Ⅱ 9－13Ⅱ 10－14Ⅱ 外面灰かぶり　内面煤かぶり ヘラ起し痕　重ね焼痕

出土遺物観察表（高台付坏・坏・台付皿）

表3

挿図番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	計測値						胎土	焼成	色調	調整・整形			RP番号	備考
					口径	頸径	胴径	低径	器高	器厚				外面	内面	底部		
第11図	69	5－15Ⅱ	須恵器	台付皿	146			88	45	4	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合11－13Ⅱ 5－12Ⅱ 8－12Ⅱ 内外面灰かぶり・皿部重ね焼痕
	70	3－11Ⅱ	須恵器	台付皿	(150)			(90)	40	3	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 4／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合10－14Ⅱ 外面灰かぶり ヘラ起し痕・皿内部重ね焼痕
	71	9－14Ⅱ	須恵器	台付皿	(144)			75	44	4	粗砂混	堅	褐灰色 Hue 10YR 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合7－15Ⅱ 灰かぶり ヘラ起し痕 皿内面重ね焼痕
	72	9－14Ⅱ	須恵器	台付皿	(145)			(78)	37	4	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切 布ナデ		ヘラ起し痕 皿内部重ね焼痕 内外面灰かぶり
	73	6－10Ⅱ	須恵器	台付皿	(139)			(70)	39	3	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合－1－10Ⅱ ヘラ起し痕
	74	SQ1 F1	須恵器	台付皿	(138)			(73)	40	3	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合5－10Ⅱ 6－10Ⅱ 6－11Ⅱ ヘラ起し痕
	75	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	台付皿	(140)			(71)	41	4	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－11Ⅱ 7－11Ⅱ 8－12Ⅱ ヘラ起し痕・皿内面重ね焼痕
	76	4－14Ⅱ	須恵器	台付皿	(132)			(62)	37	4	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合6－10Ⅱ 6－11Ⅱ ヘラ起し痕
	77	5－10Ⅱ	須恵器	台付皿	(134)			(66)	34	4	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合5－11Ⅱ
	78	6－10Ⅱ	須恵器	台付皿	(132)			(64)	34	4	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 6／2	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切		接合10－14Ⅱ 6－11Ⅱ
第12図	79	5－13Ⅱ	須恵器	横瓶	100	(92)	(380)	－	(220)	7	粗砂混	堅	灰色 Hue N 6／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 アテ痕	－		接合6－12Ⅱ 7－13Ⅱ 10－13・14Ⅱ 11－13Ⅱ 外面灰かぶり ゆがみあり
	80	6－12Ⅱ	須恵器	横瓶	117	97	(345)	－	264	6	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 6／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 アテ痕			接合6－13Ⅱ 7－12Ⅱ 8－13Ⅱ 9－13 Ⅱ 9－14Ⅱ 13－14Ⅱ 外面灰かぶり
	81	3－13Ⅱ	須恵器	横瓶	(100)	(85)	(346)	－	(145)	7	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 6／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕	－		接合3－14Ⅱ 3－15Ⅱ 外面灰かぶり
	82	3－13Ⅱ	須恵器	横瓶	－	(90)	(300)	－	(200)	7	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 6／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 ハケ目			接合1－13Ⅱ 2－12Ⅳ 2－13Ⅱ 3－14Ⅱ 3－18Ⅱ 4－12Ⅲ
	83	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	横瓶	100	76	340	－	257	10	粗砂混	堅	にぶい赤褐色 Hue 5YR 5／3	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 ｱﾃ痕・ﾍﾗﾅﾃﾞ	－		接合9－14Ⅱ 12－14Ⅱ
	84	3－14Ⅱ	須恵器	横瓶	(120)	(101)	(300)	－	(185)	7	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 6／2	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ痕・ﾊｹ目 指ナデ	－		接合-1-11Ⅱ 0－11Ⅱ 2－11Ⅱ 2－13 Ⅱ 3－11Ⅱ 4－14Ⅱ 外面灰かぶり
	85	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	横瓶	(120)	(99)	(354)	－	280	10	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 5／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ハケ目・指ｱﾃ	ロクロ痕 ｱﾃ痕・ハケ目	－		接合8－13Ⅱ 9－14 7－13Ⅲ 10－ 13Ⅱ 灰かぶり
	86	3－13Ⅱ	須恵器	横瓶	－	－	(298)	－	(193)	11	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 6／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ痕	－		接合3－18Ⅱ 4－14Ⅱ 外面 灰かぶり
第13図	87	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	短頸壺	125	127	253	90	311	9	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 6／1	ロクロ痕 格子目状ﾀﾀｷ	ロクロ痕 青海波ｱﾃ	丸底		接合8－12Ⅱ9－12Ⅱ ﾀﾀｷ成形後ﾛｸ ﾛ整形
	88	SQ1Y	須恵器	短頸壺	152	－	－	120	285	10	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 5／1	ロクロ痕 体部下半ﾀﾀｷ (格子目状)	ロクロ痕 体部下半 ヘラ調整	平底	304	接合SQ1ステパ 口唇部ヘラ削り調整 灰かぶり
	89	SQ1ステパ	須恵器	短頸壺	(120)	(116)	(257)	118	225	7	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 5／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ痕・削り	高台付		接合－2－9Ⅱ －2－10Ⅱ灰かぶり
	90	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	短頸壺	－	－	－	114	(171)	8	粗砂混	堅	褐灰色 Hue 10YR 4／1	ロクロ痕	ロクロ痕	高台付	250	接合9－14Ⅱ 9－13Ⅱ 底部ヘラ書き文字入り 「万」
	91	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	短頸壺	(120)	128	292	－	(165)	7	粗砂混	堅	褐灰色 Hue 7.5YR 4／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ロクロ痕			接合8－11Ⅱ 8－12Ⅱ 7－11Ⅱ 7－ 13Ⅱ 肩部に2条筋が施される
	92	9－12Ⅱ	須恵器	壺	(155)	(130)	243	140	299	12	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 4／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ 削り	ﾛｸﾛ痕・ｱﾃ痕・ ハケ目・削り	平底 タタキ		接合10－13Ⅱ 体部下半格子目状ﾀ ﾀｷ痕
	93	SQ1 F	須恵器	壺	(151)	(140)	(252)	(128)	288	7	粗砂混	堅	灰色 Hue 10Y 6／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ハケ目・ヘラ削り	ﾛｸﾛ痕・ハケ目 ヘラ削り	ヘラ切・削り		接合2－10Ⅳ 2－12Ⅳ 体部下半叩き締め後ヘラ削り
	94	SQ1 F2	須恵器	壺	(152)	(110)	(303)	(175)	(326)	10	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 5／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ハケ目・削り	ﾛｸﾛ痕・ハケ目	高台付		接合7－11Ⅱ 7－10Ⅱ
	95	6－10Ⅱ	須恵器	瓶	－	－	－	－	(70)	12	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 6／1	ﾛｸﾛ痕・ﾍﾗ調整	ﾛｸﾛ痕・ﾍﾗ調整	削り		
第14図	96	6－11Ⅱ	須恵器	三耳瓶	(172)	135	(248)	(170)	450	11	粗砂混	堅	灰ｵﾘｰﾌﾞ色 Hue7.5Y 6／2	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ハケ目・削り	ロクロ痕 ヘラナデ	平底		接合8－12Ⅱ 9－11Ⅱ 9－12Ⅱ 内外面灰かぶり
	97	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	双耳瓶	(150)	(100)	(238)	(157)	418	12	粗砂混	堅	灰褐色 7.5YR 6／2	ロクロ痕 タタキ・削り	ロクロ痕 ナデ	平底		接合8－11Ⅱ 8－12Ⅱ 三耳瓶？
	98	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	双耳瓶	165	(116)	(280)	(155)	447	8	粗砂混	堅	灰色 Hue N 6／0	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ロクロ痕			接合4－11Ⅱ 4－12Ⅱ 灰かぶり 三 耳瓶？
	99	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	長頸壺	－	(82)	(214)	(118)	(190)	8	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 5／1	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ	ロクロ痕 削り			接合3－14Ⅱ 7－17Ⅱ 8－13Ⅱ 8－ 15Ⅱ
	100	4－14Ⅱ	須恵器	長頸壺	－	－	(230)	120	(233)	8	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 7／2	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ﾊｹﾒ・ﾍﾗﾅﾃﾞ	ロクロ痕 布ナデ	布ナデ		接合0－11Ⅱ 5－14Ⅱ 6－13Ⅱ 12－ 15Ⅱ 外面灰かぶり
	101	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	長頸壺	－	－	202	120	(175)	9	粗砂混	堅	黄灰色 Hue 2.5Y 6／1	ロクロ痕 ﾀﾀｷ・布ナデ	ロクロ痕 ｱﾃ痕・布ﾅﾃﾞ			
	102	8－12Ⅱ	須恵器	長頸壺	－	(70)	200	115	(159)	6	粗砂混	堅	灰色 Hue 10Y 6／1	ﾛｸﾛ痕・布ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ痕・削り			
	103	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	長頸壺	－	－	(212)	118	(198)	7	粗砂混	堅	灰色 Hue 10Y 6／1	ロクロ痕 タタキ・削り	ロクロ痕 アテ痕			接合10－13Ⅱ 11－14Ⅱ 12－15Ⅱ
	104	4－8Ⅱ	須恵器	長頸壺	－	(66)	(205)	(106)	(171)	6	粗砂混	堅	褐灰色 Hue 5Y 5／1	ロクロ痕 布ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ削り	ロクロ痕 布ﾅﾃﾞ	高台付		接合4－9Ⅱ
	105	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	長頸壺	－	(70)	(200)	－	(170)	10	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 4／1	ロクロ痕 ﾀﾀｷ・布ﾅﾃﾞ	ロクロ痕 布ナデ	高台付		接合5－15Ⅱ 6－15Ⅱ
	106	6－14Ⅱ	須恵器	長頸壺	－	(70)	(195)	(108)	(143)	5	粗砂混	堅	灰色 Hue 10Y 6／1	ロクロ痕 布ナデ	ロクロ痕 布ナデ			接合7－15Ⅱ 9－13Ⅱ 10－14Ⅱ 窯内で焼成中破壊され内面灰かぶり
第15図	107	SQ1Y	須恵器	堝	(376)			－	150	7	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y 6／2	ﾛｸﾛ痕・ﾀﾀｷ ハケ目・削り	ロクロ痕 ｱﾃ痕・ﾊｹﾒ	－	46	SQ1F4(2・3－10・11)
	108	SQ1 Y (2・3－6)	須恵器	堝	(394)				(134)	9	粗砂混	堅	灰色 Hue 5Y 6／1	ロクロ痕 ﾀﾀｷ・ﾊｹﾒ	ロクロ痕 ｱﾃ痕・ﾊｹﾒ	－		接合SQ1Y (3－5)
	109	SQ1 Y	須恵器	堝	(380)	－	－	－	(132)	8	粗砂混	堅	灰色 Hue 7.5Y 6／1	ﾛｸﾛ痕・ﾊｹﾒ 格子目状ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ痕・ｱﾃ痕 目ノ粗イ 静止ﾊｹﾒ		135	内面火襷
	110	6－7Ⅱ	須恵器	堝	(440)			190	120	5	粗砂混	堅	灰白色 Hue 5Y 7／1	ロクロ痕 縄目タタキ	ロクロ痕 ｱﾃ痕・ﾊｹﾒ	ナデ		6－12Ⅱ 8－12Ⅱ
	111	11－13Ⅱ	赤焼土器	甕	(230)	(204)	(224)	－	(195)	5	粗砂混	良	橙色 Hue 7.5YR 6／6	ロクロ痕 タタキ・ナデ	ロクロ痕 ナデ・削り	－		
	112	SQ1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	甕	(197)	(182)	(207)	－	(167)	5	粗砂混	堅	灰黄色 Hue 2.5Y 6／2	ロクロ痕 体部下半 条線状ﾀﾀｷ	ロクロ痕	丸底		接合6－10Ⅱ 6－11Ⅱ 赤焼き土器仕様→還元炎となる

出土遺物観察表（台付皿・横瓶・短頸壺・壺・三耳壺・長頸壺・堝・甕）

表4

挿図番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	計測値						胎土	焼成	色調	調整・整形			RP番号	備考
					口径	頸径	胴径	低径	器高	器厚				外面	内面	底部		
第15図	113	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	甕	(200)	(183)	(237)	－	330	6	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue7.5Y　6／2	ロクロ痕 タタキ・ナデ	ロクロ痕 青海波アテ	－		接合7－13Ⅲ 8－12Ⅲ 内外面灰かぶりゆがみあり 赤焼き土器仕様→還元炎となる
	114	2－13Ⅱ	須恵器	小型甕	(160)	(145)	(151)	－	(111)	5	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕			接合5－14Ⅱ
	115	8－15Ⅱ	須恵器	小型甕	(110)	(100)	(102)	－	(60)	3	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y　6／1	ロクロ痕	ロクロ痕			接合9－14Ⅱ 赤焼き土器仕様→還元炎となる
	116	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	甕	(195)	(182)	(205)	－	(205)	3	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 5Y／5／3	ロクロ痕 格子目状ﾀﾀｷ	ロクロ痕 条線状ﾀﾀｷ	－		接合1－13Ⅱ 2－13Ⅱ 3－13Ⅱ 赤焼き土器体様→還元炎となる
第16図	117	6－15Ⅱ	須恵器	甕	191	186	428	－	(290)	7	粗砂混	堅	灰白色 Hue 5Y　7／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 青海波アテ			接合9－14Ⅱ　10－14Ⅱ　外面灰かぶり
	118	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	丸底甕	－	－	330	－	－	10	粗砂混	堅	黄灰色　Hue　2.5Y　4／1	ロクロ痕 タタキ	ロクロ痕 アテ痕	丸底		
	119	4－14Ⅱ	須恵器	大型甕	185	170	－	－	493	6	粗砂混	堅	灰オリーブ色 Hue 7.5Y　6／2	ﾀﾀｷ・ﾍﾗﾅﾃﾞ	アテ痕	丸底		接合0－12Ⅱ 1－12Ⅱ 5－11Ⅱ 6－10Ⅱ 6－11Ⅱ 6－15Ⅱ 灰かぶり
	120	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	甕	155	155	348	－	(307)	6	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y　5／1	ロクロ痕 ﾀﾀｷ・アテ痕	ロクロ痕 アテ痕			接合4－14Ⅱ 6－14Ⅱ 7－12Ⅱ 9－12Ⅱ 10－12Ⅱ 11－13Ⅱ
	121	S Q1	須恵器	大型甕	362	310	662	－	(540)	10	粗砂混	堅	灰色　Hue 10Y　6／1	ﾀﾀｷ・ﾍﾗﾅﾃﾞ	アテ痕		193	
第17図	122	S Q1	須恵器	大型甕	192	170	410	－	463	12	粗砂混	堅	褐灰色　Hue 10Y R 6／1	ﾀﾀｷ・ﾍﾗﾅﾃﾞ	アテ痕	丸底		接合6－11Ⅱ 7－11Ⅱ 8－11Ⅱ 8－12Ⅱ 9－14Ⅱ 外面灰かぶり
	123	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	大型甕	181	163	440	－	480	8	粗砂混	堅	灰ｵﾘｰﾌﾞ色　Hue7.5Y　6／2	ﾀﾀｷ・ﾍﾗﾅﾃﾞ	青海波アテ	丸底		接合7－12Ⅱ 8－13Ⅲ 10－15Ⅱ 12－14Ⅱ
	124	S Q1	須恵器	大型甕	320	278	634	－	672	10	粗砂混	堅	ｵﾘｰﾌﾞ灰色　Hue 2.5G Y　6／1	タタキ	アテ痕	丸底	163	接　S Q1(3－9) Y　外面灰かぶり
第18図	125	S Q1ｽﾃﾊﾞ	須恵器	大型甕	580	428	788	－	(722)	12	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y　6／1	タタキ	アテ痕	丸底		外面灰かぶり
	126	X－0	須恵器	小壺	(50)	(47)	(65)	－	60	6	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y　5／1	削り	ナデ	削り		内外面灰かぶり　ヘラ起し痕 ゆがみあり　てづくね？
	127	6－13Ⅲ	須恵器	小壺	－	(35)	(70)	(40)	(45)	6	粗砂混	堅	灰色　Hue 10Y　5／1	ﾛｸﾛ痕・削り	ﾛｸﾛ痕・布ナデ	平底 ﾍﾗ成形		外面灰かぶり
第19図	128	7－13Ⅲ	赤焼土器	小型甕	(150)	(133)	(140)	－	134	5	粗砂混	良	浅黄橙色　Hue 7.5Y R　8／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切		
	129	6－14Ⅱ	赤焼土器	小型甕	140	－	－	74	105	5	粗砂混	良	浅黄橙　Hue 7／5Y R　8／4	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切		接合6－13Ⅲ 8－13Ⅲ 5－14Ⅱ
	130	3－13Ⅱ	赤焼土器	小型甕	145	－	－	72	124	5	粗砂混	良	浅黄橙　Hue 7／5Y R　8／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切		
	131	0－12Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(120)	(106)	(109)	－	(85)	6	粗砂混	良	にぶい黄橙色 Hue10Y R　7／4	ロクロ痕	ロクロ痕			
	132	9－14Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(100)	(88)	(92)	－	(75)	3	粗砂混	良	橙色 Hue 7.5Y R　6／6	ロクロ痕	ロクロ痕			接合10－14Ⅱ 12－14Ⅱ 12－15Ⅱ 13－15Ⅱ
	133	5－14Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(147)	－	－	－	(95)	4	粗砂混	良	にぶい橙色 Hue 7.5Y R　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕			
	134	3－13Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(144)	(132)	139	－	(74)	5	粗砂混	良	にぶい橙色 Hue 7.5Y R　6／4	ロクロ痕	ロクロ痕			
	135	2－10Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(113)	102	100	－	72	3	粗砂混	良	橙色　Hue　7.5Y R　6／6	ロクロ痕	ロクロ痕			接合3－13Ⅱ 3－13Ⅲ3－14Ⅱ 3－18Ⅱ
	136	3－13Ⅱ		小型甕	(152)	－	－	－	(125)	5	粗砂混	良	浅黄色　Hue 2.5Y　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕			
	137	10－14Ⅱ	赤焼土器	小型甕	(165)	(153)	(158)	－	(100)	5	粗砂混	良	にぶい橙色　Hue7.5Y R　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕			
	138	4－14Ⅱ	赤焼土器	甕	(180)	(158)	(192)	－	94)	6	粗砂混	良	にぶい黄橙色　Hue10Y R 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕			接合7－13Ⅱ

出土遺物観察表（小壺・小型甕）

である。土器には回転ヘラ切りが明瞭に残す土器が多い。

高台付杯（第9図42～11図63）

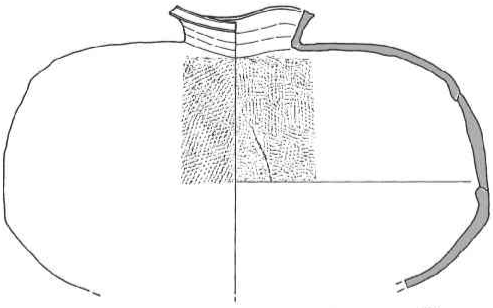
高台付杯は22点の土器を実測し掲載した。分類は器の規模から分け、A類を小型となる器で身が浅く、丸みを持つもの(42・43)と、丸みを持ちながら外反する杯（45・46・47）がある。B類は中型で身が深く、丸みを持って立ち上がるもの（48・51・52・54）と、身が深く、やや直線的に外反する杯（44・49・50・53・59）がある。C類は大型で、B類と類似するが丸みを持つもの（57・60・62）と、やや外反する杯（55·56・58・61・63）である。底部の切り離しはすべて回転ヘラ切りで、底部に高台を付す。第9図47には底部に墨痕が認められるが、字体は不明である。また、ヘラ起こし痕を残すものがある。

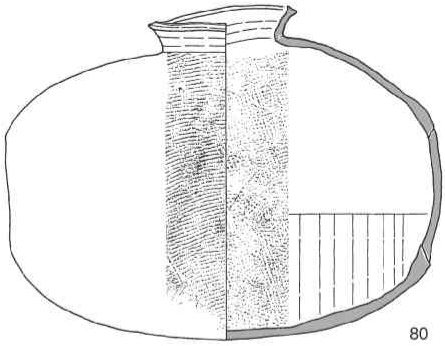
台付皿（第11図64～78）

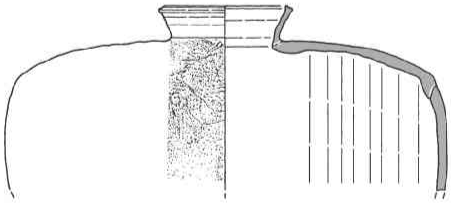
台付皿は15点の土器を実測し掲載した。皿部が水平に近い様相を呈するもの（64・65・66・69・70・72）と、皿部が深くなるもの（67·68·71·73～78)がある。台部は、ハの字状に外部に広がるもの(64～68・70)と、皿部底部でやや直立する（71·72·74～78）器形がある。皿部が水平に近いものは上部に器等を乗せるものと考える。

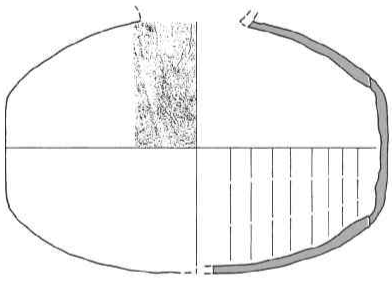
横瓶（第12図79～86）

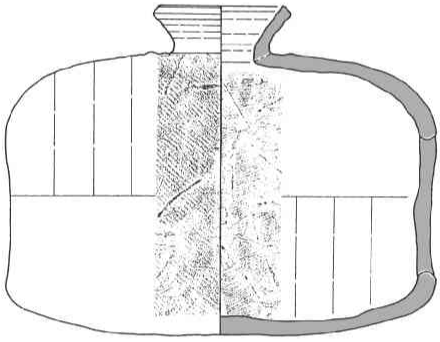
横瓶は8点の土器を実測し掲載した。円筒形にした器形を示し、上半部と下半部を両端で閉栓する。外面に条線状の叩き痕を残し、ロクロ痕が観察できる。

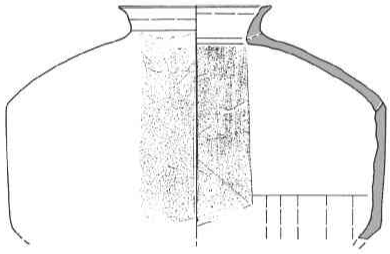

79

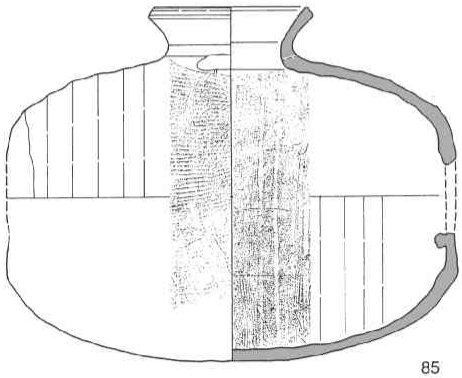

80

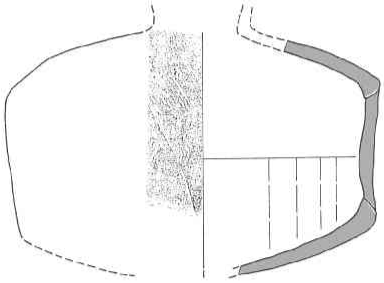

81

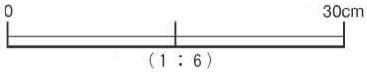

82


83

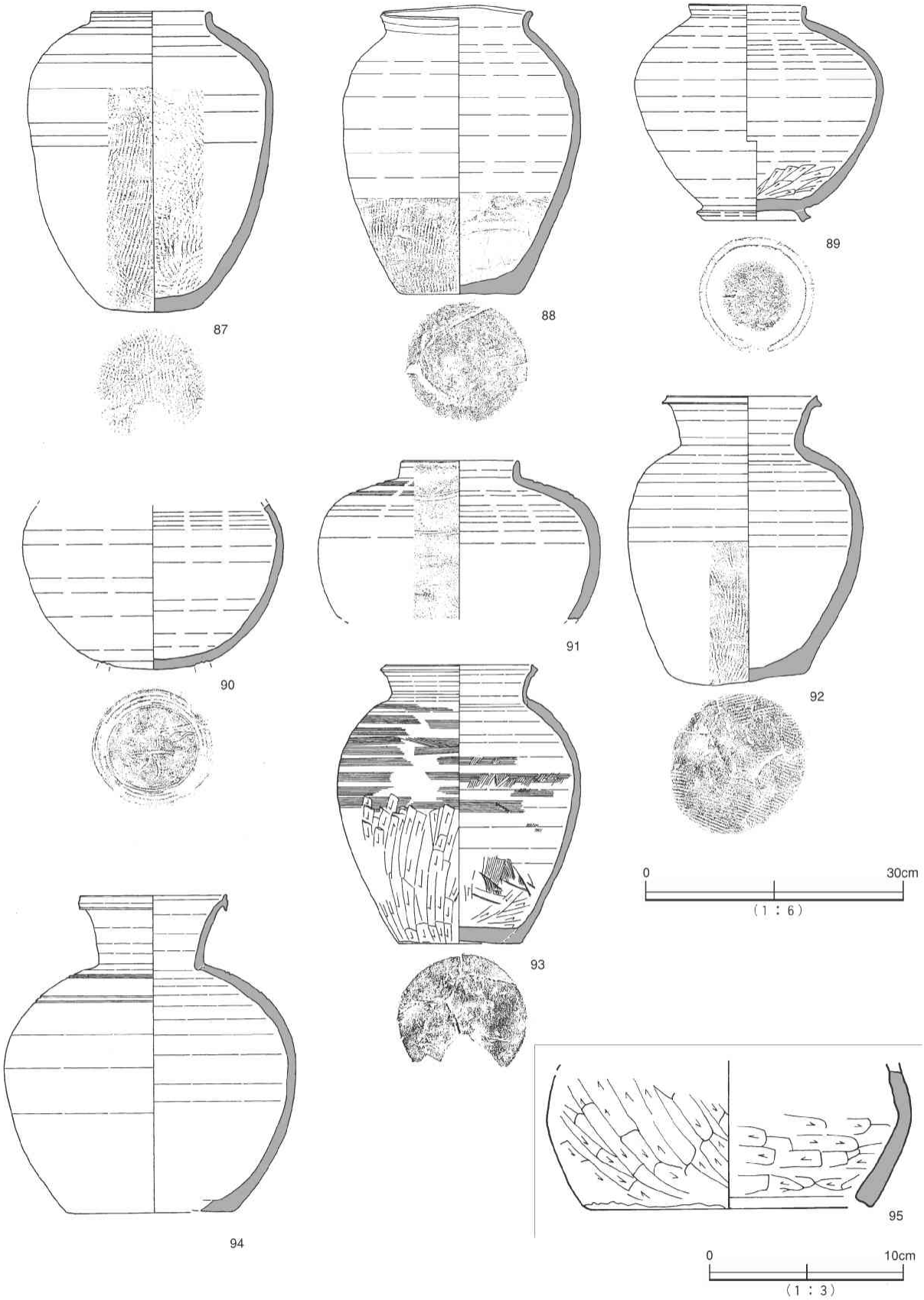

84


85


86



第12図　出土土器（横瓶）



第13図　出土土器(甑)

短頸壺（第13図87～91）

5点が実測でき掲載した。丸い形をする短頸壺は底部に高台を付し（89・90）、長胴になるものは底面が丸くなるもの（87）や、高台がつかないもの（88・91）や、底部が歪なものがある（88）。内外面共にロクロ痕を示し、条線状の叩きや、青海波のアテ痕が施される。８７の短頸壺の底部は底面を縄目のタタキによって底面を整形している。89の内部には底部内面にヘラによる削り痕が明瞭に残す。

長頸壺（第13図92～94・第14図99～106）

全面にロクロ痕をのこし、体部下半に縦位にヘラによる整形痕をのこすもの（93・99）や、下半に横位にヘラ削りを示すものがある。形状は球形したものや、肩部で張り出す形がある。底面の切り離しは、回転ヘラによる切り離しで高台を施す。93は高台を付さないが底部を粘土板で閉じている。

三耳壺（第14図96～97）

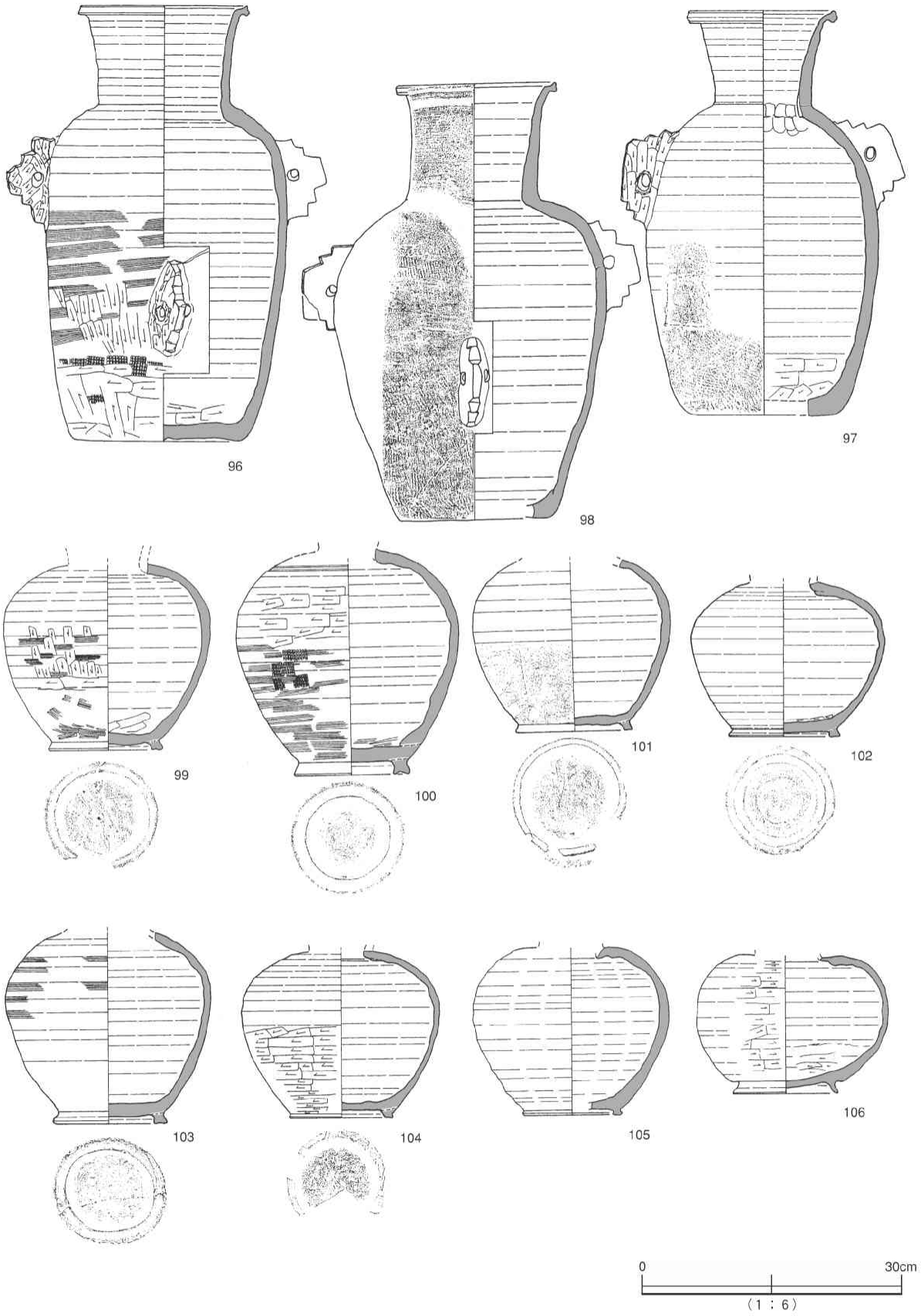
復元途中になってから双耳壺の体部中位に同様な耳が接合し、三耳となったものである。口縁が広く高い。体部と口縁部を接合し、体部に縄目のタタキ痕を残し、全面にロクロ痕を施す。耳部には中心に孔が施され、三点が三角点状になる。孔に紐状の綱を掛け、飲み物を運んだ容器と考える。

堝（第15図107～110）

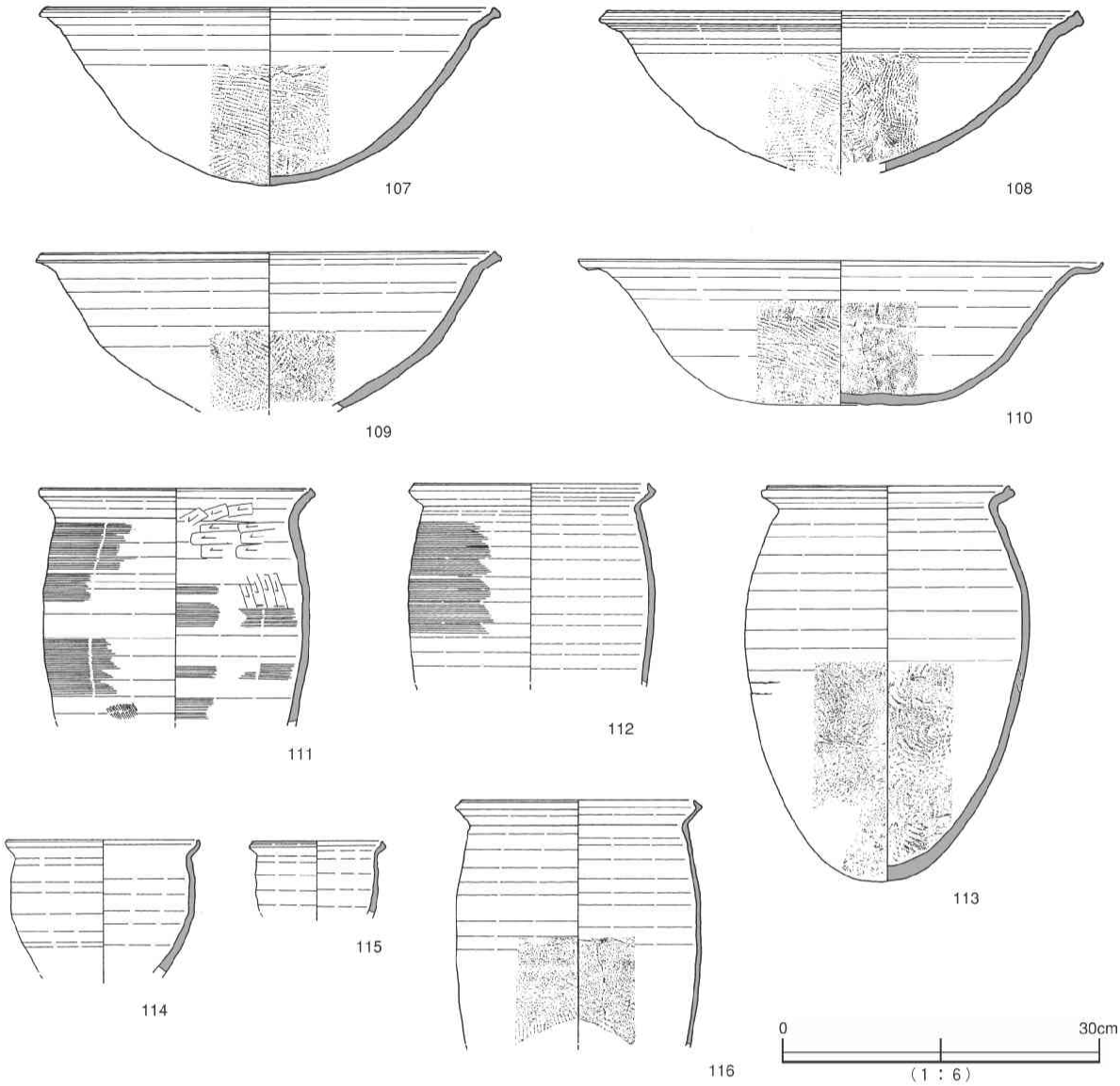
四点が実測でき掲載した。遺跡での鍋は赤焼土器で出土するのが通常であるが、本窯跡では須恵器で出土している。鍋は水物の調理で使用されるが、硬い性質の鍋が焼成されている。内外面共に条線状のタタキ痕が施される。110は口縁は大きく外反し、口唇が急激に外に折れ曲がり、端部で立ち上がる。

甕（第15図111～116）

長胴形を呈した土器（111～113・116）で、外面にロクロ痕を示し、内面は青海波のアテ痕（113）や、内面をヘラ状工具による削り痕を残す（111）。116は口唇が急激にクの字状に内反している。114・115は、小型の甕形土器である。全面にロクロ痕を示し、強い焼成である。



第14図　出土土器（三耳瓶・長頸壷）



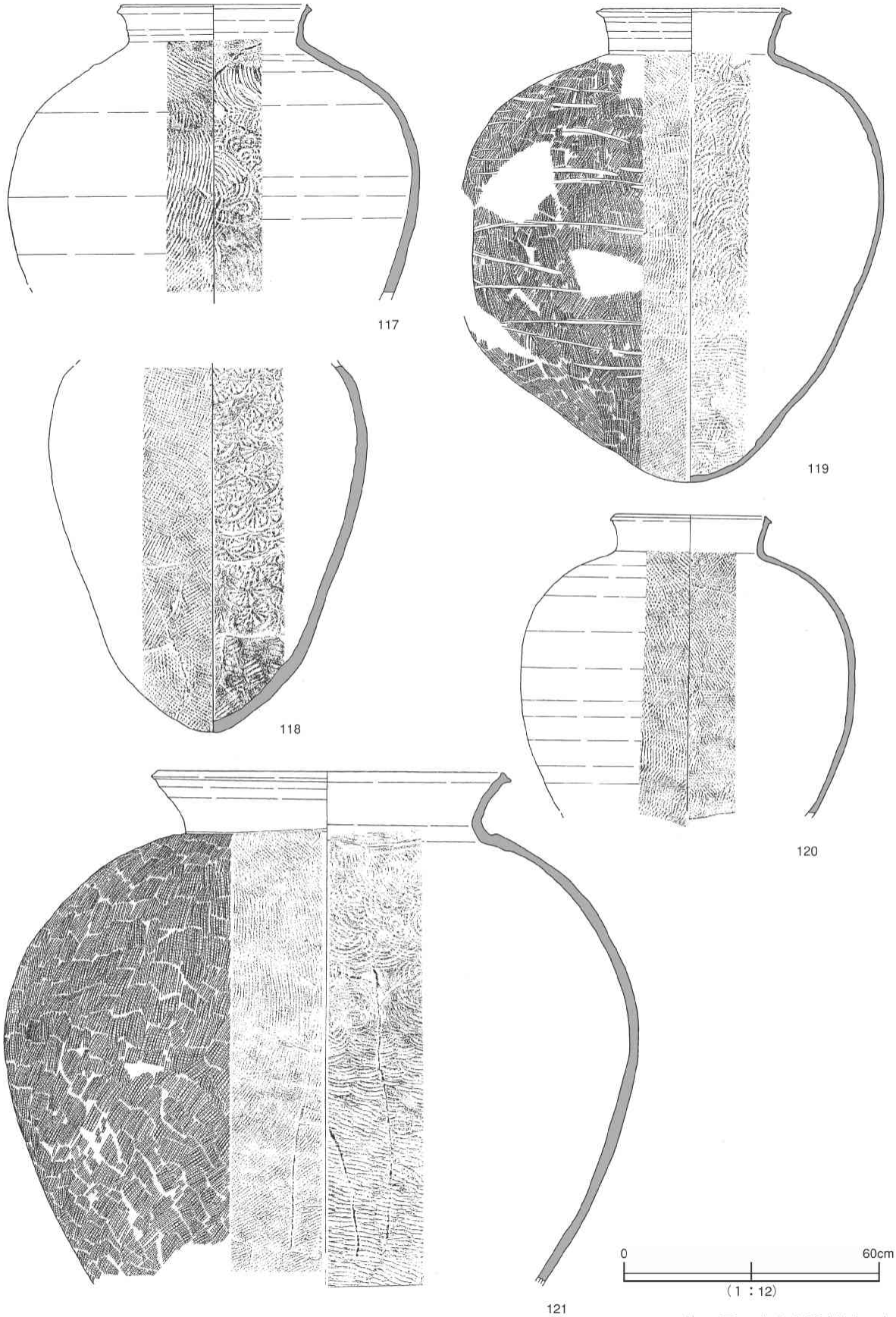
大甕（第16·17図・18図117～125）

大きな甕で、底部は尖底状になる。外面を条線状のタタキ面と、内面は青海波のアテ痕である。口縁部がやや、直立する（119・120）と、外反する117と121が観察される。土器製作事の容器と考える。

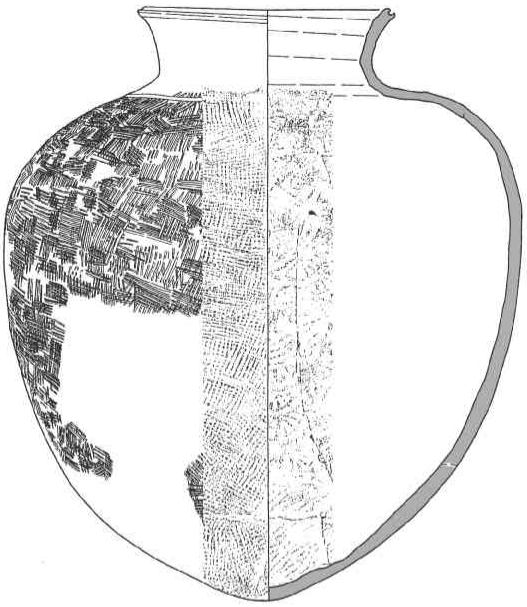
小壺（第18図126・127）

小壺は２点の出土である。ロクロ（127）と、ヘラ調整（126）の小壺であり、126は乾燥で器形が歪になる。127は丁寧な製作である。底面は平坦となる。

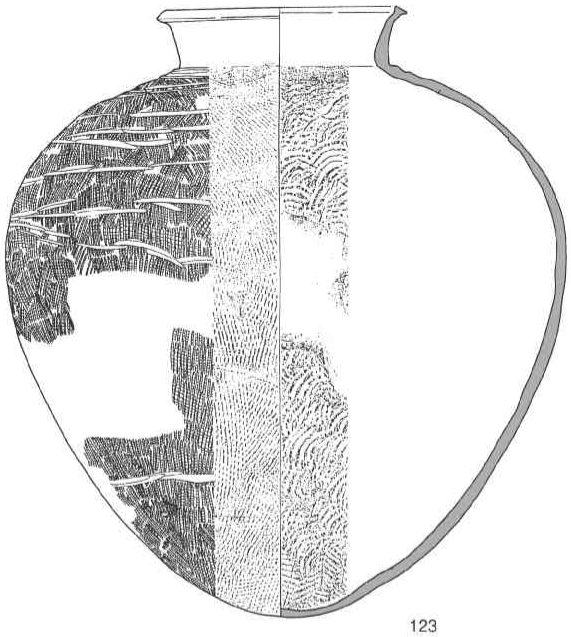
第15図　出土土器（堝・甕）



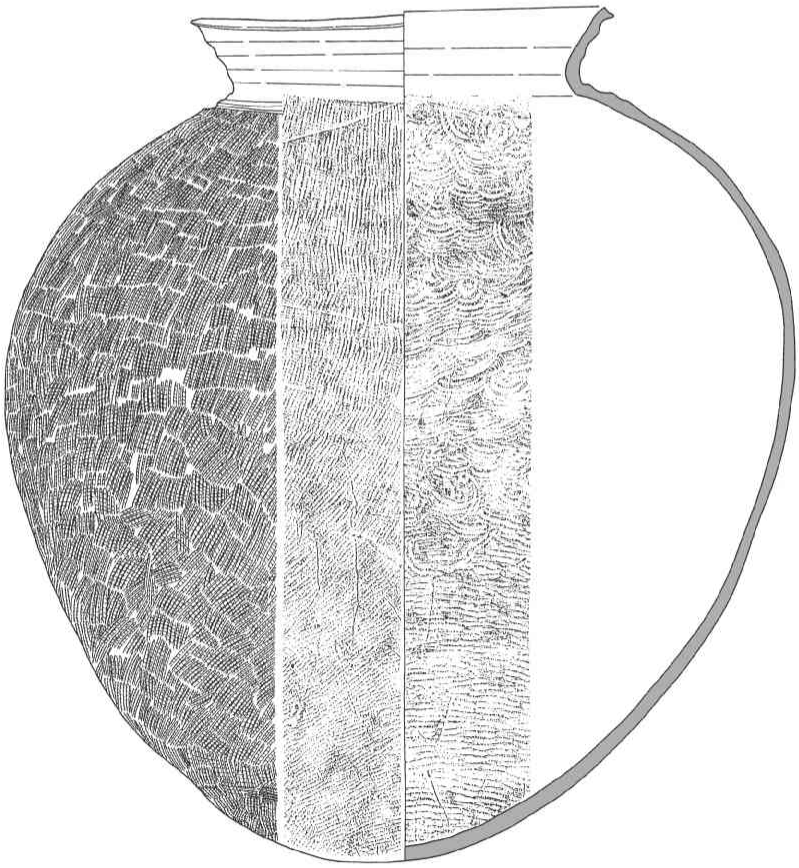
第16図　出土土器（大甕１）



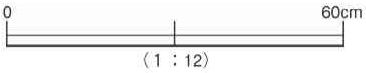
122



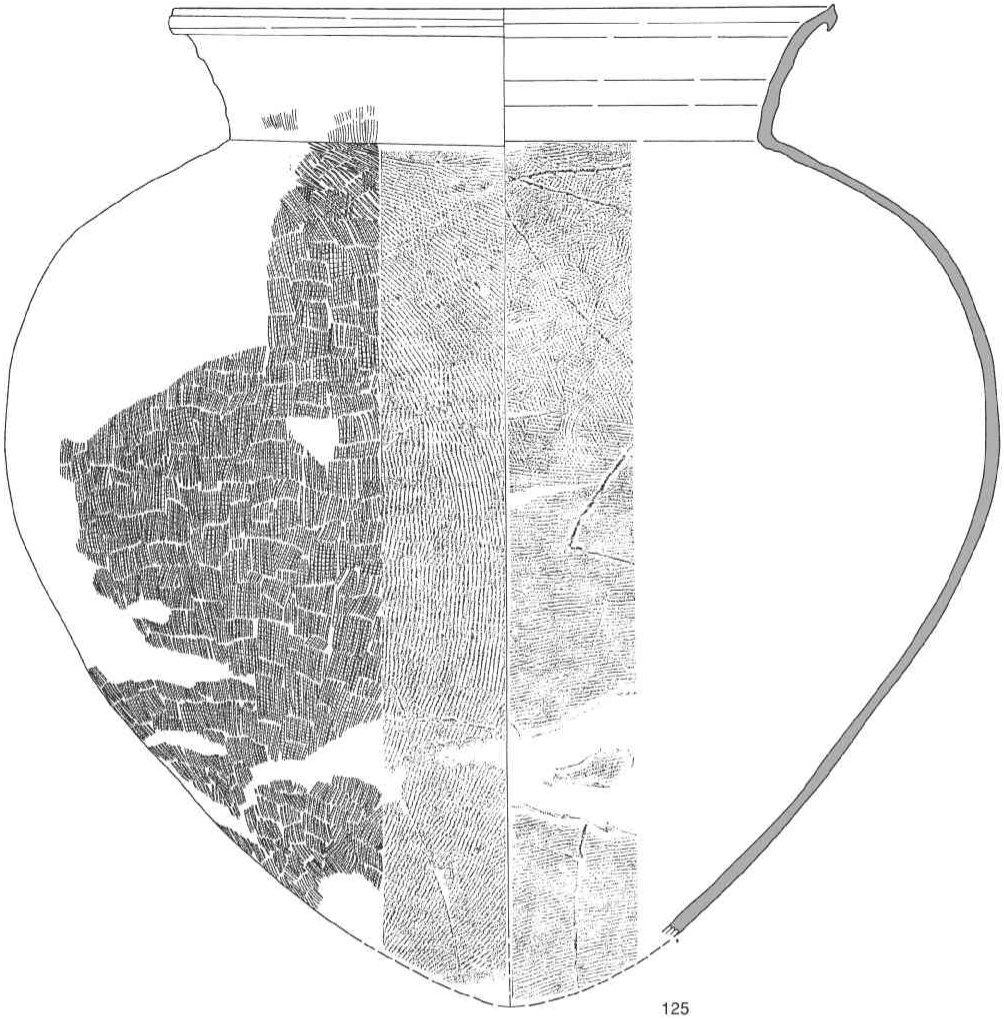
123



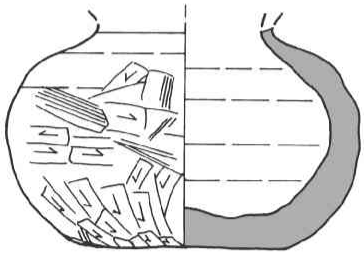
124



第17図　出土土器（大甕２）



0　60cm
（1：12）



0　5cm
（2：3）

第18図　出土土器（大甕３・小壷）

赤焼土器（第19図128～138）

土器は、小型の甕形土器である。底部が存在するものは128～130である。全面にロクロ整形痕を示し、形状は頸部でクの字状に折れ曲がり、口唇で立ち上がる。138は大型の甕である。長胴形を呈するものと推測できる。129外は底部の切り離しが回転糸切り離し（128・130）で、他は底部が復元できなかった。器の大きさは１００ｃｍ前後の小さな甕である。これらはすべてが灰原の捨て場地区で確認されている。出土量が少なく、本窯での作成として判断する様子が認められない。窯からは酸化炎焼成の須恵器の出土のみである。１２９の底部切り離しは回転のヘラ状工具による切り離しと推測できるが拓本では明瞭な痕跡は確認できなかった。器形は底部から緩やかに立ち上がり、口縁部でクの字に外側に折れ曲がり、口唇で急激に立ち上がったり（130～133・135・137・138）、内側に折れ曲がったり（128・129・134・136）する形状が確認できる。

ＳＫ2土坑出土土器（第20図1～13）

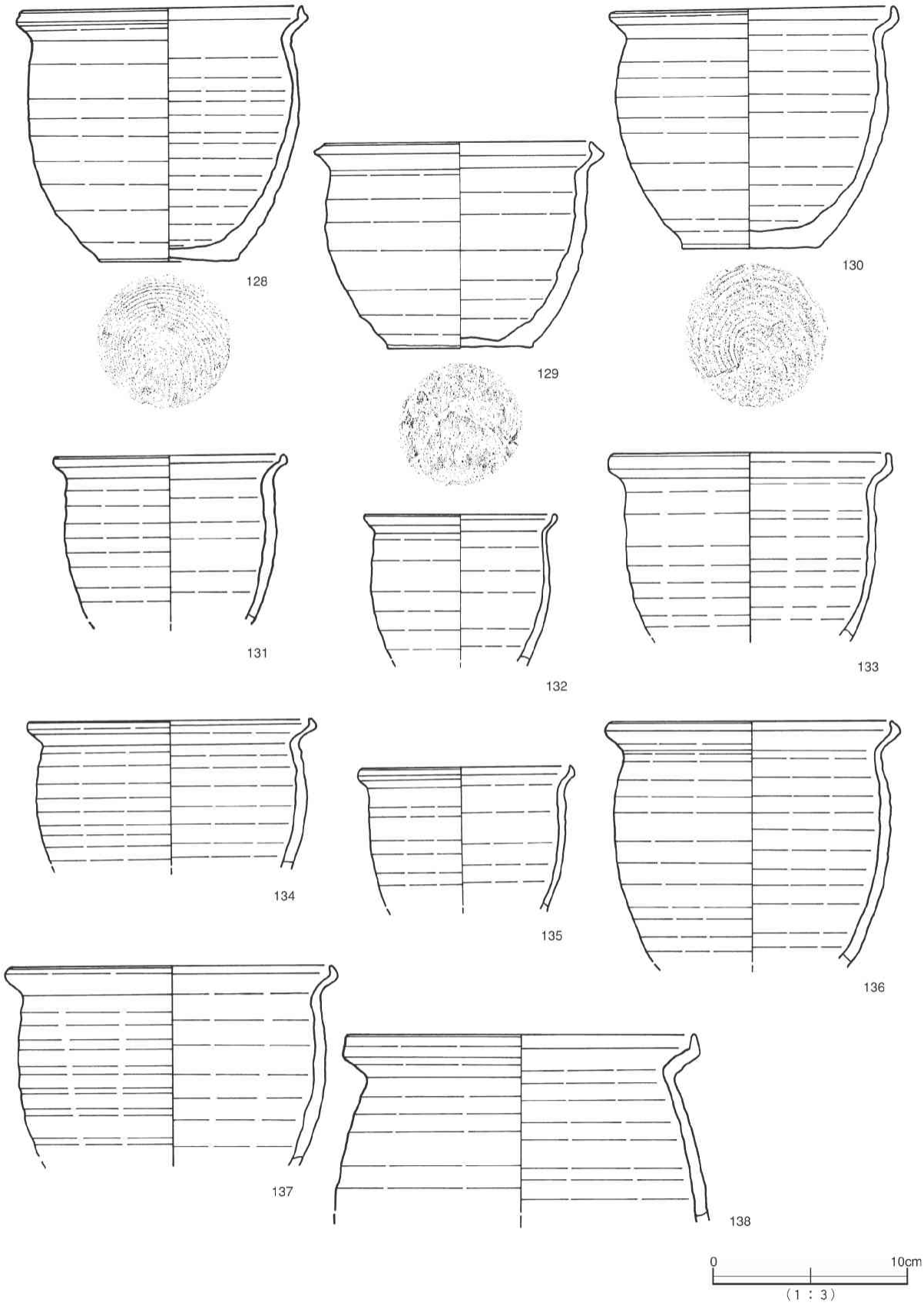
ＳＫ2土坑は本窯跡のすぐ左の東側で確認できたものである。平面形がやや円形となったもので、覆土からは13個の須恵器杯が、伏せられた状態で折り重なった形で出土した。土器の底部はすべて回転ヘラ切り離しで、工具の跡を明瞭に残すものが多く、取り上げのヘラ起こし痕を残す。形状は底部が水平となる（2・3・8・10～12）杯と、丸みをもって調整が少ない（1・4～7・9）が確認できる。口径は120ｃｍ前後、器高が34～38ｃｍのほぼ同じ大きさの杯で、同時に埋設された感を受ける。第6図には検出状況の平面図と断面図が掲載されているが、その観察でも意図的な様相が窺われる。窯跡と一体になったものと考える。

土坑内からは、一括して出土している。底面が丸くなるものや、直線的になるものがある。埋め込まれていることから同時に設置されており、13点の出土である。すべてがロクロ整形を示し、回転痕や、ヘラ越し痕が観察される。埋設は瞬時であり、時期は同時代と考える。形状は体部が丸みを示す3・7・11・13である。外反する2・4～6・8・9、やや直立する1.10・12である。土坑は窯跡の西側で検出され、窯の設置したときの行事なのか、窯跡が焼成終了時に設置された土坑とも推測でき、出土遺物が遺構の性格を提示していると考える。

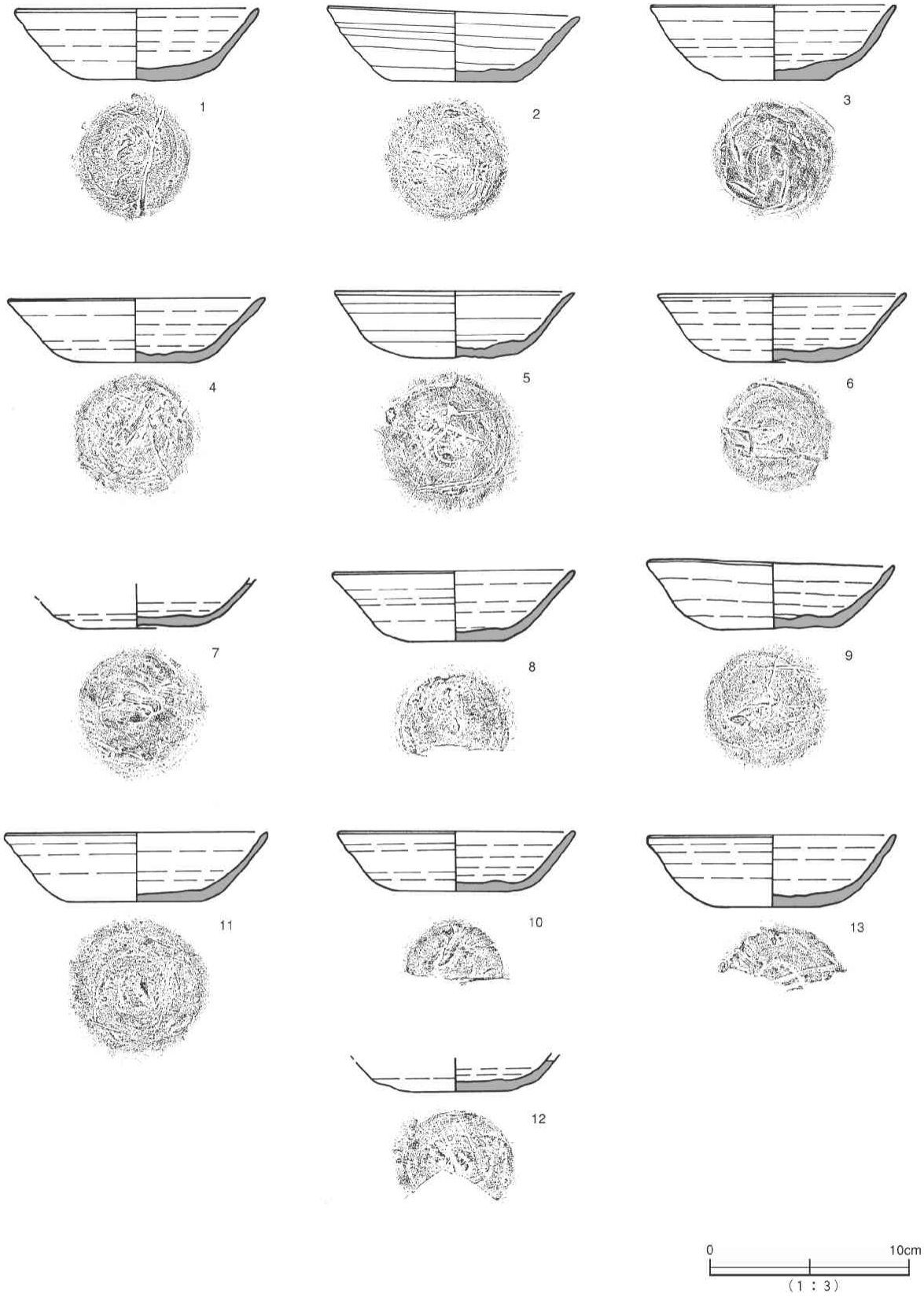
表5

挿図番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	計測値						胎土	焼成	色調	調整・整形			RP番号	備考
					口径	頸径	胴径	低径	器高	器厚				外面	内面	底部		
第20図	1	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	104	－	－	56	36	4	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切	327	接合1－1
	2	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	(126)	－	－	60	38	3	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y　7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	回転ヘラ切	328	接合1－1 ヘラ起し痕
	3	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	(124)	－	－	56	38	4	粗砂混	堅	にぶい黄色　Hue 2.5Y　6／3	ロクロ痕・布ナデ	ロクロ痕	ヘラ切	329	ヘラ起し痕
	4	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	(124)	－	－	60	35	5	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y　7／3	ロクロ痕・布ナデ	ロクロ痕・布ナデ	ヘラ切	330	接合1－1 ヘラ起し痕
	5	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	122	－	－	60	34	3	粗砂混	堅	灰白色　Hue 5Y　7／2	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切	331	接合1－1 ヘラ起し痕
	6	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	128	－	－	58	35	2	粗砂混	堅	灰白色　Hue2.5Y　8／1	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切	332	接合1－1 ヘラ起し痕
	7	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	－	－	－	60	(21)	5	粗砂混	堅	灰黄色　Hue 2.5Y　7／2	ロクロ痕	ロクロ痕・布ナデ	ヘラ切	333	接合1－1 ヘラ起し痕
	8	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	(122)	－	－	52	35	4	粗砂混	堅	灰黄色　Hue 2.5Y　6／2	ロクロ痕	ロクロ痕・布ナデ	ヘラ切	334	ヘラ起し痕
	9	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	125	－	－	60	34	2	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5Y　6／1	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切	335	ヘラ起し痕
	10	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	(120)	－	－	(76)	30	4	粗砂混	堅	灰黄色　Hue 2.5Y　7／2	ロクロ痕・布ナデ	ロクロ痕・布ナデ	ヘラ切		ヘラ起し痕
	11	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	(133)	－	－	70	35	4	粗砂混	堅	浅黄色　Hue 2.5Y　7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切		ヘラ起し痕
	12	ＳＫ2 F1	須恵器	坏	－	－	－	50	(12)	5	粗砂混	堅	にぶい黄橙色 Hue10ＹＲ 7／3	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切		ヘラ起し痕
	13	ＳＫ2 Ｙ	須恵器	坏	(126)			(60)	35	5	細砂痕	堅	にぶい橙　Hue 7.5ＹＲ　7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	ヘラ切		

出土遺物観察表（ＳＫ２）



第19図　出土土器（赤焼土器）



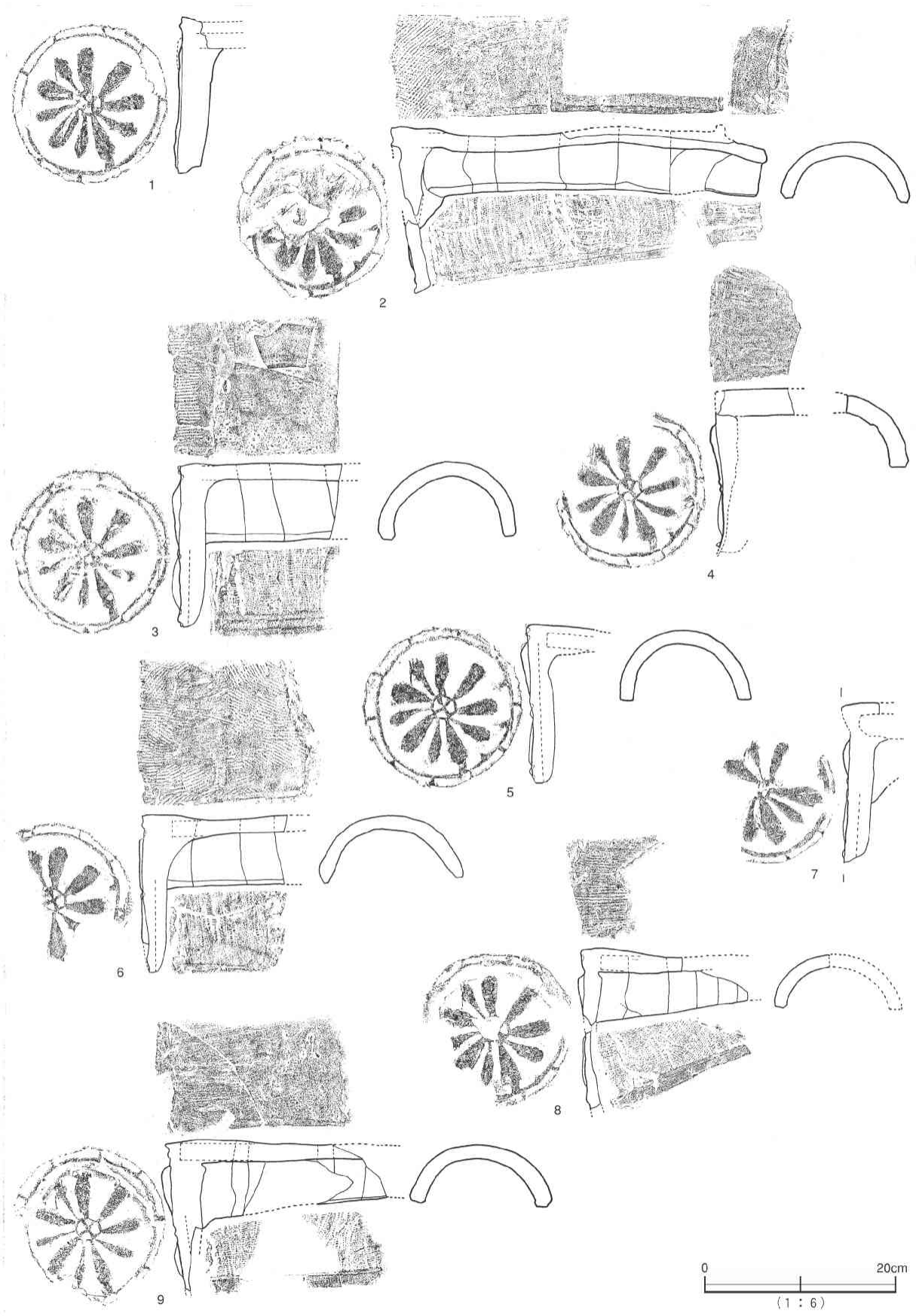
第20図　SK2土坑出土土器

出土瓦（第21図1～第30図63）

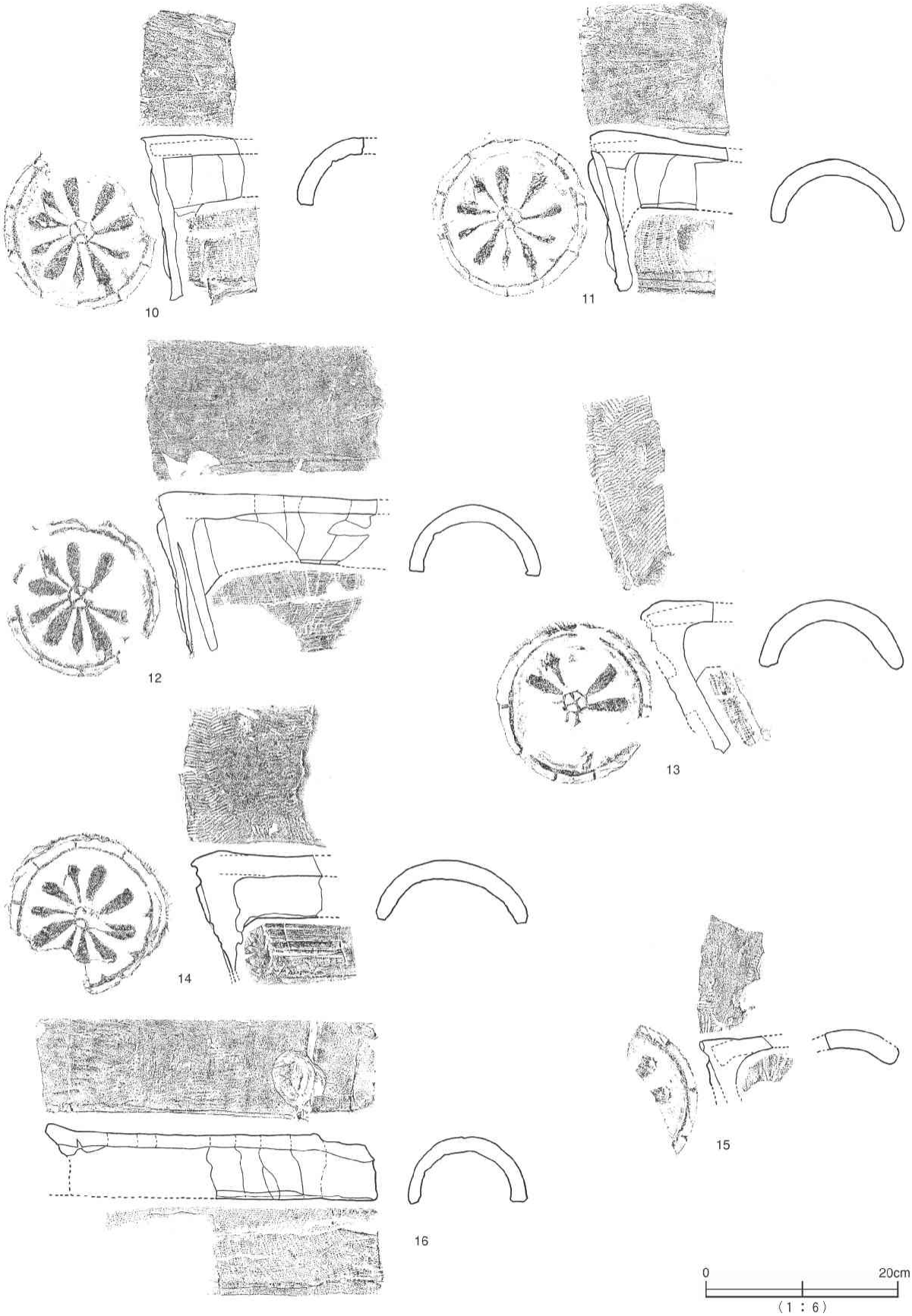
瓦は軒丸瓦、丸瓦、平瓦の三種類が出土した。軒丸瓦の出土数は８箱、丸瓦は18箱、平瓦は184箱である。総数210箱を数え、今次の窯跡の調査で出土した遺物の総数からは約三分の二程である。瓦以外では、生活什器の須恵器の杯、甕、壺、鍋等である。本来、本窯跡は瓦を焼成することで構築されたものと考える。ここでは出土瓦について種別ごとに説明する。

軒丸瓦（第21～23図1～25）からは、図化出来た資料は、24点である。第21図の1は酒田市本楯に所在する城輪柵跡の正庁跡から、28mほど東側の溝跡付近の土坑から出土したとのことで、市職員から許可を得て拓本、実測、写真を掲載した。出土軒丸瓦の中で全長を復元できたのは第21図2の軒丸瓦である。しかし、丸瓦の表面が焼成時に弾け、拓本では空白が見える。全長349㎜、高さ68㎜、幅140㎜である。瓦当面の径は168㎜～173㎜を計り、瓦当面の範型は単弁の十弁蓮華文である。弁は太いものや、細いものがみえる。中心には円形の四区分されている。また、瓦当を観察すると、丸瓦の中心が天となり、四区分された円を中心にして弁が放射状に配置される。弁の頂点に範の傷が見えるものや、頂点がヘラで整形されるもの、瓦当の弁の下部は外区に弁を止める繋ぎの部分が見え、範型には故意に彫り残している。また、頂部の弁には弁と弁の間に片方からの彫り残しが続く。弁の規模や、配置が城輪柵跡出土の軒丸瓦と同一であることが観察される。外輪区画は10区分されている。

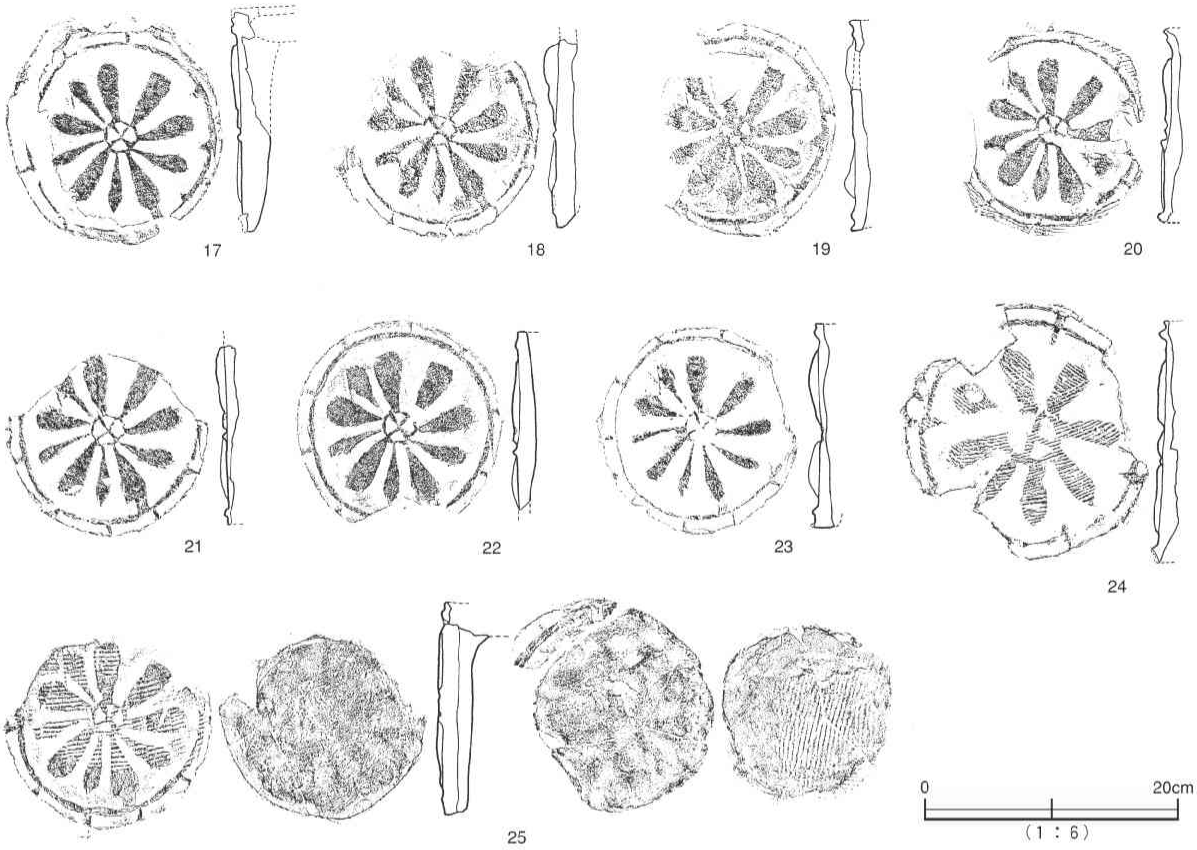
丸瓦（第24図～26図26～47）の中で全長が測れるものは5点（26～29・33）ある。全長398㎜、高さ75㎜、幅148㎜である。形状は広端面と狭短面ではやや短冊状になり、厚さ15㎜である。製作は丸太に帯状の粘土を範に巻き付け、表面を縄目のタタキで締めている。内面には、取り上げでの紐状の痕跡が残るものがある（26）。玉縁部は一回り小さくし、ほかの丸瓦と重ねられるようになる。玉縁は長さ41㎜、厚さ15㎜、玉縁幅110㎜を計る。灰をかぶる瓦もあり、焼成時の問題である。



第21図　出土瓦（軒丸瓦(1)）



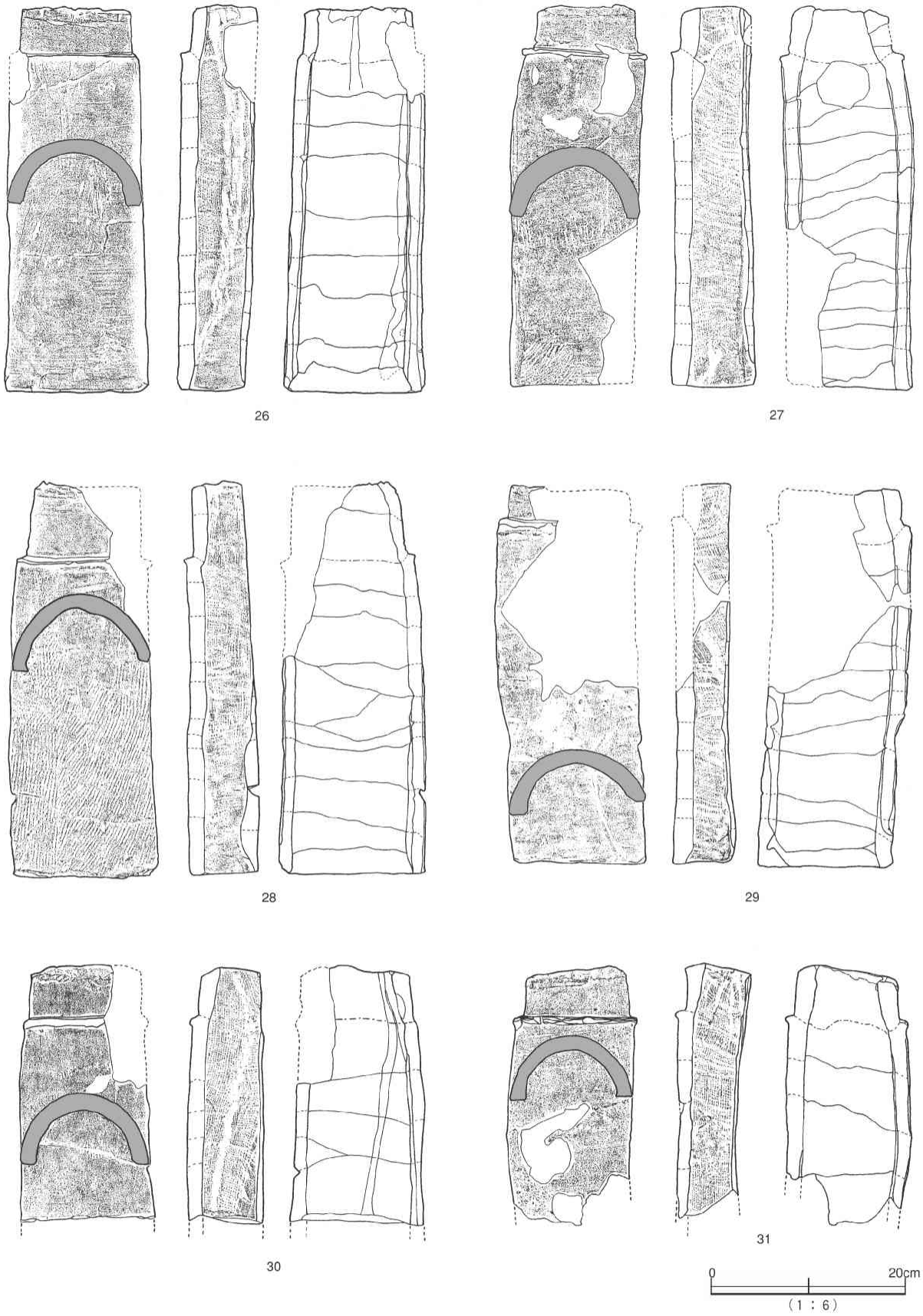
第22図　出土瓦（軒丸瓦(2)）



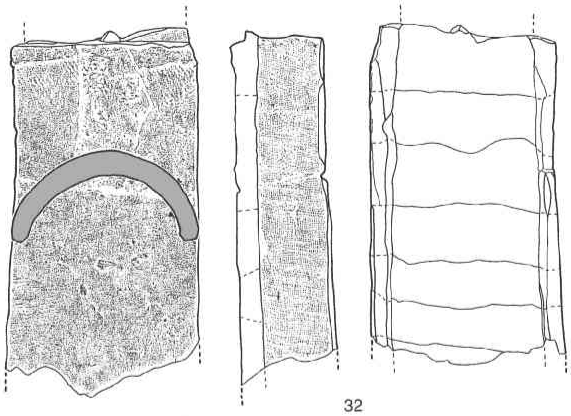
第23図　出土瓦（軒丸瓦頭面）

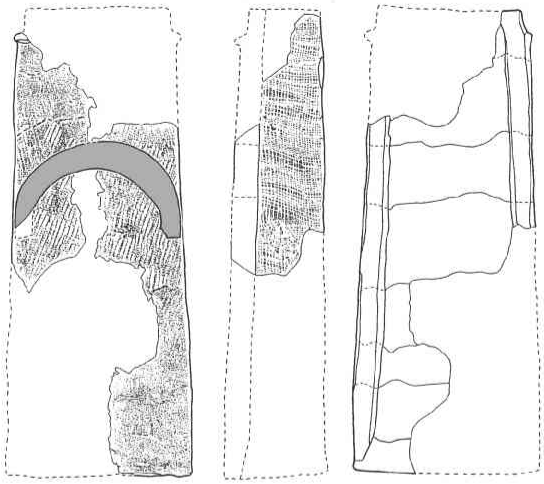
平瓦（第27図～30図）は、破片となっていたが、復元で多くの平瓦が掲載できた。丸瓦と同様で、広端面が広く、狭端部では、やや狭く、瓦を並べる際に丁寧な配置が出来るようになっている。規模は、全長405㎜～430㎜、高さ48㎜～74㎜、厚さ22㎜～33㎜である。形状は他の瓦と同様で、広い端部とやや狭い端部を持つ。成形では凸面に縄目タタキ後、布撫でが施される。端部の成形では、面を削るものや、撫でるだけのものがある。凹面は、布目アテ痕や、縄目のタタキが観察される。作製は、瓦より一回り大きな作製台に粘土板をのせ、凹面には板材やヘラで調整している。凸面は縄目のタタキ痕や、たたき後に布撫でが施される。中心付近には作製台に粘土を固定する木枠部の先端が瓦の粘土に、長辺35㎜、短片30㎜の長方形した深さ1～2㎜の痕跡が両側2箇所に存在する。粘土の整形でタタキや、撫でを抑える役目となっている。

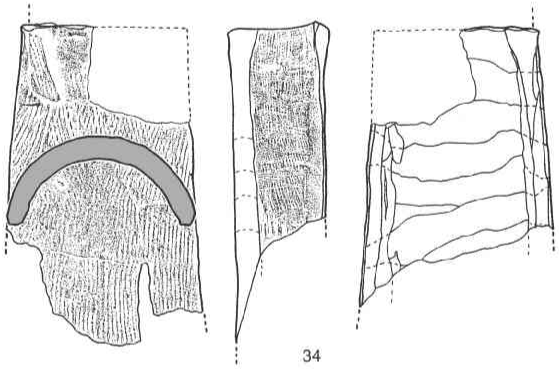
瓦は、端部を広くしたり、片端を狭くする作製で、片方の瓦に重ねられることや、積み重ねられるように工夫を施している。瓦については一つの窯跡からの一括で出土し、作製工人の存在や、平野部への供給に今後の課題が提出された。

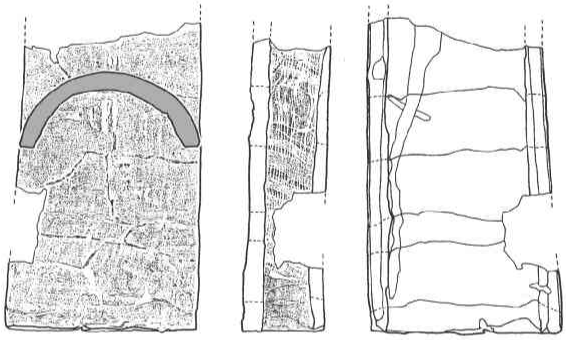


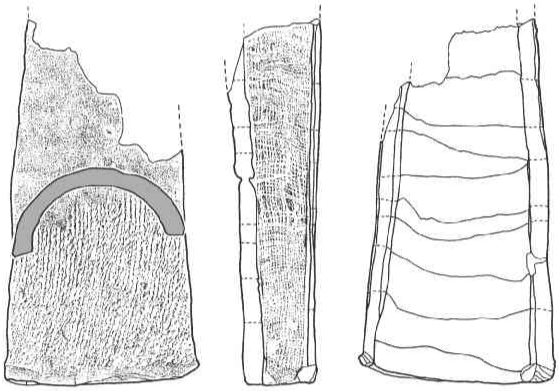
第24図　出土瓦（丸瓦）

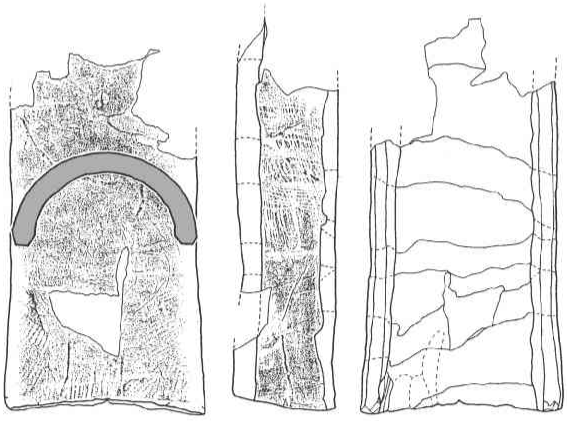

32

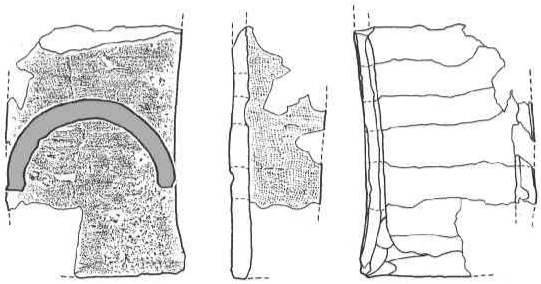

33

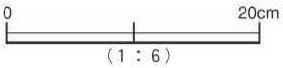

34


35

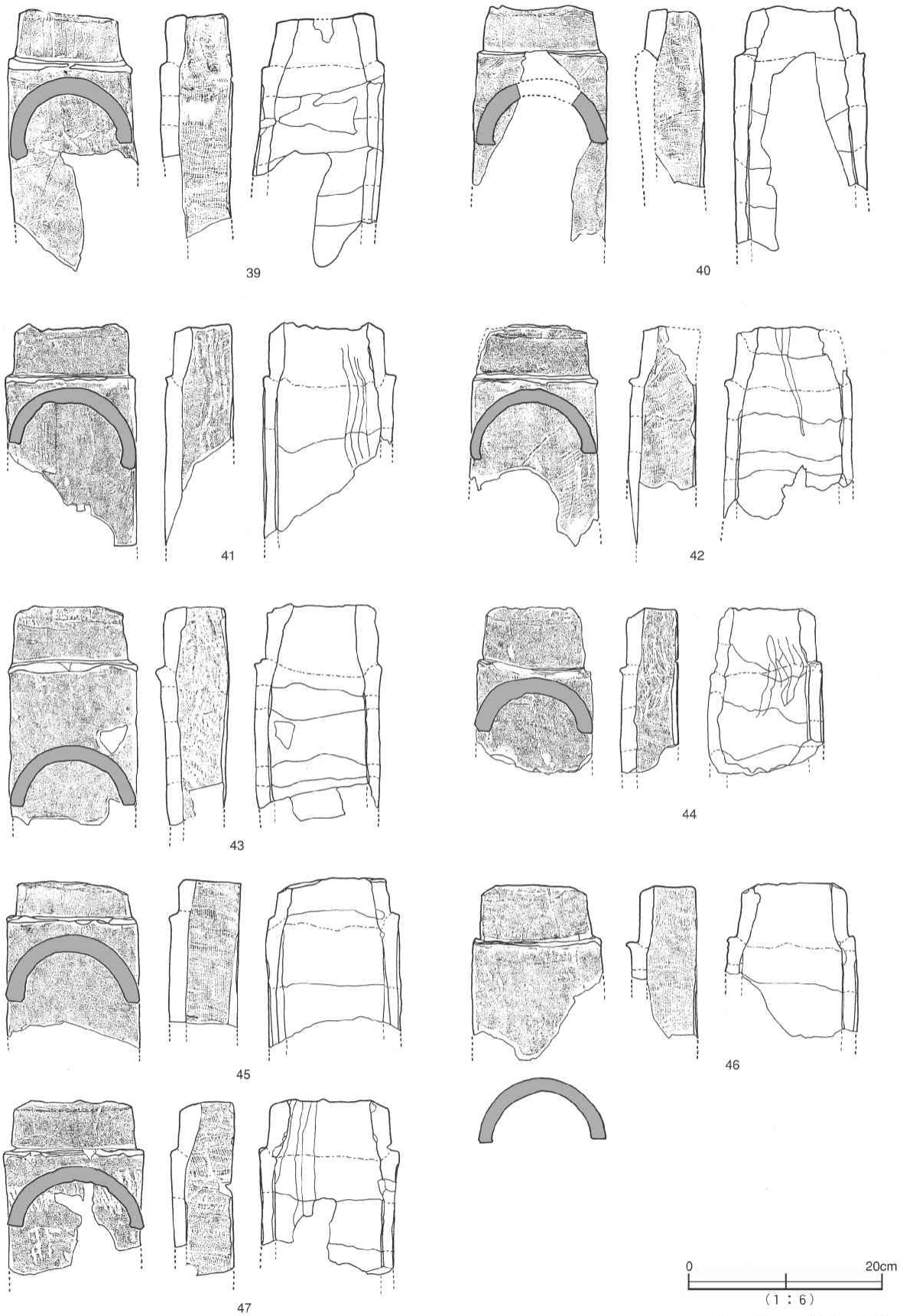

36


37

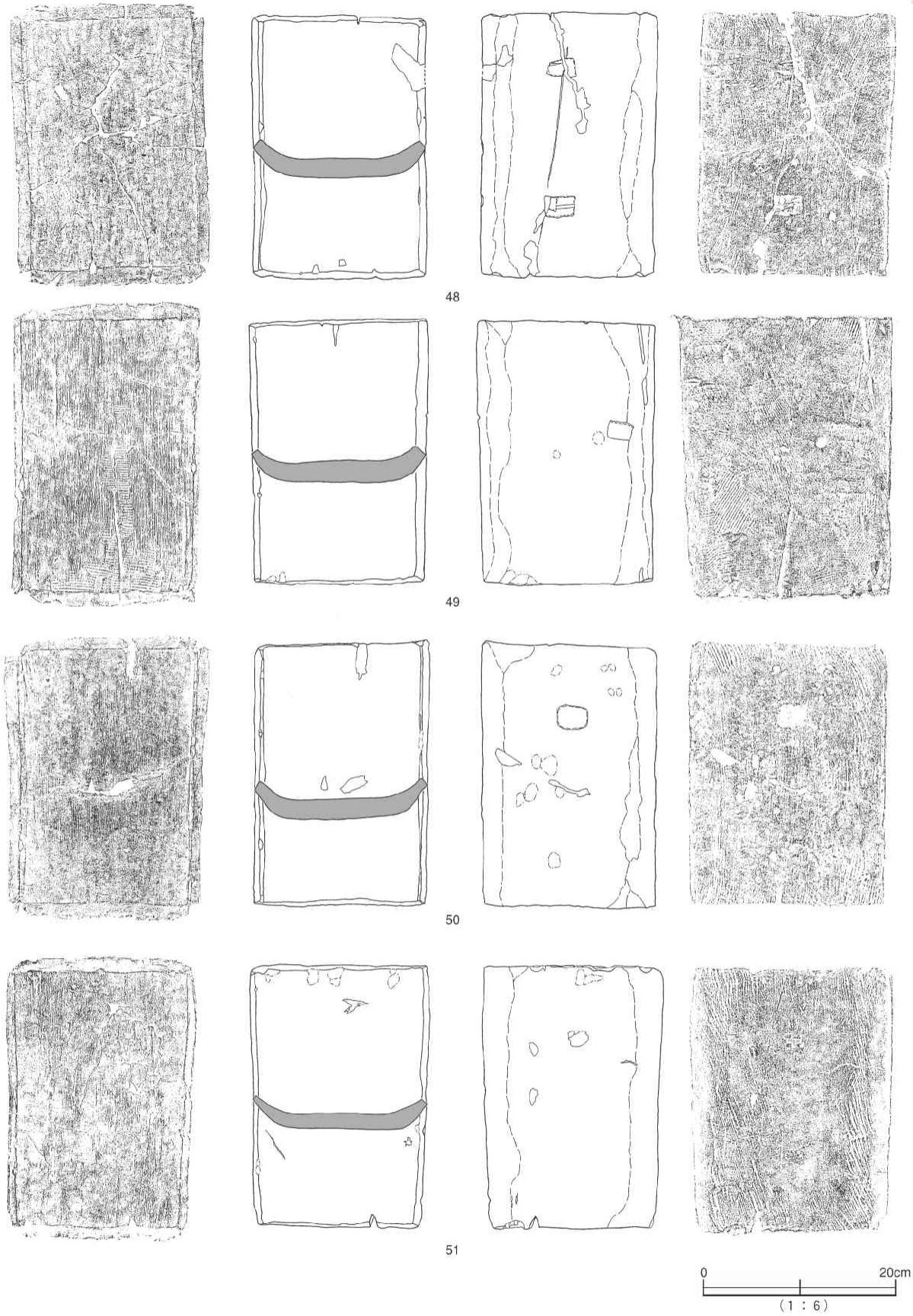

38



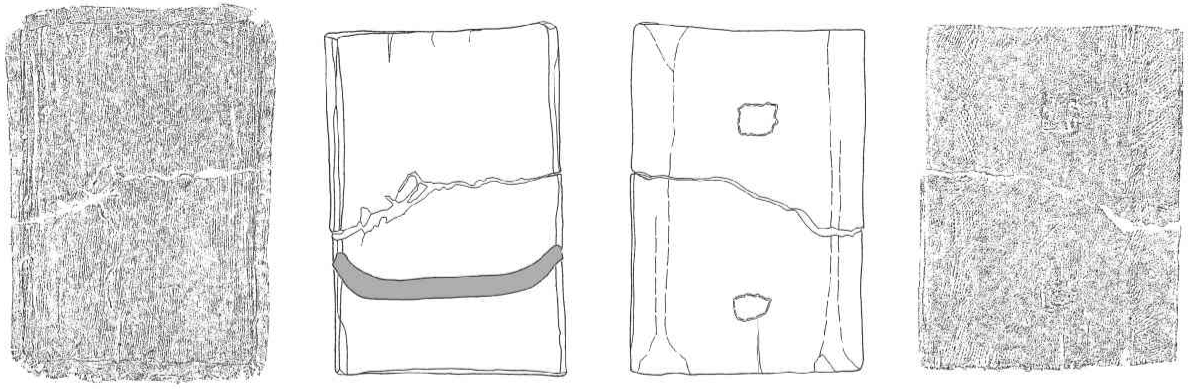
第25図　出土瓦（丸瓦）



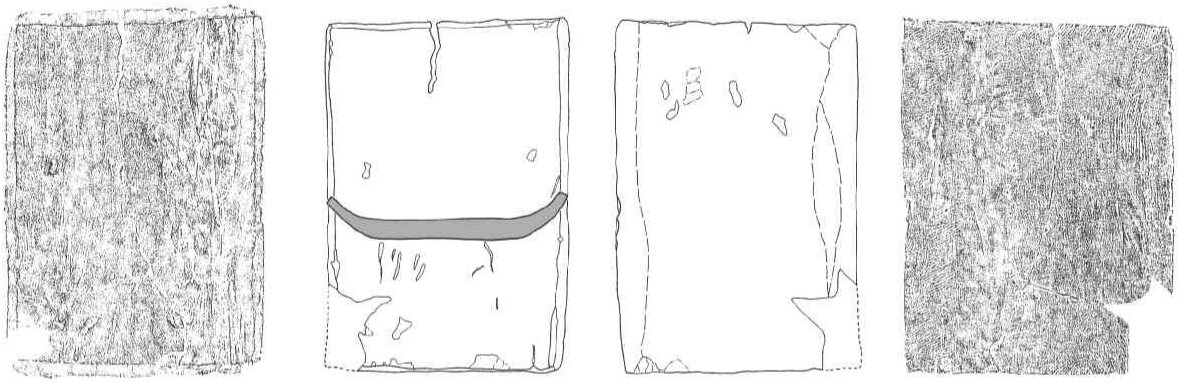
第26図　出土瓦（丸瓦）



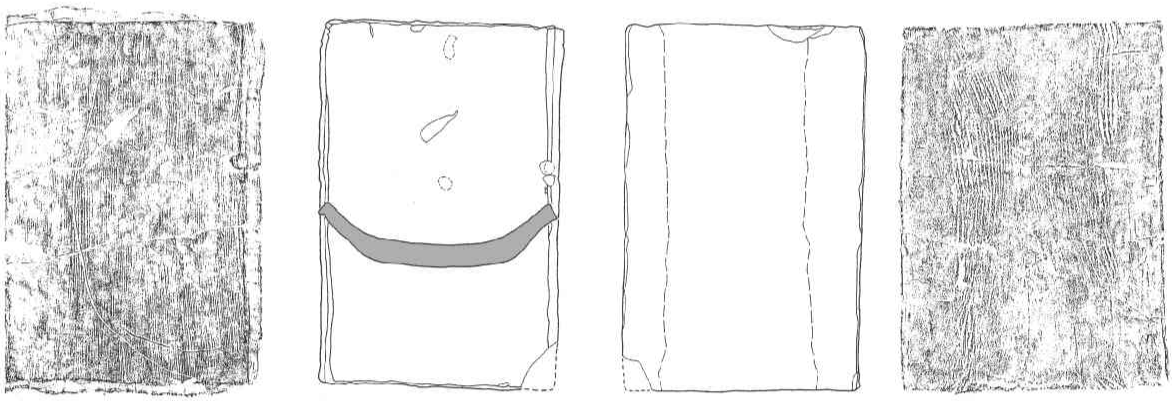
第27図　出土瓦（平瓦）



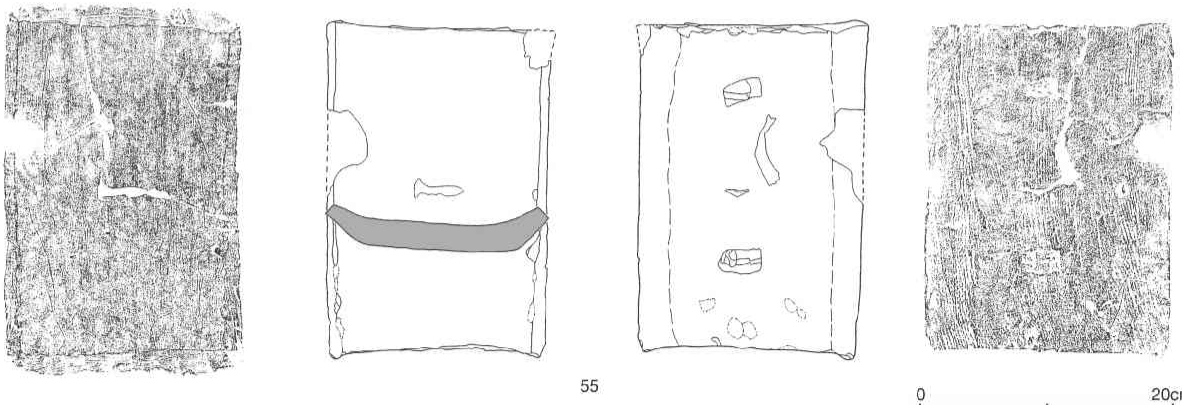
52



53



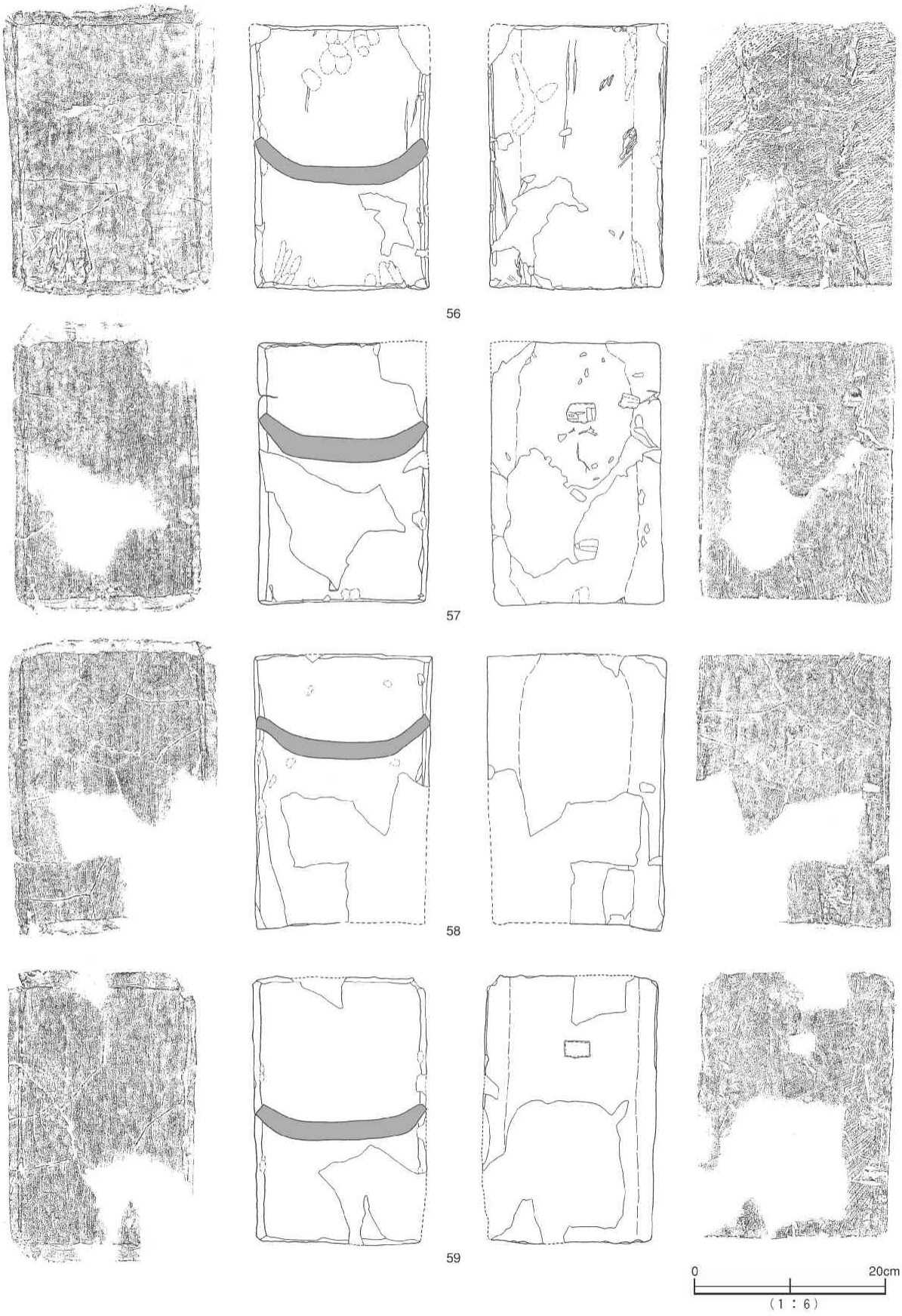
54



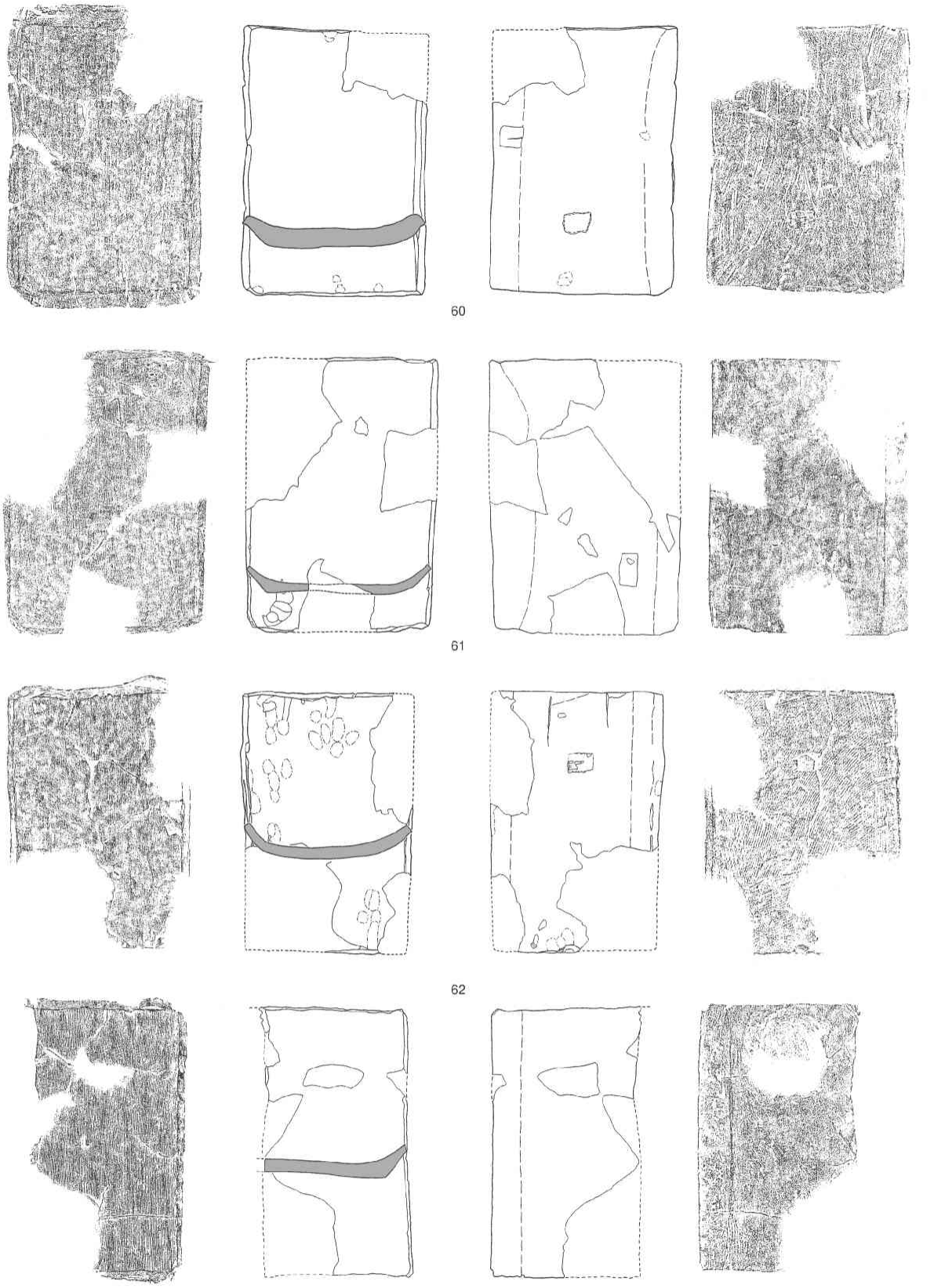
55

0　20cm
（1：6）

第28図　出土瓦（平瓦）



第29図　出土瓦（平瓦）



第30図　出土瓦（平瓦）

表6

図版番号	遺物番号	出土地点 GorT 層 遺構番号 層 RP	計測値										調整				備考
				本体部	玉縁部	瓦頭面径		長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部	成型材	成形技法		瓦頭面（個数）	
第21図	1	酒田市 接合等	全長・玉縁長	－	－	163	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	出土地点　酒田市 1981－9－12 KIKH40－148 工拡理土 Ⅰ層
				高	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
				厚	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰白色 Hue 5Y 8／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり － あり (8)	
				玉縁幅	／		広端部	－	－	－	－	－					
	2	5－12Ⅱ 接合等 5－13Ⅱ －2－11 Ⅱ	全長・玉縁長	349	－	172	左側辺部	(240)	a	6	8	7	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　ヘラ削り		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	68	／		右側辺部	310	a	6	9	8					
			厚	15	－		狭端部	(43)	－	－	－	－	色調　灰色 Hue N 6／0	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		(6) あり 3 － 10	
			玉縁幅	／	－		広端部	156	－	－	－	－					
	3	3－11Ⅱ 接合等 3－12Ⅰ 7－4 Ⅱ 9－13 Ⅱ	全長・玉縁長	(165)	－	170	左側辺部	(122)	a	10	5	7	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	
			高	78	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	15	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　褐灰色 Hue 10Y R4／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　－		10 あり － － 10	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	4	5－13Ⅱ 接合等 3－10Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	(150)	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	工具痕：(調整)
			高	－	／		右側辺部	(33)	d	16	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　黄灰色 Hue 2.5Y 4／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　ヘラ削り		10 あり 3 あり 7	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	5	5－15Ⅱ 接合等	全長・玉縁長	(67)	－	168	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	工具痕（板目調整） 鐙裏込め条線状叩 断面：鐙埋め込み痕 部分
			高	－	／		右側辺部	(17)	－	－	－	－					
			厚	10	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 5Y 4／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり 3 あり 10	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	6	4－13Ⅱ ｽﾃﾊｶｸﾗﾝ 接合等5－13Ⅱ	全長・玉縁長	(155)	－	164	左側辺部	(106)	a	3	11	23	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	
			高	70	／		右側辺部	(140)	a	8	5	12					
			厚	15	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 5Y 5／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　縄目叩　縄目叩 ヘラ削り　ヘラ削り		(6) － (1) － (4)	
			玉縁幅	／	－		広端部	150	－	－	－	－					
	7	5－13Ⅱ 接合等 0－11Ⅱ	全長・玉縁長	(41)	－	162	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 5Y 5／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		(7) あり (1) あり (2)	
			玉縁幅	／	－		広端部	160	－	－	－	－					
	8	5－12Ⅱ 接合等 5－13Ⅱ －2－11Ⅱ	全長・玉縁長	(175)	－	(162)	左側辺部	(130)	a	13	5	5	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	63	／		右側辺部	(10)	－	13	－	－					
			厚	23	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 7.5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		10 あり (2) あり (5)	
			玉縁幅	／	－		広端部	148	－	－	－	－					
	9	4－13Ⅱ ｽﾃﾊｶｸﾗﾝ 接合等4－14 Ⅱ 1－12 Ⅱ 1－13 Ⅱ	全長・玉縁長	(180)	－	(145)	左側辺部	(160)	a	12	5	5	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり 工具痕（板調整）
			高	63	／		右側辺部	(155)	a	11	8	5					
			厚	23	－		狭端部	(43)	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 7.5Y 4／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		10 あり (2) あり (7)	
			玉縁幅	／	－		広端部	157	－	－	－	－					
第22図	10	5－15Ⅱ 接合等 6－15Ⅱ 6－14 Ⅱ	全長・玉縁長	(97)	－	170	左側辺部	(62)	c	13	5	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩後布ナデ　ヘラ削り 布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり 断面：中心から約 20°左に回転 布目重痕
			高	(71)	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	18	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰オリーブ色 Hue 5Y 6／2	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　－		10 あり (2) あり (6)	
			玉縁幅	／	－		広端部	(62)	－	－	－	－					
	11	0－10Ⅱ 接合等－1－13 7－11 Ⅱ 8－14 Ⅱ	全長・玉縁長	(140)	－	166	左側辺部	(80)	a	9	4	7	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	73	／		右側辺部	(82)	a	6	10	6					
			厚	17	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		10 あり (2) あり 10	
			玉縁幅	／	－		広端部	150	－	－	－	－					
	12	5－14Ⅱ 接合等	全長・玉縁長	(225)	－	173	左側辺部	(35)	a	14	3	4	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	工具痕（板調整） 指紋（両面） 鐙面破裂
			高	70	／		右側辺部	(210)	a	11	3	2					
			厚	15	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　黄灰色 Hue 2.5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		(9) あり (1) あり 7	
			玉縁幅	／	－		広端部	(105)	－	－	－	－					
	13	－1－10Ⅱ 接合等－1－12 Ⅱ －1－11 Ⅳ －3－12 Ⅱ	全長・玉縁長	(75)	－	170	左側辺部	(17)	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩　布目アテ　瓦頭面破裂		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	(72)	／		右側辺部	(12)	－	－	－	－					
			厚	22	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　緑灰色 Hue7.5G Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　ヘラ削り		(4) あり (1) あり (7)	
			玉縁幅	／	－		広端部	153	－	－	－	－					
	14	5－13Ⅱ 接合等	全長・玉縁長	(120)	－	(120)	左側辺部	(106)	a	6	7	6	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	64	／		右側辺部	(90)	b	10	－	17					
			厚	20	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　暗灰黄色 Hue 2.5Y 5／2	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　縄目叩 ヘラ削り		10 － 3 あり (5)	
			玉縁幅	／	－		広端部	162	－	－	－	－					
	15	x－0 接合等	全長・玉縁長	(63)	－	(156)	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ・ヘラ削り　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	酒田市　x－0
			高	－	／		右側辺部	(28)	－	－	－	－					
			厚	19	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 7.5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		(3) なし － なし (3)	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	16	1－12Ⅱ 接合等 6－11 Ⅱ	全長・玉縁長	(290)	50	－	左側辺部	(112)	a	8	5	6	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板・紐	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き後布ナデ　布目アテ　－ ヘラ削り		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	布目重痕
			高	68	／		右側辺部	(270)	a	13	3	4					
			厚	13	18		狭端部	123	－	－	－	－	色調　灰色 Hue 7.5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　ヘラ削り　布ナデ		－ なし － なし －	
			玉縁幅	／	100		広端部	(95)	－	－	－	－					
第23図	17	5－13Ⅲ 接合等－3－10 Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	174	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　良　粘土板	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	指紋あり
			高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　黄灰色 Hue2.5Y 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり 3 あり (5)	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	18	5－15Ⅱ 接合等	全長・玉縁長	－	－	(162)	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板	凸面　凹面　玉縁端面 －　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	花弁部指調整あり 灰かぶり 空気膨張あり
			高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　青灰色 Hue 5P B 6／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり 3 あり (6)	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	19	5－13Ⅱ 接合等 4－12 Ⅱ 2－12 Ⅱ －1－－10 Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	164	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板	凸面　凹面　玉縁端面 －　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり
			高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　オリーブ灰色 Hue 5G Y 7／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり 3 あり (7)	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					
	20	4－14Ⅱ 接合等 4－13 Ⅱ 5－13 Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	154	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐 細砂混　堅　粘土板	凸面　凹面　玉縁端面 縄目叩き　－　－		花弁　花弁止　三角　三角止　花弁傷　外輪区画	灰かぶり よごれあり
			高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－					
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　青灰色 Hue 5B 5／1	広端面　峡端面　左側端面　右側端面 －　－　－　－		10 あり 3 あり (7)	
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－					

出土遺物観察表（軒丸瓦）

表6

図版番号	遺物番号	出土地点 GorT 層 遺構番号 層 RP	計測値										調整 成型材	調整 成形技法				調整 瓦頭面（個数）					備考
				本体部	玉縁部	瓦頭面径		長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部						花弁	花弁止	三角	花弁傷	外輪区画	
第23図	21	8－13Ⅲ	全長・玉縁長	－	－	157	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐	凸面	凹面	玉縁端面							花弁部指調整あり
		接合等	高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混　堅　粘土板	－	－	－								
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰白色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面							
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－	Hue 10YR 8／1	－	－	－	－	10	あり	－	あり	⑸		
	22	0－10Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	(166)	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐	凸面	凹面	玉縁端面							
		接合等	高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混　堅　粘土板	－	－	－								
			厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面							
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－	Hue5Y 6／1	－	－	－	－	10	あり	－	あり	⑼		
	23	4－11Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	164	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐	凸面	凹面	玉縁端面							
		接合等 5－12Ⅱ	高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混　堅　粘土板	縄目叩き	－	－							
		5－13 Ⅲ	厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面							
			玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－	Hue 5Y 6／1	－	－	－	－	10	あり	－	あり	⑼		
	24	5－13Ⅰ	全長・玉縁長	－	－	191	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐	凸面	凹面	玉縁端面							8弁鐙
		接合等0－11Ⅱ	高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混　堅　粘土板	－	－	－							各区に三角を配置
		0－12 Ⅲ	厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　赤灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面							
		7－13Ⅱ	玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－	Hue 2 5YR 5／2	－	－	－	－	8	なし	4	なし	4		
	25	2－13Ⅱ	全長・玉縁長	－	－	(172)	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　粘土板・紐	凸面	凹面	玉縁端面							2枚重作
		接合等 2－14 Ⅱ 2－10 Ⅱ	高	－	／		右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混　良　粘土板	縄目叩き	－	－							瓦頭面裏布目アテ
		－1－2Ⅳ 0－10 Ⅱ	厚	－	－		狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰白色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面							瓦頭端面縄目叩
		4－10 Ⅱ	玉縁幅	／	－		広端部	－	－	－	－	－	Hue 10Y 7／1	－	－	－	－	10	あり	－	あり	⑺		花弁部縄目叩き後指調整あり

出土遺物観察表（軒丸瓦）

表7

図版番号	遺物番号	出土地点 GorT 層 遺構番号 層 RP	計測値										調整 成型材	調整 成形技法				備考
				本体部	玉縁部			長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部						
第24図	26	5－13Ⅱ	全長・玉縁長	398	41	左側辺部	(304)	a	11	7	3	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		広端縁の凸凹両面に指紋
		接合等	高	75	／	右側辺部	350	a	12	2	4	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り		あり
			厚	14	15	狭端部	(115)	－	－	－	－	色調　黄灰色	広端面	峡端面	右側端面		灰かぶり
			玉縁幅	／	110	広端部	146	a	11	13	25	Hue2.5Y 5／1	ヘラ削り	－	ヘラ削り	ヘラ削り	布目重ね部分あり
	27	5－15Ⅱ	全長・玉縁長	343	40	左側辺部	348	a	12	4	7	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等6－15 Ⅱ	高	72	／	右側辺部	(178)	a	12	7	7	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	布ナデ		布目重ね部分あり
		10－13 Ⅱ	厚	20	19	狭端部	125	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	右側端面		
		10－14 Ⅱ	玉縁幅	／	100	広端部	(95)	b	14	－	11	Hue N 5／0	ヘラ削り	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	28	ＳＱ1(2・3－8・9)Ｙ	全長・玉縁長	327	68	左側辺部	330	c	15	5	－	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		接合等ＳＱⅠ　F4(3－10)
			高	72	／	右側辺部	(213)	a	9	6	4	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	無調整		
			厚	15	10	狭端部	(96)	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	(49)	広端部	148	a	11	10	21	Hue5Y 5／1	縄目叩き	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	29	ＳＱ1ステパ1	全長・玉縁長	348	30	左側辺部	355	a	12	4	6	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		
		接合等ＳＱⅠ　ステパ谷	高	57	／	右側辺部	(180)	a	10	6	11	粗砂混　良　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り		
		－2－11Ⅳ　－1－11Ⅳ	厚	18	20	狭端部	(62)	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
		0－10Ⅱ	玉縁幅	／	(22)	広端部	137	b	12	－	18	Hue7.5Y 6／1	ヘラ削り	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	30	0－13Ⅱ	全長・玉縁長	(205)	43	左側辺部	(205)	a	13	4	4	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等0－10Ⅱ	高	75	／	右側辺部	(136)	b	13	－	5	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後ナデ	布目アテ	ヘラ削り		布目重ね部分あり
		1－13 Ⅱ	厚	17	18	狭端部	(84)	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
		－1－11 Ⅱ	玉縁幅	／	(85)	広端部	－	－	－	－	－	Hue N 6／0	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	31	7－13Ⅱ	全長・玉縁長	214	45	左側辺部	(194)	a	15	3	3	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等3－13 Ⅱ	高	64	／	右側辺部	(163)	a	17	2	1	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	無調整		
			厚	15	19	狭端部	126	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	99	広端部	－	－	－	－	－	Hue5Y 5／1	－	ヘラ削り	ヘラ削り	ヘラ削り	
第25図	32	6－13Ⅱ	全長・玉縁長	(280)	(11)	左側辺部	(245)	a	8	7	8	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等－1－11Ⅳ	高	72	／	右側辺部	(230)	a	9	9	8	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	－		
			厚	17	10	狭端部	140	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	(65)	広端部	－	－	－	－	－	Hue7.5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	33	7－11Ⅱ	全長・玉縁長	348	(19)	左側辺部	(147)	b	12	－	7	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		
		接合等8－14 Ⅱ	高	78	／	右側辺部	(270)	b	12	－	11	細砂混　堅　粘土紐	格子目状叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り		
			厚	20	13	狭端部	(10)	－	－	－	－	色調　灰白色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	－	広端部	(57)	b	10	－	30	Hue 10Y 6／1	ヘラ削り	－	縄目叩き ヘラ削り	ヘラ削り	
	34	2－14Ⅱ	全長・玉縁長	(254)	－	左側辺部	(155)	a	10	8	13	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		玉縁切断
		接合等6－15 Ⅱ	高	71	／	右側辺部	(142)	a	10	7	22	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後 右側辺ヘラ調整	布目アテ	無調整		灰かぶり
		8－14 Ⅱ	厚	18	－	狭端部	(57)	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	指紋あり
			玉縁幅	／	－	広端部	－	－	－	－	－	Hue7.5Y 5／1	－	－	縄目叩き ヘラ削り	縄目叩き	
	35	－1－10Ⅱ	全長・玉縁長	(249)	－	左側辺部	(225)	a	9	3	10	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等0－12 Ⅱ	高	61	／	右側辺部	(241)	a	9	4	10	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	－		布目重ね部分あり
			厚	14	－	狭端部	－	－	－	－	－	色調　黄灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	－	広端部	150	a	14	3	4	Hue 2.5Y 5／1	縄目叩き	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	36	5－14Ⅱ	全長・玉縁長	280	－	左側辺部	(284)	a	15	2	2	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等5－15 Ⅱ	高	61	／	右側辺部	(177)	a	12	4	5	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	－		ゆがみあり
		6－15 Ⅱ	厚	14	－	狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
			玉縁幅	／	－	広端部	150	a	13	12	22	Hue7.5Y 6／1	縄目叩き	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	37	5－15Ⅱ	全長・玉縁長	(301)	－	左側辺部	(256)	a	9	12	11	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等5－15Ⅲ	高	75	／	右側辺部	(211)	a	10	6	9	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ後ナデ	－		指紋あり
		6－13Ⅲ	厚	16	－	狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	広端縁凹部一部調整あり
		4－13	玉縁幅	／	－	広端部	158	c	15	10	－	Hue 10Y 6／1	縄目叩き	－	ヘラ削り	ヘラ削り	
	38	ＳＱ1ステパ1	全長・玉縁長	(199)	－	左側辺部	(77)	a	12	3	7	胎土　焼成　板・紐	凸面	凹面	玉縁端面		灰かぶり
		接合等3－13Ⅲ	高	72	／	右側辺部	(190)	a	8	6	6	細砂混　堅　粘土紐	縄目叩き後布ナデ	布目アテ	－		指紋あり
		4－12Ⅱ　4－14Ⅱ	厚	14	－	狭端部	－	－	－	－	－	色調　灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面	
		9－14Ⅱ	玉縁幅	／	－	広端部	(85)	a	8	8	15	Hue 5Y 5／1	ヘラ削り	－	ヘラ削り	ヘラ削り	

出土遺物観察表（丸瓦）

表7

図版番号	遺物番号	出土地点	計測値									調整					備考
		GorT 層 遺構番号 層 RP		本体部	玉縁部		長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部	成型材		成形技法			
第26図	39	5－14Ⅱ	全長・玉縁長	(213)	43	左側辺部	(163)	a	11	7	4	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等4－13 Ⅱ	高	77	／	右側辺部	(112)	a	12	1	5	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	
		－1－14 5－15 Ⅱ	厚	17	17	狭端部	124	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
		6－15	玉縁幅	／	98	広端部	－	－	－	－	－		Hue 5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	40	5－14Ⅱ	全長・玉縁長	(194)	40	左側辺部	(137)	a	19	2	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等6－14 Ⅱ 1－14 Ⅱ	高	－	／	右側辺部	(194)	a	13	3	5	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	
		6－15 Ⅱ	厚	17	16	狭端部	129	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
		1－10 Ⅱ	玉縁幅	／	106	広端部	－	－	－	－	－		Hue N 7／0	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	41	4－14Ⅱ	全長・玉縁長	(175)	43	左側辺部	(68)	b	12	－	1	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等6－13 Ⅱ 6－15 Ⅱ	高	70	／	右側辺部	(173)	a	10	4	4	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	布目重ね部分あり
		8－14 Ⅱ 6－12 Ⅲ	厚	16	19	狭端部	134	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
		x－0	玉縁幅	／	114	広端部	－	－	－	－	－		Hue N 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	42	5－15Ⅱ	全長・玉縁長	(172)	48	左側辺部	(102)	a	7	6	3	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等6－15 Ⅱ	高	69	／	右側辺部	(142)	a	13	(4)	4	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	縄目叩き ヘラ削り	右側端縁凸部欠けているため下部で計測
			厚	14	16	狭端部	128	－	－	－	－	色調	灰オリーブ色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
			玉縁幅	／	100	広端部	－	－	－	－	－		Hue 7.5Y 6／2	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	43	6－15Ⅱ	全長・玉縁長	(168)	55	左側辺部	(153)	a	13	3	5	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等	高	63	／	右側辺部	(150)	a	13	4	4	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	
			厚	15	18	狭端部	128	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
			玉縁幅	／	109	広端部	－	－	－	－	－		Hue5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	44	6－15Ⅱ	全長・玉縁長	(110)	51	左側辺部	(82)	a	12	7	2	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等	高	－	／	右側辺部	－	－	－	－	－	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	布目重ね部分あり
			厚	19	17	狭端部	(114)	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
			玉縁幅	／	96	広端部	－	－	－	－	－		Hue 5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	45	1－13Ⅱ	全長・玉縁長	(130)	34	左側辺部	(118)	a	12	6	5	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	
		接合等2－13 Ⅱ	高	70	／	右側辺部	(134)	a	11	2	6	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	
			厚	17	15	狭端部	133	－	－	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
			玉縁幅	／	115	広端部	－	－	－	－	－		Hue 7.5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	46	5－15Ⅲ	全長・玉縁長	(120)	50	左側辺部	(98)	a	18	3	3	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等	高	66	／	右側辺部	(35)	b	13	－	3	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き後布ナデ	布目アテ	ヘラ削り	
			厚	14	15	狭端部	131	－	－	－	－	色調	黄灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
			玉縁幅	／	106	広端部	－	－	－	－	－		Hue 2.5Y 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り
	47	3－13Ⅱ	全長・玉縁長	(129)	40	左側辺部	(123)	a	14	2	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面	玉縁端面	灰かぶり
		接合等1－12 Ⅱ 13－14 Ⅱ	高	62	／	右側辺部	(100)	a	11	3	3	細砂混 堅 粘土紐		縄目叩き	布目アテ	無調整	
		6－10 Ⅱ	厚	14	22	狭端部	146	－	－	－	－	色調	褐灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
		6－11 Ⅱ	玉縁幅	／	121	広端部	－	－	－	－	－		Hue 10YR 6／1	－	－	ヘラ削り	ヘラ削り

出土遺物観察表（丸瓦）

表8

図版番号	遺物番号	出土地点	計測値									調整					備考
		GorT 層 遺構番号 層 RP番号	全長	高	厚		長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部	成型材		成形技法			
第27図	48	SQ1 93	412	59	31	左側辺部	397	b	19	7	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		
		接合等SQ1 (3－5) -1-9Ⅱ				右側辺部	390	d	14	－	－	細砂混 堅 粘土板		板目	縄目叩		
		-1-10Ⅱ -1-11Ⅱ -2-11Ⅱ				狭端部	270	d	23	－	－	色調	黄灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
		-3-10Ⅱ				広端部	268	d	29	－	－		Hue 2.5Y 6／1	板調整	板調整	板調整	板調整
	49	SQ1 200	411	52	33	左側辺部	412	d	12	－	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		指紋あり
		接合等SQ1 F4(2－9)				右側辺部	408	d	20	－	－	細砂混 堅 粘土板		格子目叩・板目	縄目叩・後布ナデ		
						狭端部	277	d	25	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	264	d	21	－	－		Hue 7.5Y 6／1	布ナデ	布ナデ	布ナデ	布ナデ
	50	SQ1 F4(2-9)	406	61	30	左側辺部	394	b	16	10	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		指紋あり
		接合等				右側辺部	403	b	13	7	－	細砂混 堅 粘土板		板目	縄目叩		
						狭端部	264	d	19	－	－	色調	黄灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	263	d	23	－	－		Hue 2.5Y 5／1	板調整	板調整	板目	板目
	51	SQ1 F2(2-10) 315	408	48	31	左側辺部	394	d	12	－	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		灰かぶり
		接合等SQ1 Y				右側辺部	400	d	9	－	－	細砂混 堅 粘土板		板目	縄目叩 後布ナデ		指紋あり
						狭端部	273	d	20	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	248	d	18	－	－		Hue N 5／0	板調整	板調整	板調整	板調整
第28図	52	SQ1 F4	405	75	25	左側辺部	400	b	15	13	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		
		接合等				右側辺部	414	b	15	6	－	細砂混 堅 粘土板		板整形・布ナデ	縄目叩 後布ナデ		
						狭端部	275	d	18	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	273	d	27	－	－		Hue N 5／1	ヘラ削り	ヘラ削り	板調整	板調整
	53	SQ1 ステバ	414	59	22	左側辺部	〈405〉	d	13	－	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		指紋あり
		接合等 6-10 Ⅱ				右側辺部	418	d	10	－	－	細砂混 堅 粘土板		布目アテ→板ナデ	縄目叩 後布ナデ		
						狭端部	284	d	17	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	〈276〉	d	15	－	－		Hue 7.5Y6／1	板調整	板調整	板調整	板調整
	54	SQ1 F1(2-8)	430	74	27	左側辺部	425	b	21	7	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		指紋あり
		接合等 SQ1 F4(2-9) X-0				右側辺部	〈430〉	b	18	5	－	細砂混 堅 粘土板		板目	縄目叩 後ヘラ削り		
						狭端部	277	d	11	－	－	色調	灰白色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	〈275〉	d	11	－	－		Hue 10YR 8／2	板調整	板調整	板調整	板調整
	55	2-14 Ⅱ	380	52	27	左側辺部	399	d	15	－	－	胎土 焼成 板・紐		凸面	凹面		指紋あり
		接合等 1-14 Ⅱ				右側辺部	〈396〉	d	17	－	－	細砂混 堅 粘土板		板目調整	縄目叩後布ナデヘラ削り		
		5-14 Ⅱ				狭端部	〈270〉	d	25	－	－	色調	灰色	広端面	峡端面	左側端面	右側端面
						広端部	252	d	25	－	－		Hue 5Y6／1	板調整	板調整	板調整	板調整

出土遺物観察表（平瓦）

表8

図版番号	遺物番号	出土地点	計測値									調整			備考
		GorT　層　遺構番号　層　RP番号	全長	高	厚		長	切断面形状	端面幅	端縁凸部	端縁凹部	成型材	成形技法		
第29図	56	SQ1　204	415	73	25	左側辺部	〈416〉	b	11	13	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		指紋あり
		接合等　SQ1ステバ 8-13Ⅱ				右側辺部	〈412〉	a	19	8	14	細砂混　堅　粘土板	布目アテ　板整形	縄目叩後布ナデヘラ削り	
		SQ1ステバ西Ⅰ 8-14Ⅱ				狭端部	〈277〉	c	10	－	6	色調　灰白色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
		9-13Ⅱ				広端部	267	c	13	－	8	Hue　7.5Y7／2	ヘラ削り　ヘラ削り	ヘラ削り　ヘラ削り	
	57	4-14Ⅱ	402	71	32	左側辺部	396	b	13	＜6＞	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		指紋あり
		接合等 5-3 Ⅱ				右側辺部	〈401〉	a	13	2	5	細砂混　堅　粘土板	板目　縄目叩　後布ナデ		
		5-14 Ⅱ				狭端部	〈263〉	d	23	－	－	色調　浅黄色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
		6-12 Ⅱ				広端部	250	d	29	－	－	Hue　2.5Y7／3	板調整　板調整	板調整　板調整	
	58	4-19Ⅱ	422	75	27	左側辺部	420	b	20	4	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		指紋あり
		接合等 -1-11 6-13 Ⅱ				右側辺部	〈416〉	b	18	5	－	細砂混　堅　粘土板	板目　縄目叩　後ヘラ削り		
		-1-11 Ⅳ 8-11 Ⅱ				狭端部	280	d	19	－	－	色調　灰色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
		-1-12 Ⅱ				広端部	〈264〉	d	20	－	－	Hue　7.5Y5／1	板調整　板調整	板調整　板調整	
	59	5-13Ⅱ	416	59	27	左側辺部	414	b	22	3	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		
		接合等 5-14 Ⅱ				右側辺部	〈414〉	d	13	－	－	細砂混　堅　粘土板	板目　縄目叩　後板目ナデ		
						狭端部	272	d	25	－	－	色調　灰黄色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
						広端部	〈256〉	d	27	－	－	Hue　2.5Y7／2	板調整　板調整	板調整　布ナデ・板調整	
第30図	60	0-10Ⅱ	401	55	28	左側辺部	404	b	10	10	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		指紋あり
		接合等				右側辺部	〈396〉	b	14	11	－	細砂混　堅　粘土板	板整形　縄目叩　後布ナデ		灰かぶり
						狭端部	〈280〉	d	32	－	－	色調　灰色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
						広端部	275	d	21	－	－	Hue　5Y6／1	無調整　無調整	布ナデ　布ナデ	
	61	5-12Ⅱ	415	43	13	左側辺部	〈405〉	d	12	－	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		
		接合等 -2-9 Ⅱ 7-14 Ⅱ				右側辺部	407	d	7	－	－	細砂混　堅　粘土板	板目　縄目叩　後布ナデ		
		-1-10 Ⅱ 8-14 Ⅱ				狭端部	〈289〉	d	15	－	－	色調　紫灰色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
		7-13 Ⅱ				広端部	270	d	10	－	－	Hue　5p 6／1	板調整　板調整	板調整　板調整	
	62	5-14Ⅱ	395	51	18	左側辺部	〈382〉	b	9	10	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		指紋あり
		接合等 13-14 Ⅱ				右側辺部	〈384〉	a	9	2	21	細砂混　堅　粘土板	布ナデ　格子目状叩き		左辺凹凸部
		5-13 Ⅱ				狭端部	〈258〉	c	15	－	8	色調　浅黄色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	指調整
		6-15 Ⅱ				広端部	〈245〉	d	15	－	0	Hue　2.5Y7／3	ヘラ削り　ヘラ削り	ヘラ削り　ヘラ削り	
	63	2-10 Ⅱ	408	51	19	左側辺部	－	－	－	－	－	胎土　焼成　板・紐	凸面　凹面		灰かぶり
		接合等 0-13 Ⅱ				右側辺部	405	d	12	－	－	細砂混　堅　粘土板	板目　縄目叩　後布ナデ		
		-1-11 Ⅱ				狭端部	〈218〉	d	13	－	－	色調　灰色	広端面　峡端面	左側端面　右側端面	
						広端部	〈116〉	d	10	－	－	Hue　5Y6／1	板調整　板調整	－　板調整	

出土遺物観察表（平瓦）

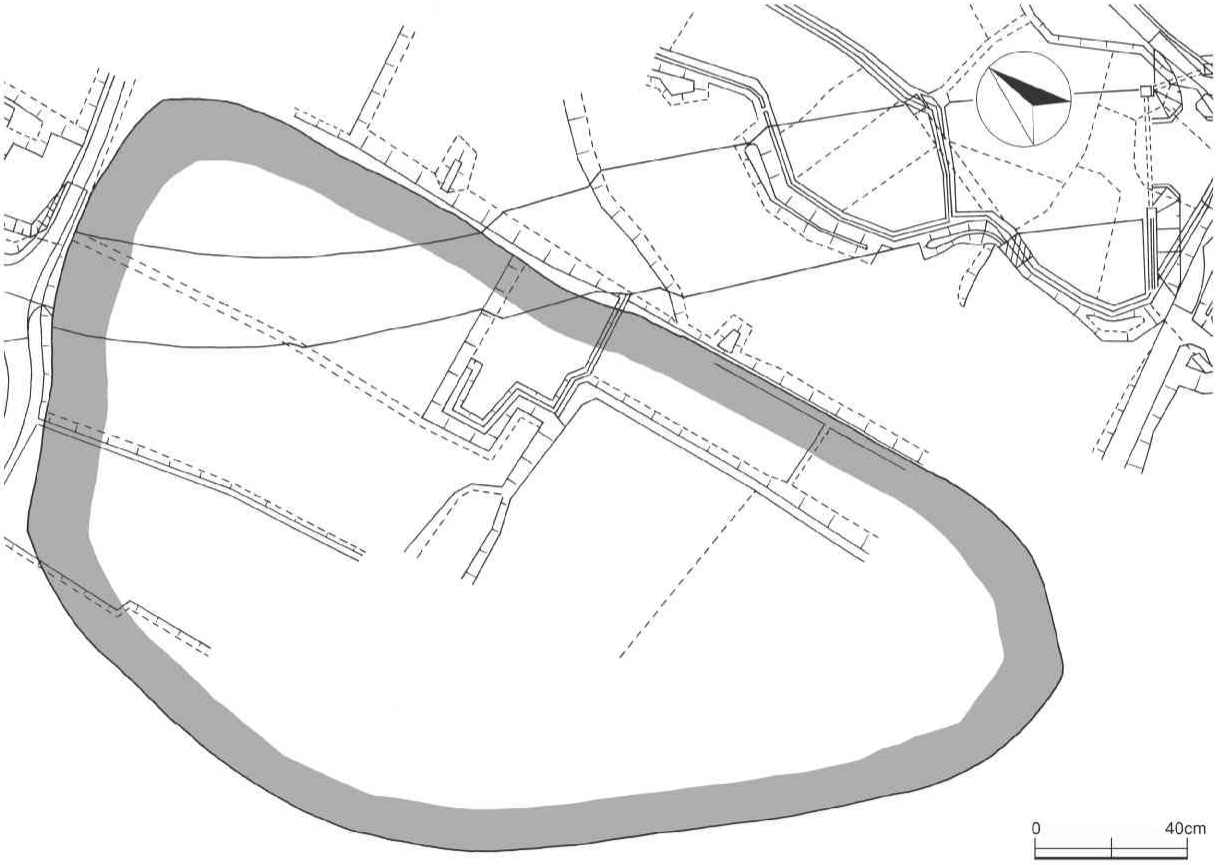
Ⅵ　坂ノ下遺跡

遺構と遺物の分布

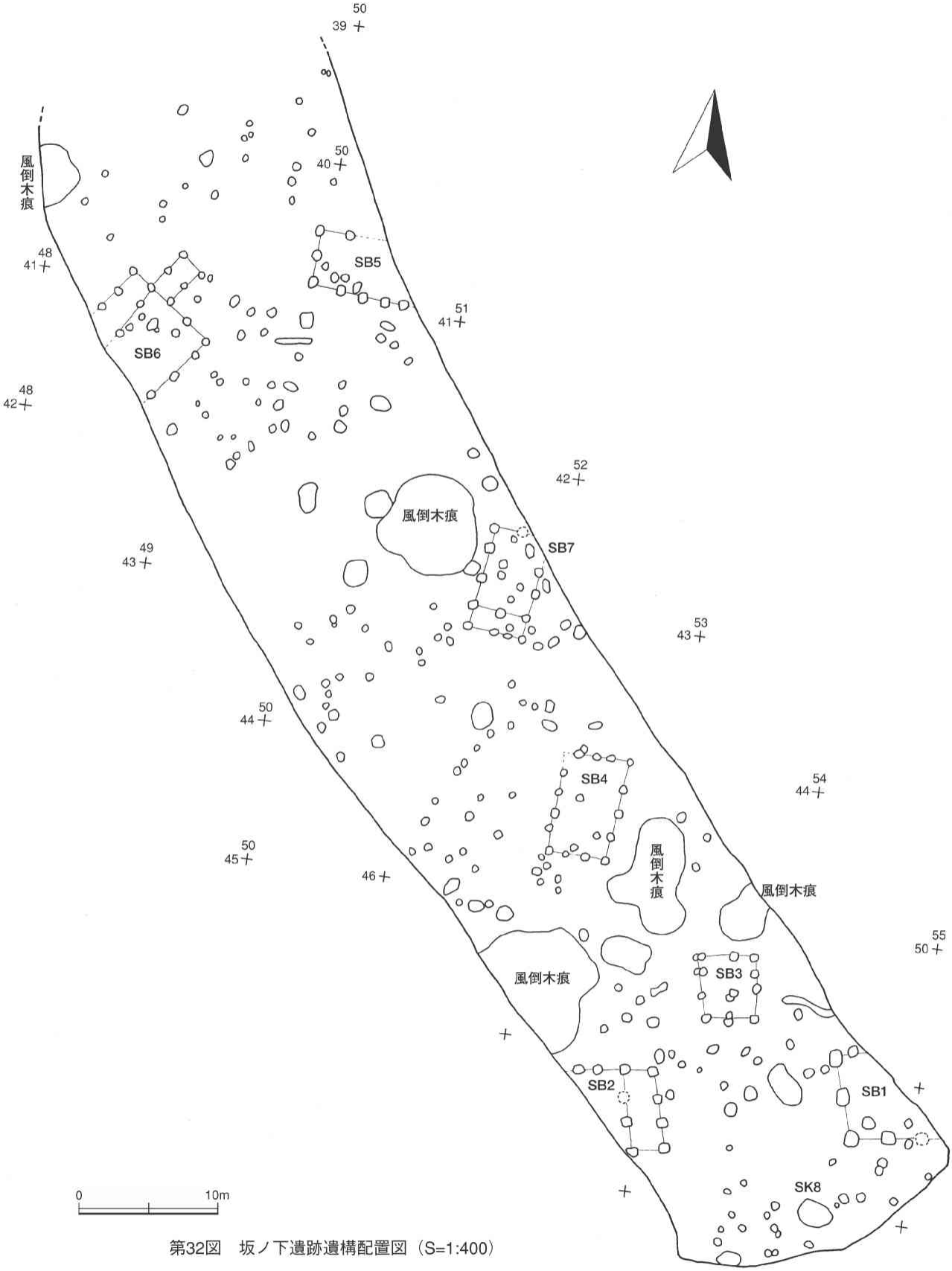
調査では当初、重機械によって表土の除去と手掘りによる面整理を実施した。遺跡詳細分布調査での資料では事業区の部分に土器片の散布が認められ、トレンチと、試掘ピットを設定し遺構・遺物の検出状況を確認した。その結果、鷹尾山から延びる小段丘に立地する集落跡として認定された。遺跡の規模は東西60m、南北120mの範囲である。トレンチの面整理では土器片や、遺構と考えられる落ち込みが確認され、小段丘上に広がる。掘立柱建物跡の柱痕が多数検出され、建物跡として組み合わされるものと考えられる。遺物は須恵器の杯片や、甕片、内黒土器の杯片、碗片、縄文時代の石器が出土した。整理箱にして4箱である。

掘柱建物跡（第31図）

建物跡は7棟が組み合わさった。二間×三間の身舎と、三間×四間の身舎をもつ建物跡が多い。柱間は2.1mから2.4mを測り、7尺ないし8尺等間である。SB4建物跡は三間、四間の規模が大きい建物で、遺跡の中心になるものと考える。建物跡はほぼ東西や、南北に並び、存在は時期の違いに認められる。また、ＳＢ６建物跡は身舎に一間、二間の規模で続き、建物が一体となる。

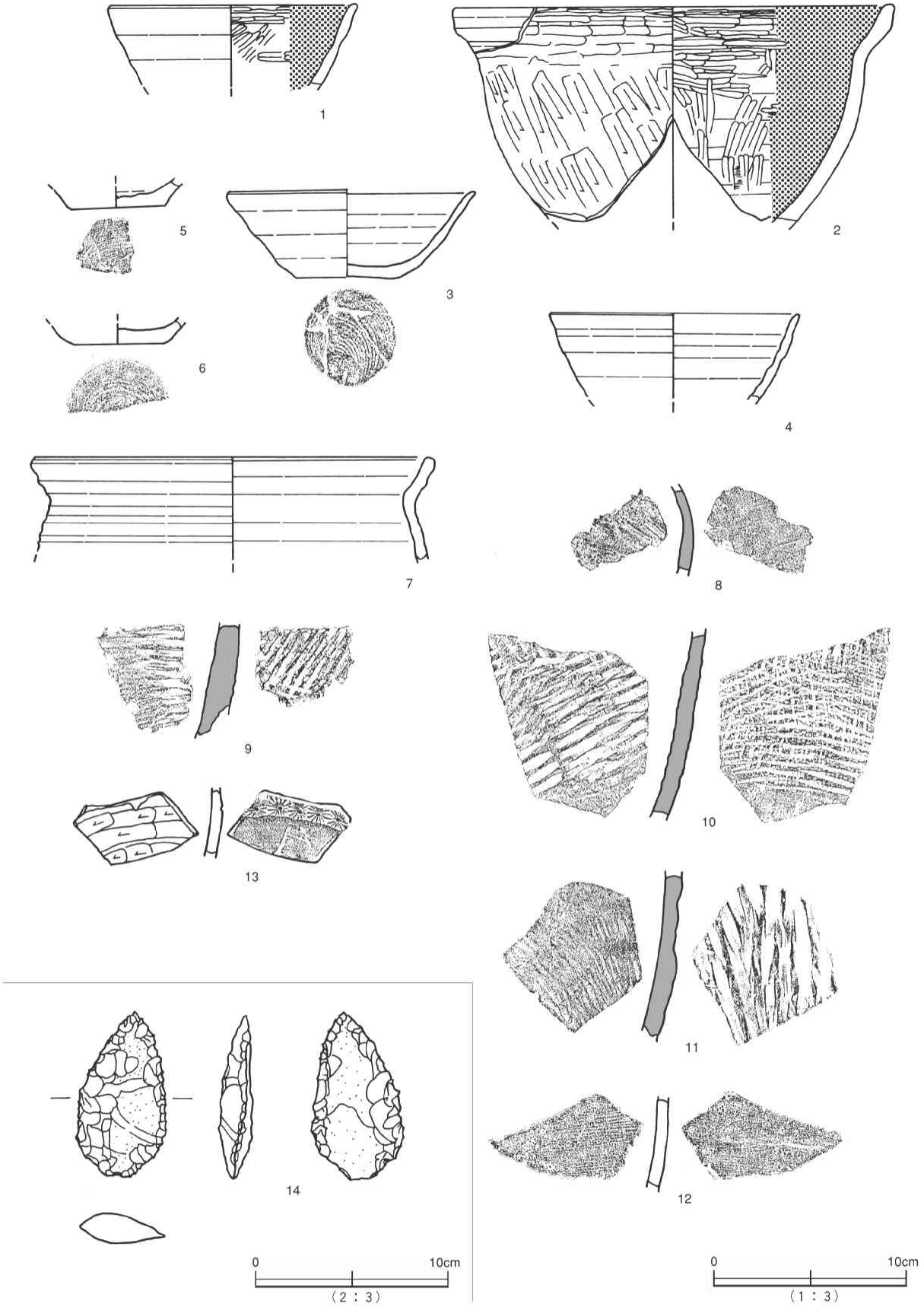


第31図　坂ノ下遺跡概要図



第32図　坂ノ下遺跡遺構配置図（S=1:400）

第32図　坂ノ下遺跡遺構配置図



第33図　坂ノ下遺跡出土遺物

その他の遺構

建物跡の周囲には風倒木痕と推定される大きな落ち込みが確認されている。建物の傍で確認され、集落と一体とした感を受ける。中心に地山の土砂が充満し、風で倒れた方向が明瞭に分かることで、風倒木痕としたものである。

出土遺物（第33図）

遺物は4箱の総量であるが、遺構の時期を確定する貴重な資料である。1は内黒土器で、破片であるが内面をヘラ状工具で丁寧に磨き、器面に炭素を吸着させ、黒色化を施こしている。2も同様であるが、器形は碗である。内面は同様であり、外面に口縁部は横位に、体部下半は縦位にヘラ状工具で磨き、整形している。3～6は赤焼土器の杯形土器である。底部の切り離しは回転糸切り離しで、器面にロクロ痕を明瞭に残す。7は赤焼土器の甕形土器である。長胴形を呈するものと思われる。口縁部のみの出土であるが、体部から頸部にかけてはクの字状に外反し、口縁は丸くなり、口唇となる。8～11は須恵器の甕形土器片である。外面を条線状のタタキ痕を示し、内面にも条線状のアテ痕が施される。12は赤焼土器の甕片である。外面にハケメ痕を残している。13は中世陶器片である。ヘラ状工具による削り痕が観察され、菊花の刻印がある。14は面整理で出土した縄文時代の石器である。周囲に押圧剥離面が施され、鋭利な形状を示す。

表9

挿図番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	計測値						胎土	焼成	色調	調整・整形			RP番号	備考
					口径	頸径	胴径	低径	器高	器厚				外面	内面	底部		
第32図	1	Ⅰ	内黒土器	坏	(130)	－	－	－	(43)	4	細砂混	良	橙色　Hue 7.5YR　7／6	ロクロ痕	ﾛｸﾛ痕・ﾐｶﾞｷ	－		
	2	Ⅰ	内黒土器	鉢	(230)	－	－	－	(112)	8	粗砂混	良	橙色　Hue 7.5YR　6／6	ロクロ痕 削り・ミガキ	ﾛｸﾛ痕・ﾐｶﾞｷ			
	3	Ⅰ	赤焼土器	坏	130	－	－	50	47	4	粗砂混	良	にぶい橙色　Hue 7.5YR 6／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切		
	4	X－0	赤焼土器	坏	(130)	－	－	－	(45)	3	粗砂混	良	橙色　Hue 7.5YR　6／6	ロクロ痕	ロクロ痕			
	5	Ⅰ	赤焼土器	坏	－	－	－	(50)	(12)	5	粗砂混	良	橙色　Hue 7.5YR　7／6	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切		
	6	Ⅰ	赤焼土器	坏	－	－	－	(50)	(11)	5	粗砂混	良	にぶい黄橙色　Hue 10YR 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕	回転糸切		
	7	Ⅰ	赤焼土器	甕	(210)	(176)	－	－	(53)	5	粗砂混	良	明黄褐色　Hue10YR 7／4	ロクロ痕	ロクロ痕			
	8	X－0	須恵器	壺	－	－	－	－	－	5	粗砂混	堅	灰色　Hue 5Y 5／1	ロクロ痕	ロクロ痕			
	9	X－0	須恵器	甕	－	－	－	－	－	13	粗砂混	堅	灰色　Hue 7.5 Y5／1	タタキ	アテ痕			
	10	X－0	須恵器	甕	－	－	－	－	－	9	粗砂混	堅	にぶい黄橙色　Hue 10YR 6／4	タタキ	アテ痕			
	11	X－0	須恵器	甕	－	－	－	－	－	8	粗砂混	堅	橙色　Hue 5YR 6／6	タタキ	アテ痕			
	12	Ⅰ	土師器	甕	－	－	－	－	－	6	粗砂混	良	にぶい橙色 Hue 7.5YR　7／4	ハケ目	ハケ目			
	13	Ⅰ	瓦器	コンロ	－	－	－	－	－	5	細砂混	良	黒色　Hue 2.5GY　2／1	ミガキ	ミガキ			外面　菊花文 黒色化処理
	（石器）																	
					最大長		最大幅		最大厚									
	14		石器	石鏃	43		24		8									

0　40cm

坂ノ下遺跡出土遺物観察表

Ⅶ　考察

調査は平成13年度に実施された広域営農団地農道整備事業（飽海中央地区）に伴う緊急発掘調査である。ここでは、泉森窯跡と、坂ノ下遺跡の調査成果のまとめを記述する。

泉森窯跡

窯跡の造営方法が北側に焚き口を持ち、北西からの風が流入しやすい方法を示す。また、丘陵斜面に一基のみの窯である。採掘される粘土の量によるものかもしれないが、ほかに窯の存在が無かった。丘陵斜面には窯跡と斜面で確認されなかった丘陵の切れ目に沢筋が確認され、この沢筋を利用して、低いほうに窯での焼き損じた製品を投げ捨てていた。窯の周囲や灰原部分には多くの土器片が確認された。とくに、灰原の下面では瓦の破片が多く出土し、窯の最初の操業で瓦が焼成されたものと考える。その後、丘陵の西に広がる庄内平野に存在する平安時代の集落跡に生活什器として供給された土器と考える。また、工人が使う什器のほか、土器や粘土を運ぶ入れ物も窯で焼成されたものと考える。

窯や、灰原からは須恵器の壺、杯、甕等の製品が出土し、平安時代の国府と推測される城輪柵跡に製品や、瓦を供給したものと考える。周辺には、願瀬山古窯跡や泉谷地古窯跡、山盾古窯跡等、多くの窯跡が確認されている。庄内東部古窯跡群として平安時代の研究材料となり、本窯跡も貴重な資料を提出した。特に軒丸瓦では、瓦当面の様相が、城輪柵跡で出土した軒丸瓦と同範になり、泉森窯跡で焼成された瓦が同一であり、時期の確認が認められる。時期は同時に出土した土器の編年から9世紀第一四半期に想定される。

坂ノ下遺跡

調査での成果では、掘立柱建物跡が7棟検出され、その分布状況から泉森窯跡で作業をした工人の住居と推定される。

坂ノ下遺跡の掘立建物跡から出土した遺物の時期は、土師器や赤焼土器の特徴から平安時代初め、9世紀中頃と考えられる。先に述べた泉森窯跡の9世紀第一四半期よりは時期はやや遅れるが、坂ノ下遺跡の範囲は、農道の路線外、特に東側に大きく広がるものと思われる。今後の調査によっては、泉森窯跡と同じ時期の建物跡の存在が十分考えられる。

山形県内で須恵器の窯跡と工人の工房、居住区域が一体的に把握される資料は珍しく、さらに出羽国府とされる城輪柵跡の関連も窺える貴重な遺跡である。

参考文献

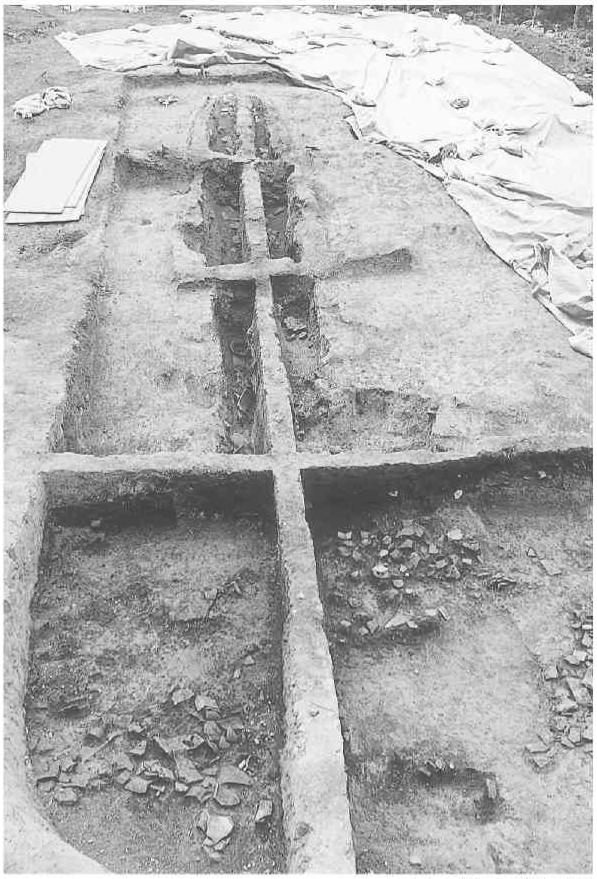
水戸部秀樹・須藤英之　2003　西村山地域史研究　第21号
柏倉亮吉・伊藤　忍　　1970　平野山古窯跡群　　寒河江市教育委員会

その他多くの研究者に報告の示唆を与えていただいた。記して感謝を述べるところであるが、省略させていただいた。無礼を深謝します。

写真図版

調査説明会

SQ1 完掘



SQ1 断面設置状況

SQ1 完掘状況（焚口部から）

SQ1 燃焼部断面

SQ1 完掘

SQ1 灰原遺物出土状況

重機による表土除去

調査区域環境整備作業

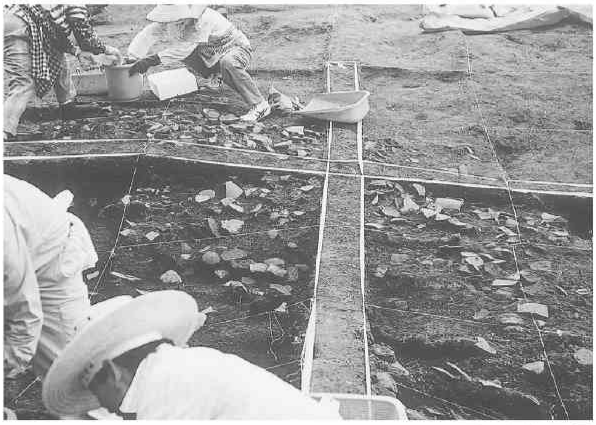
調査区域環境整備作業

調査グリッド設定

灰原調査風景

灰原調査風景

灰原調査風景



灰原調査風景

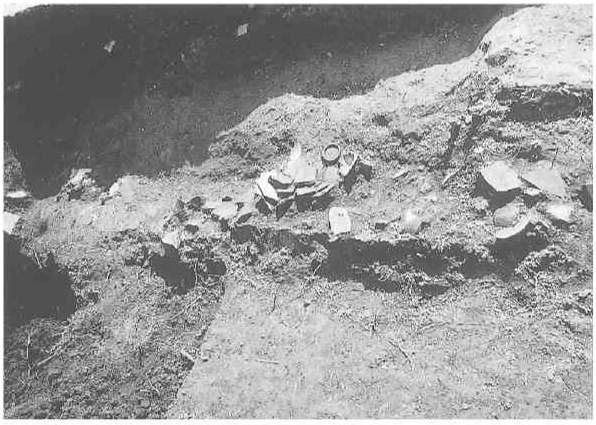
SQ1 燃焼部断面

SQ1 燃焼部断面

SQ1 焼成部断面

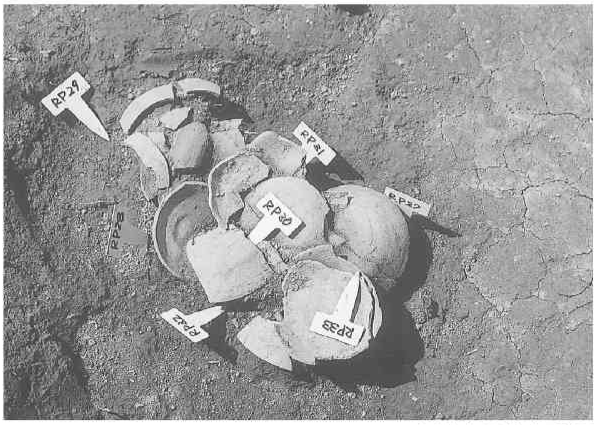
SQ1 燃焼部断面

灰原土器出土状況



炊口部土器出土状況

RP193 大甕出土状況



SK2 土拡土器出土状況

SQ1 土器出土状況全景（最下層）

SQ1 燃焼部土器出土状況

SQ1 焼成部（中位）土器出土状況

SQ1 焼成（上位）土器出土状況

SQ1 最下層出土状況（煙道部より）

SQ1 底面断面切断状況

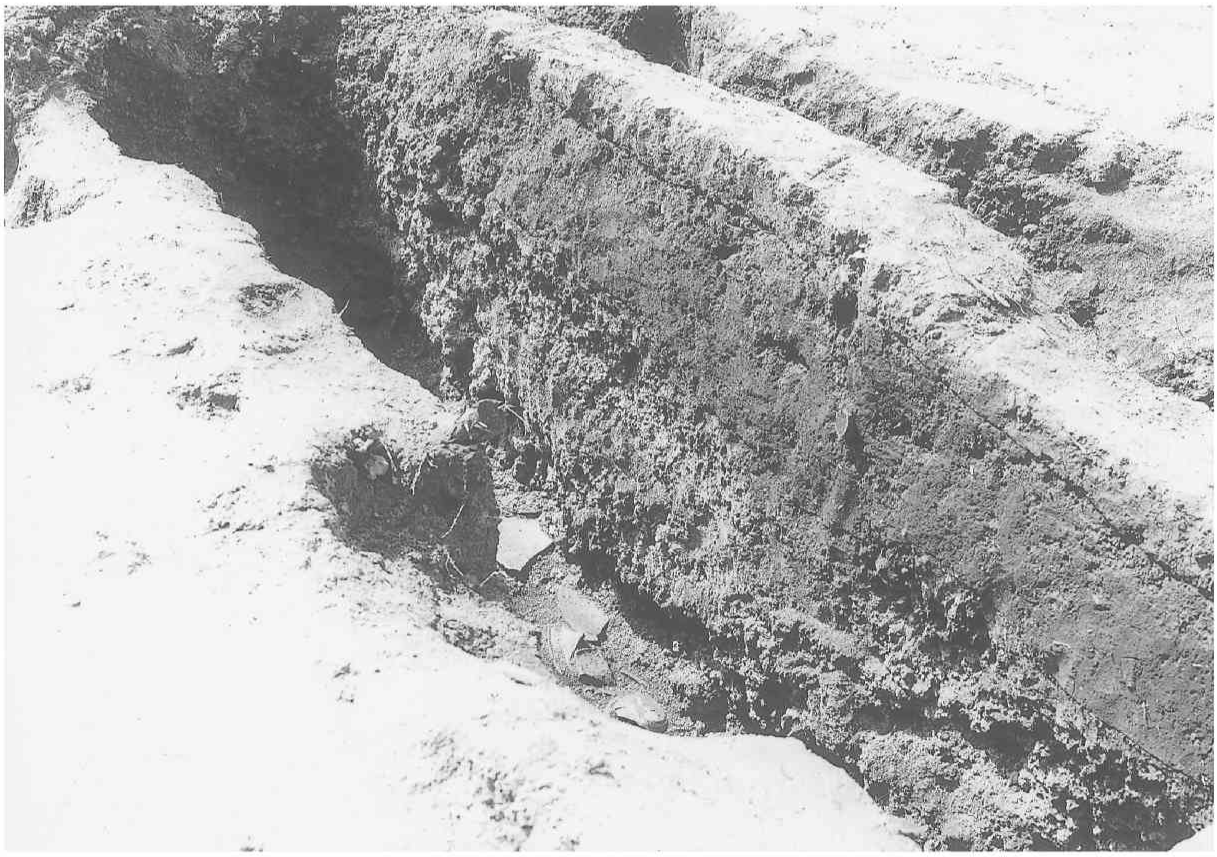
SQ1 最下層完掘状況

SQ1 最下部遺物出土状況全景

SQ1 焼成部断面

SQ1 燃焼部断面

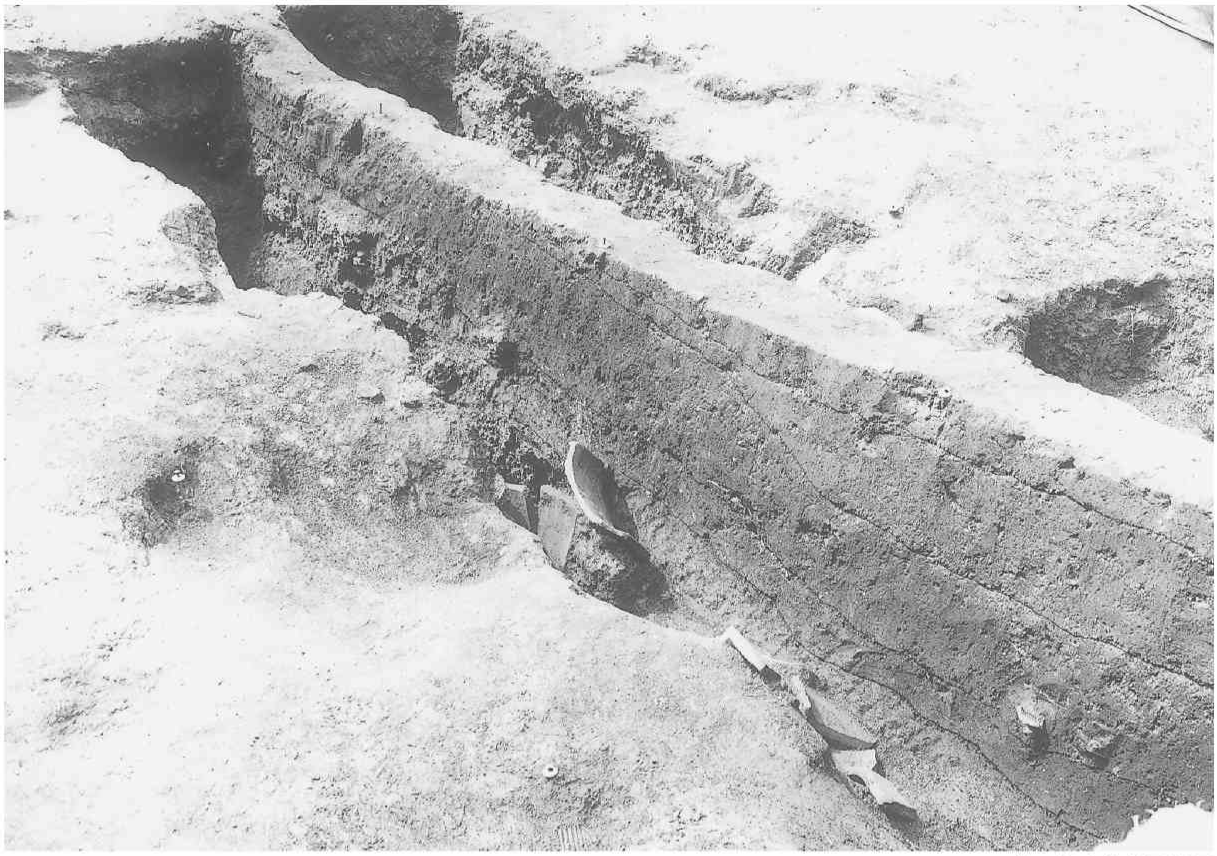
SQ1 上半部南北土層断面



SQ1 下半部南北土層断面

SQ1 壁面断ち割り（上半部）

SQ1 壁面断ち割り（下半部）

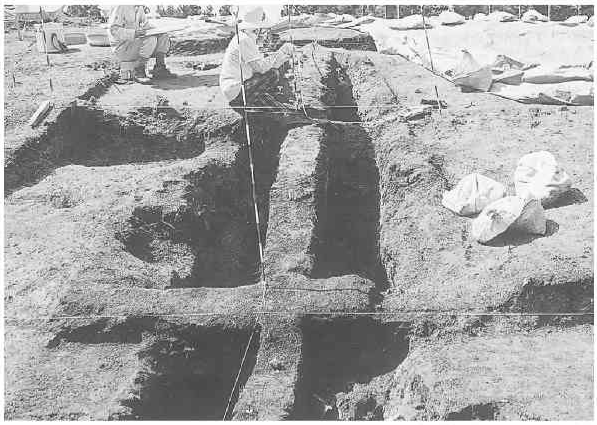


SQ1 焚口部南北土層断面

SQ1 灰原南北土層断面

SQ1 灰原土層断面（西側）

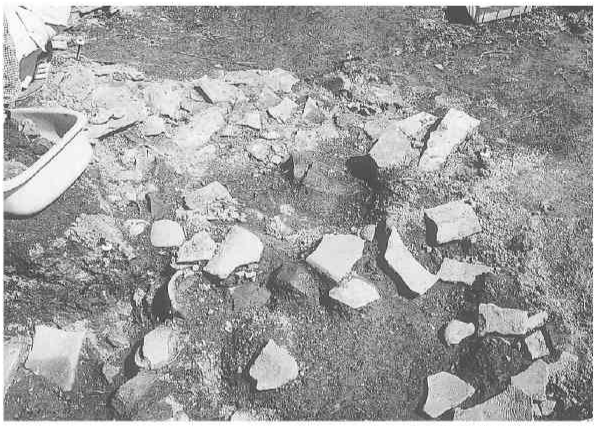
SQ1 灰原土層断面（東側）



SQ1 主軸断面測図作業

焼成部遺物出土状況

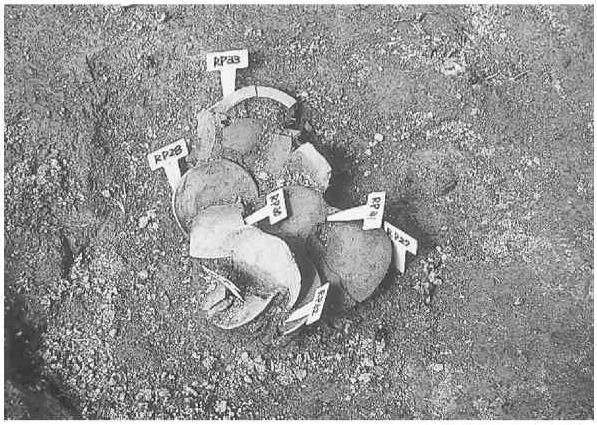
大甕出土状況



灰原遺物出土状況

軒丸瓦出土状況

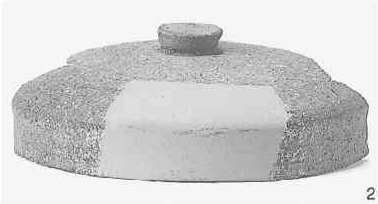
軒丸瓦出土状況



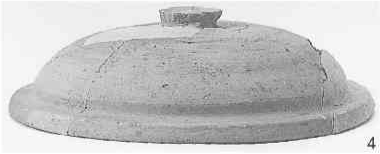
SK2 土拡土器出土状況

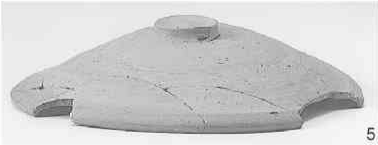
調査説明会風景

1


2

3


4


5

6

7

8

9

10

11

12

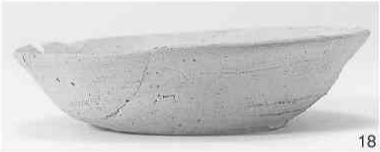
13

14

15

16

17


18

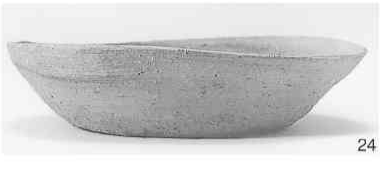
19

20

21

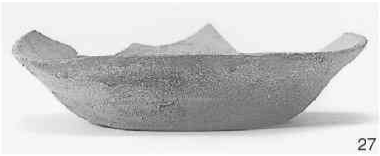
22

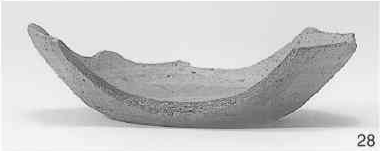
23


24

25

26


27


28

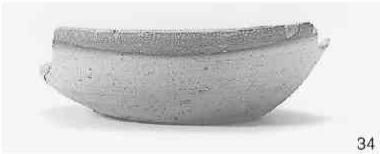
29

30

31

32

33


34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

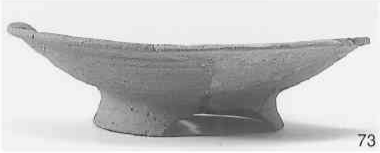
68

69

70

71

72


73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

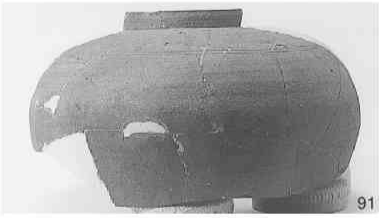
86

87

88

89

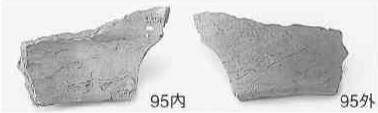
90


91

92

93

94

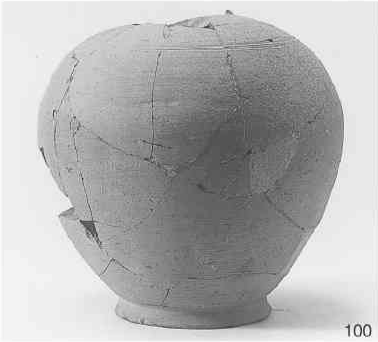

95内 95外

96

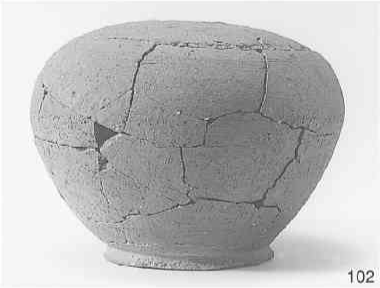
97

98

99


100

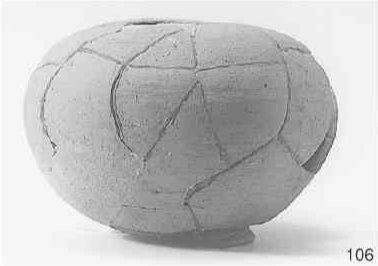
101


102

103

104

105


106

111

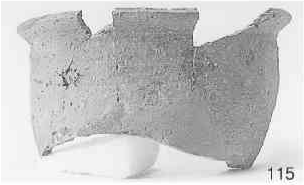
107

108

109

112

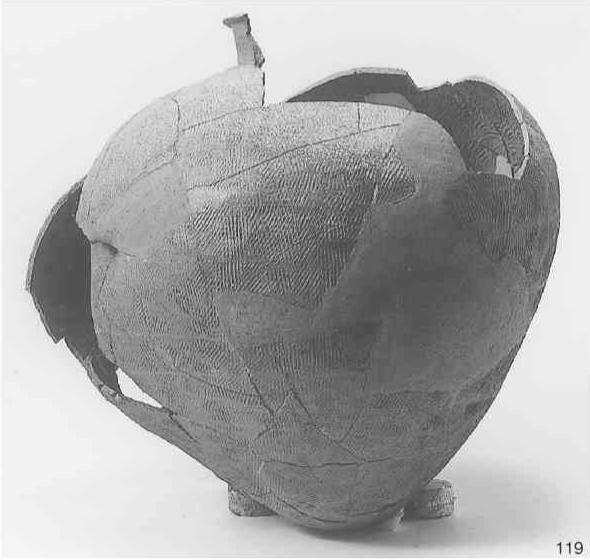
113


115

116

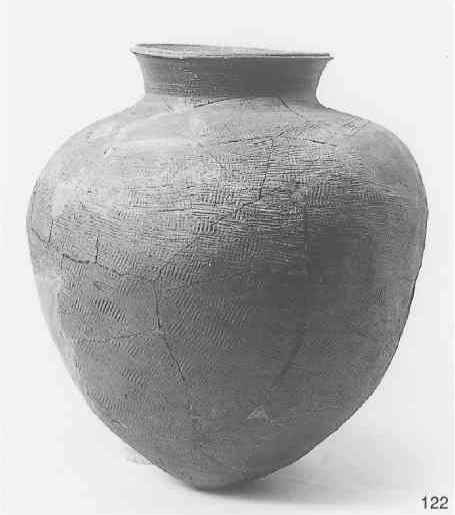
117

118


119

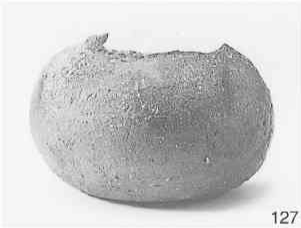
120

121


122

123

126


127

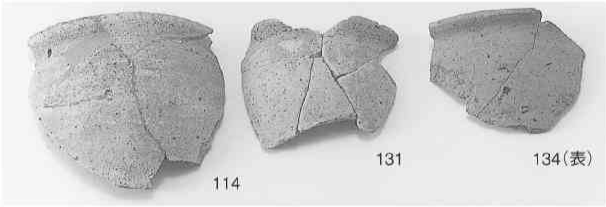
124

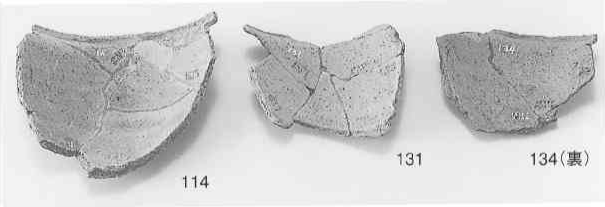
125

128

129

130


114 131 134(表)


114 131 134(裏)

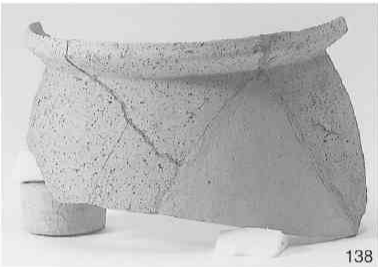
132

133

135

136

137


138

1

2

3

4

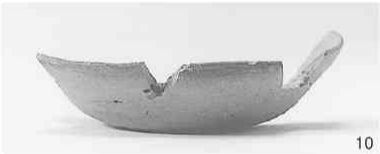
5

6

7

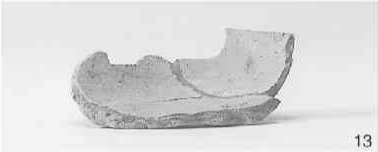
8

9


10

11

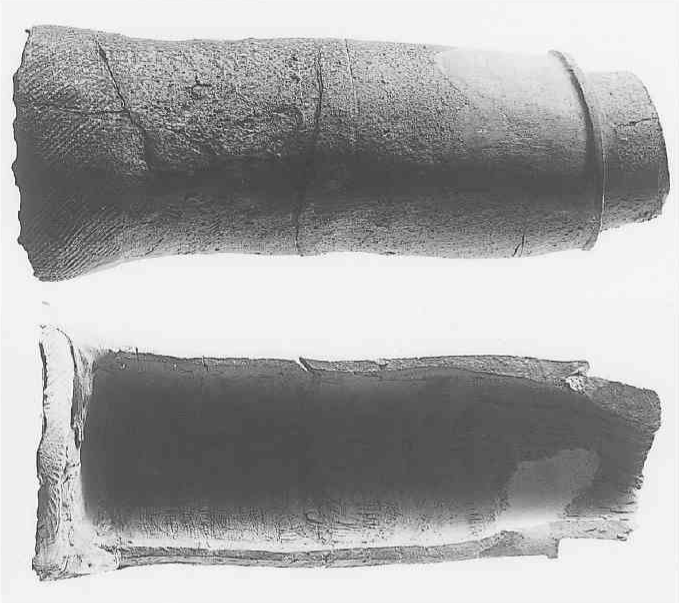
12

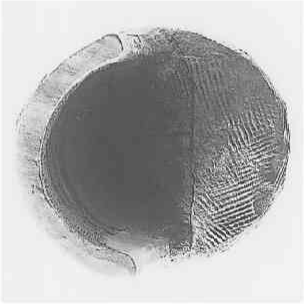

13

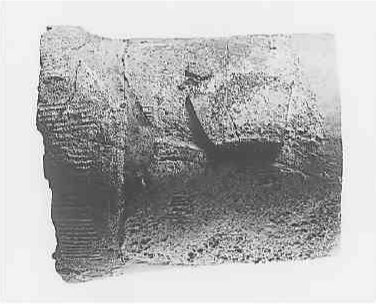
SK2 土拡 一括出土土器

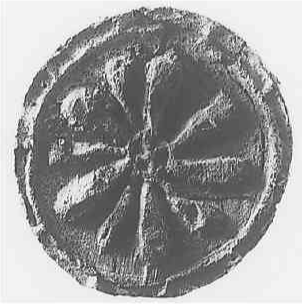
1（酒田市城輪柵跡出土軒丸瓦）

2

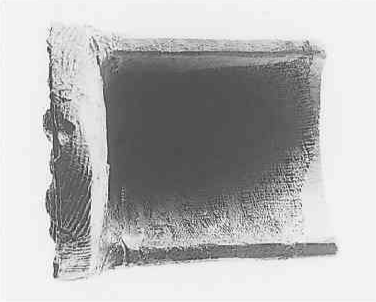


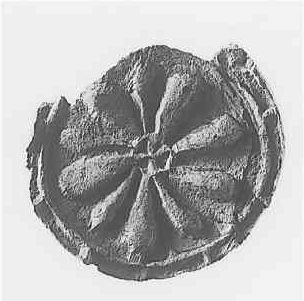


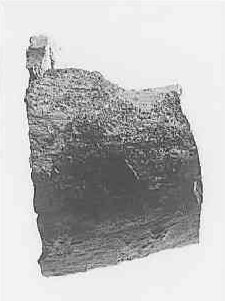




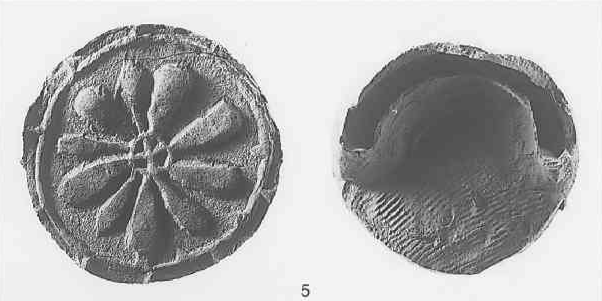
3



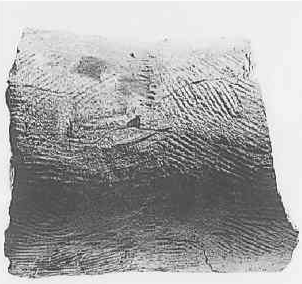
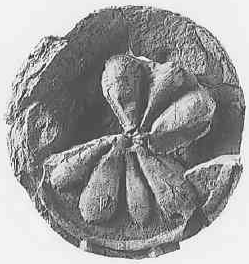




4

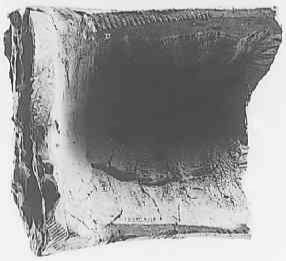
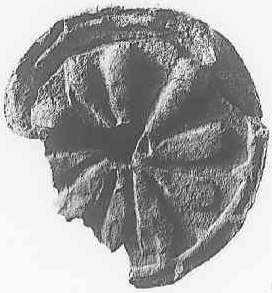


5

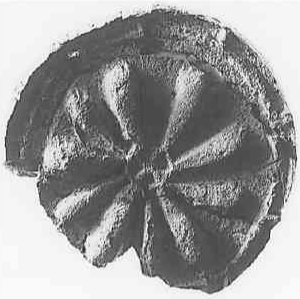
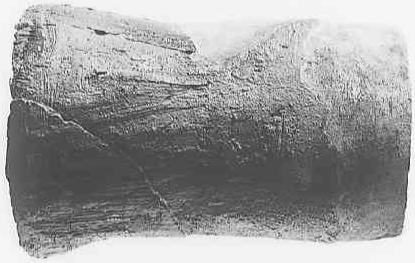



6

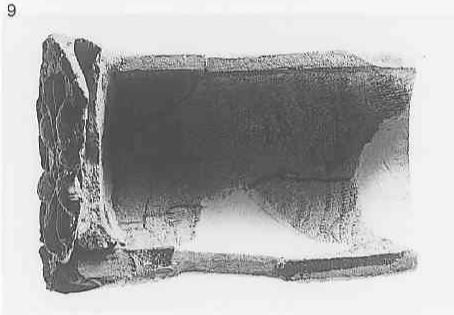
7

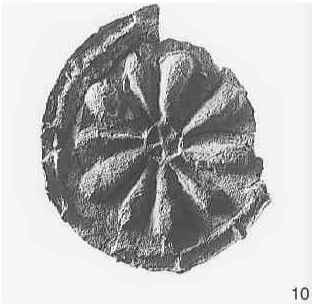
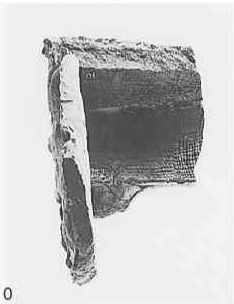



8

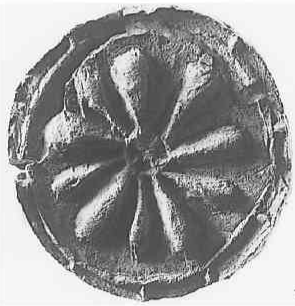



9

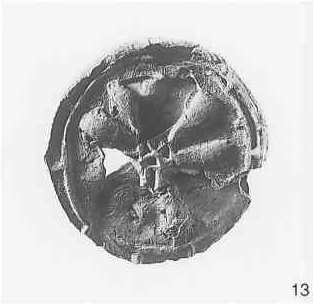
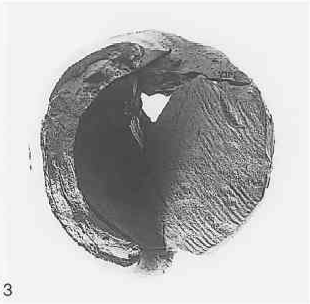


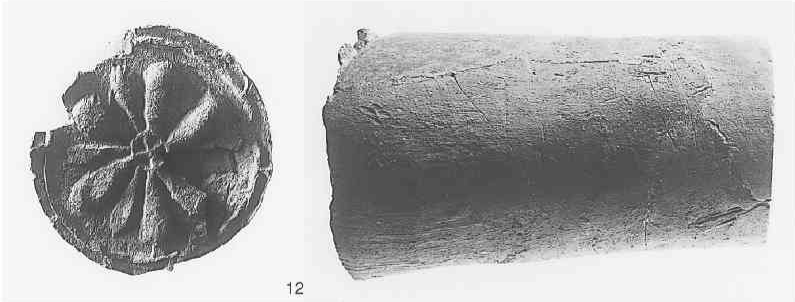
10

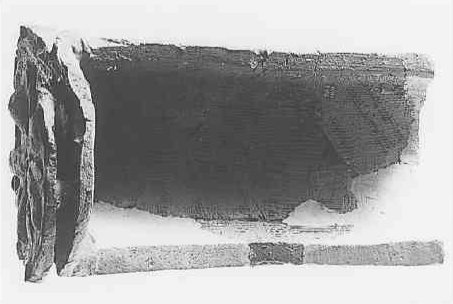


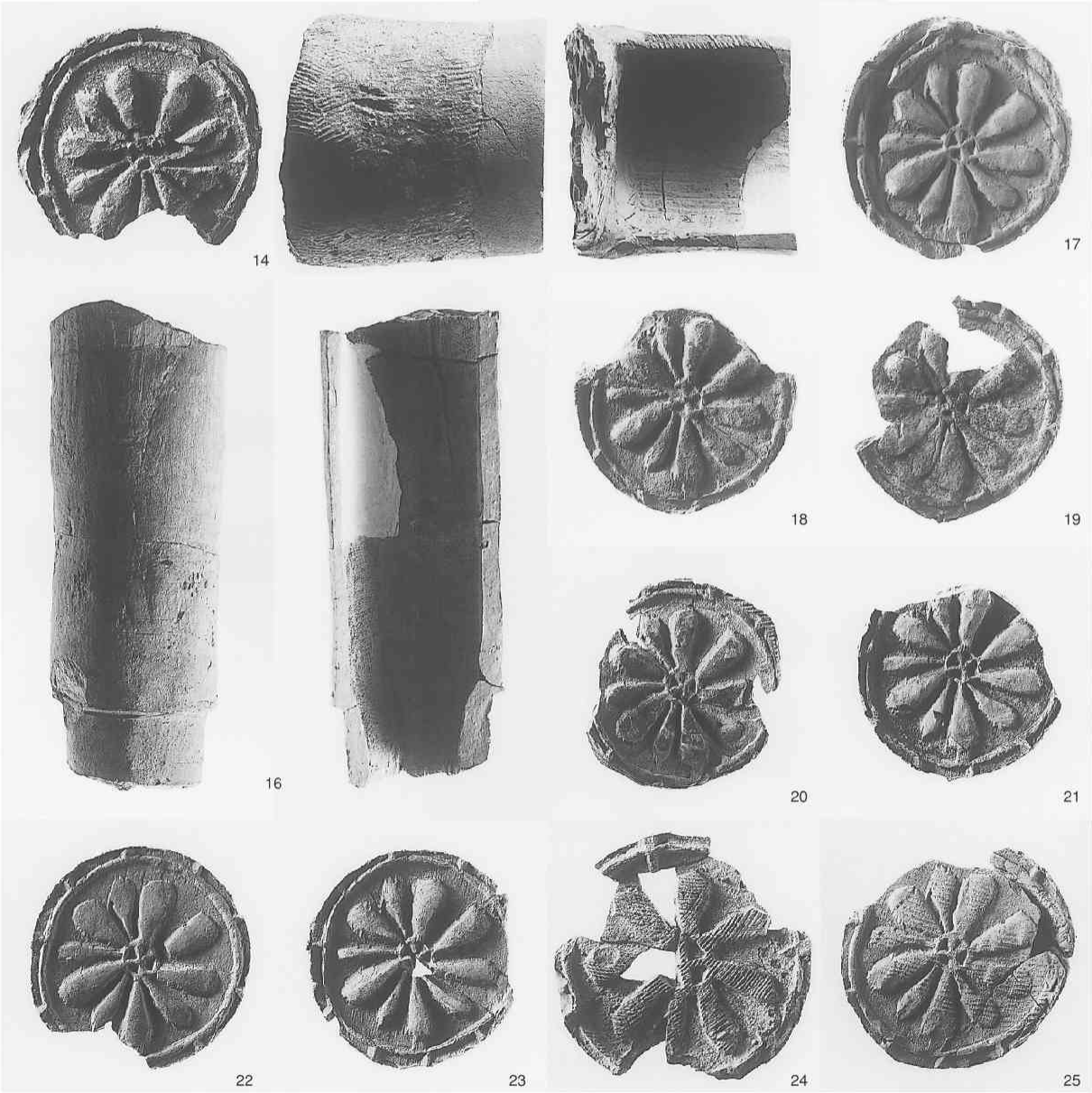
11

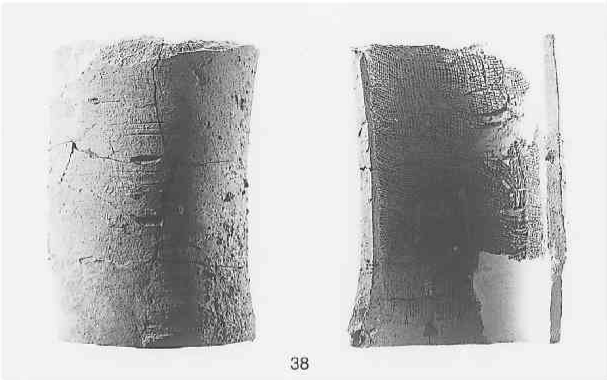
13

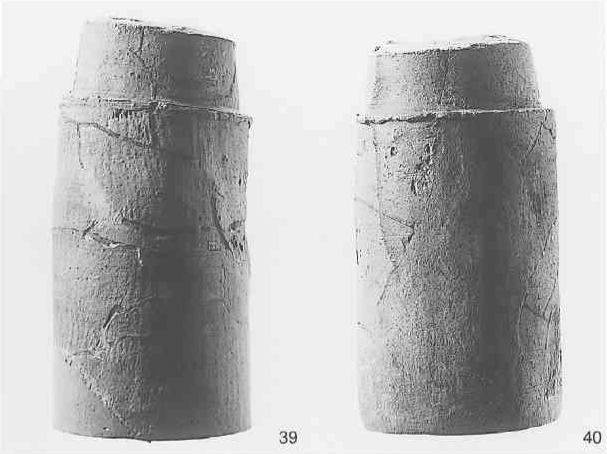

12




14
17
16
18
19
20
21
22
23
24
25

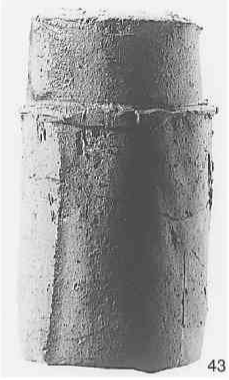
26
27
28
29
30
31
32
33
34
36
37
35

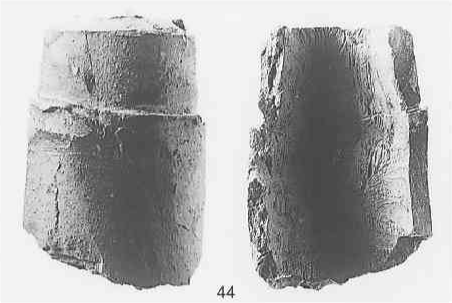

38

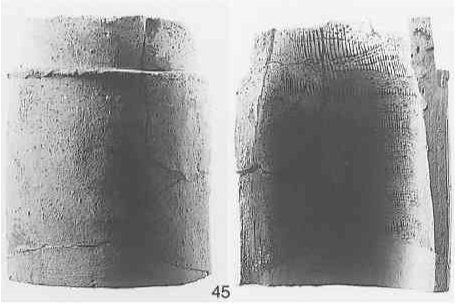

39 40

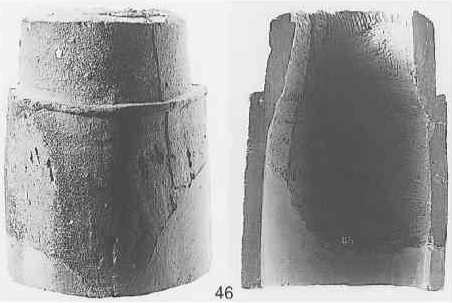
41

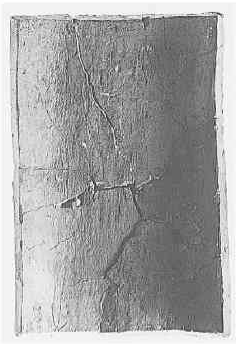
42


43

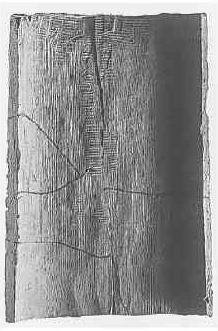

44


45


46

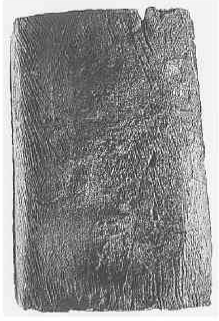


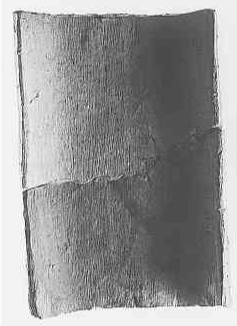
48



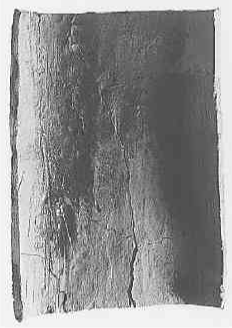
49

50


51



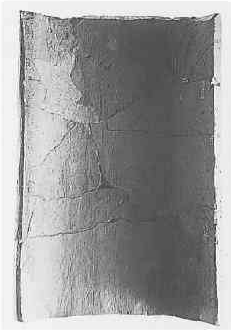
52



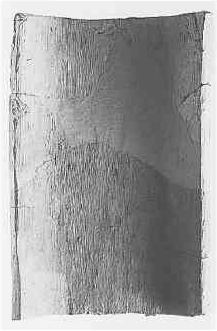
53

54

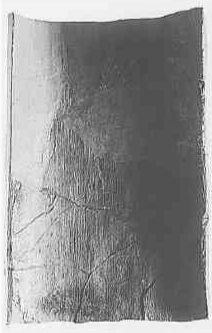
55



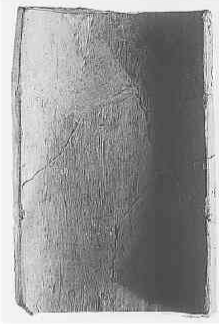
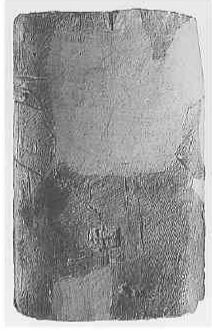
56



57

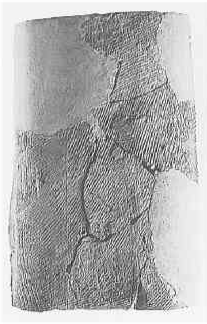


58



59

60

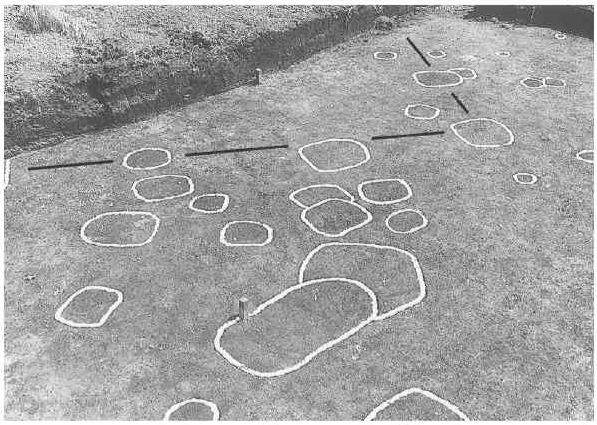
61

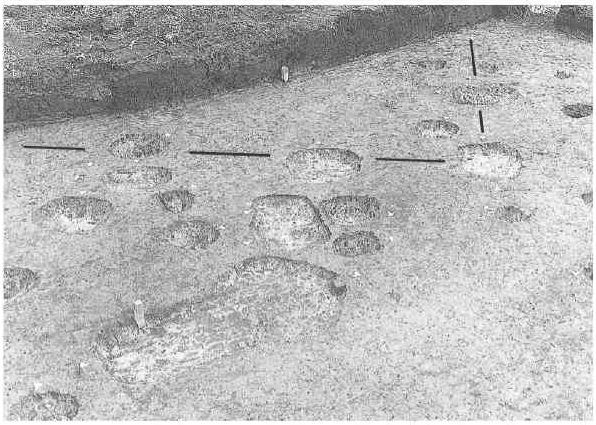

62

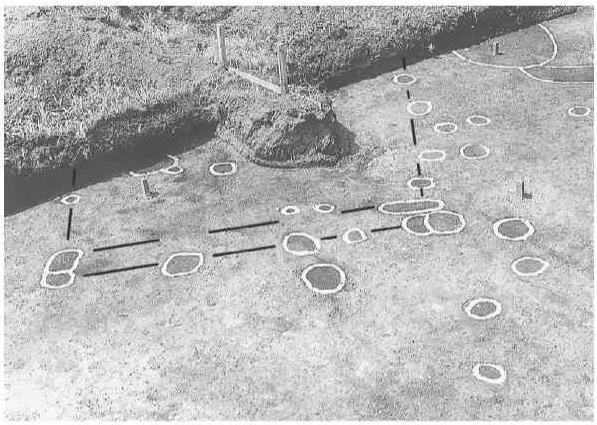
63

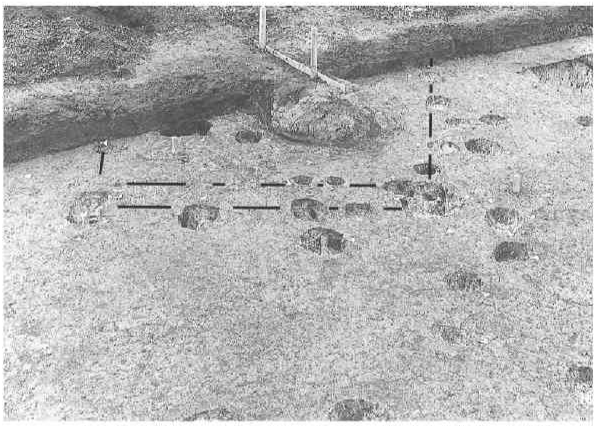
坂ノ下全景

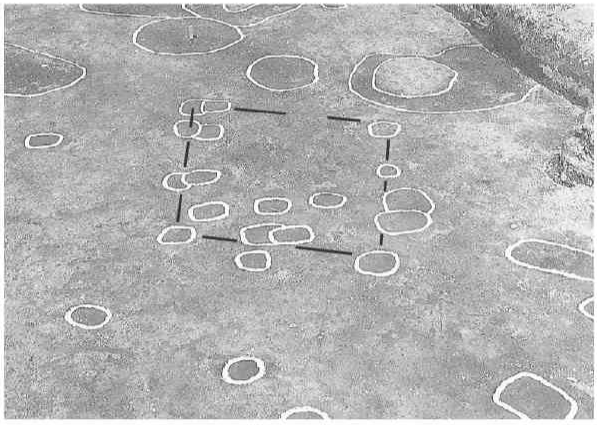
遺構検出状況

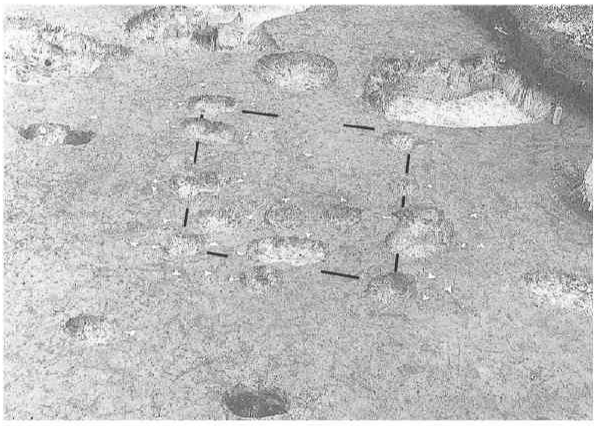

坂ノ下遺跡・SB1 掘立柱建物跡検出状況（西から）

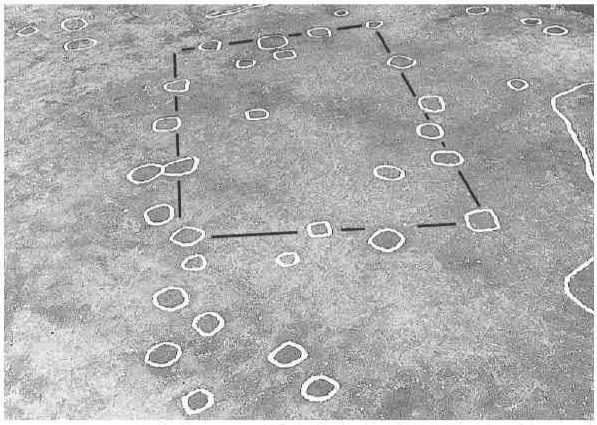

坂ノ下遺跡・SB1 掘立柱建物跡完掘状況（西から）

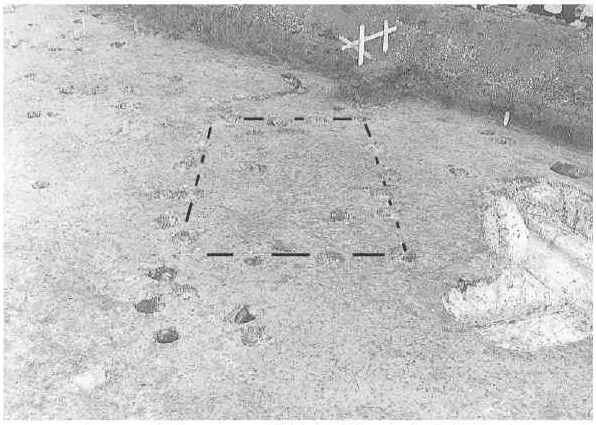

坂ノ下遺跡・SB2 掘立柱建物跡検出状況（東から）

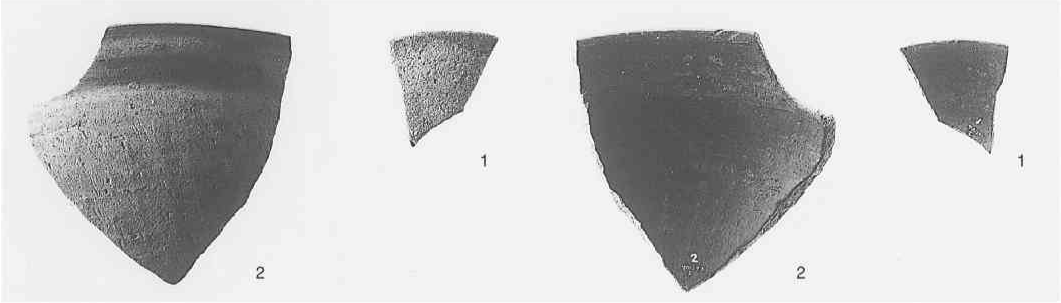

坂ノ下遺跡・SB2 掘立柱建物跡完掘状況（東から）

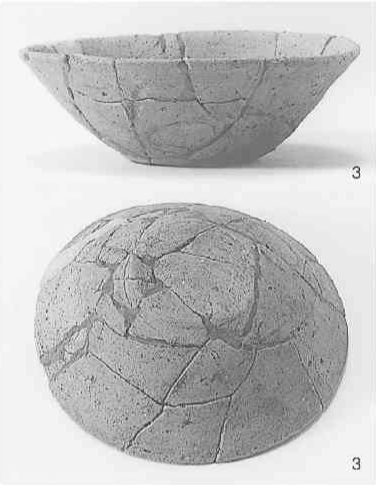

坂ノ下遺跡・SB3 掘立柱建物跡検出状況（南東から）

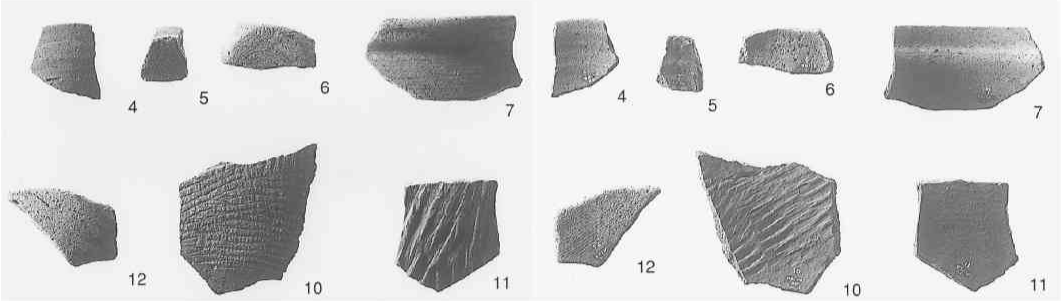

坂ノ下遺跡・SB3 掘立柱建物跡完掘状況（南東から）

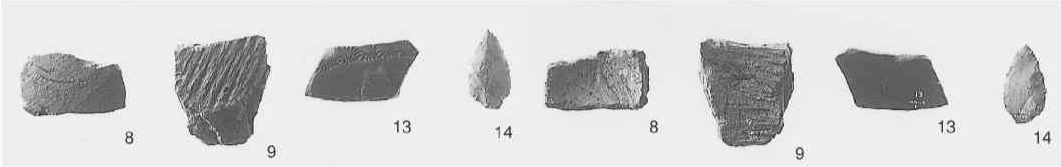

坂ノ下遺跡・SB4 掘立柱建物跡検出状況（南から）


坂ノ下遺跡・SB4 掘立柱建物跡完掘状況（南から）









坂ノ下遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いずみもりかまあと・さかのしたいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	泉森窯跡・坂ノ下遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第129集
編集者名	野尻侃
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL　023-672-5301
発行月日	2004年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
泉森窯跡（いずみもりかまあと）	山形県（やまがたけん）酒田市（さかたし）大字生石（おおあざおいし）字泉森（あざいずみもり）	06204	平成13年度登録	38度54分31秒	139度59分31秒	20010714～20010901	500	広域営農団地農道整備事業（飽海中央地区）
坂ノ下遺跡（さかのしたいせき）	山形県（やまがたけん）酒田市（さかたし）大字生石（おおあざおいし）字坂ノ下（あざさかのした）	06204	平成13年度登録	38度54分38秒	139度59分10秒	20010820～20010914	780	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
泉森窯跡（いずみもりかまあと）	泉森窯跡	平安時代	窯跡 土壙 灰原	瓦（軒丸瓦・丸瓦・平瓦） 須恵器（杯・皿・蓋・横瓶・壺・甕） 赤焼土器（小型甕）	国史跡「城輪柵跡」で出土した軒丸瓦と同笵の瓦が焼成された窯跡として注目される。 城輪柵跡創建危世紀初頭に比定だれ、同時に出土した土器類も造営時期の第Ⅰ期に当てられる。 （総出土箱数308箱）
坂ノ下遺跡（さかのしたいせき）	集落跡	平安時代 中世	堀立柱建物跡 土壙	須恵器（杯・甕） 石器	平安時代から中世にかけての集落の一部で簡易な建物跡を検出 （総出土箱数1箱）

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第129集

泉森窯跡・坂ノ下遺跡発掘調査報告書

2004年3月31日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話　023-672-5301
印刷　田宮印刷株式会社
〒990-2251　山形県山形市立谷川三丁目1410番1号
電話　023-686-6111